

(乙) 各論

○鳥取縣

(一) 鳥取縣の地勢

南部には、中國山脈連りて、三國山、蛭山、船通山(古の鳥上の峰或は篠の川上にし)等あり、中部には、白山火山脈に屬する休火山の大山(伯耆富士、中國地方の最高山、高、船上山、長年)の後醍醐天皇等あり。河流には、日野川(一八)、千代川、天神川等あり。湖には、湖山ノ池(周回約四里)、東郷池(周回三あり)あり。

(二) 鳥取縣の海岸

海岸は、率ね沙濱にして、屈曲に乏しきを以て、良港少し。北西方に一大沙嘴の突出するは、夜見ヶ濱(五里幅一里)にして、白沙青松風景絶佳の地なり。詩人稱して大天橋といふ。北端に境(開港)あり。南部に米子あり。

(三) 鳥取縣の重要産物及び産地

- (1) 工産……倉吉(倉)、木綿織(北西)、羽二重(鳥取、米子、倉吉)、生絲(北西)、紙(東)。
- (2) 農産……綿(廣島縣に次、鳥取地方)、葛(鳥取)。

(3) 畜産……牛馬(主に大山の嶺野、大山原)。

(4) 水産……鯛(主に北西)、海松(上)、板屋貝(上)、鰈(主に北東)、白珊瑚(海柳方の近海)。

(5) 鑛産……鐵(南西)。

(四) 鳥取縣の都邑

- (1) 鳥取市(三二)……因幡の北部、千代川の支流に沿へる池田氏(三十二)の舊城地にして、縣廳、興禪寺(藩祖の菩提所、日)あり。紙、葛粉を産す。北方、千代川の口に近く加露港あり。北東に岩井温泉(鹽類)あり。
- (2) 倉吉……伯耆の東部に於ける名邑にして、倉吉緋、生絲、羽二重、稻扱、酒等を産す。打吹山には、山名氏の遺址あり。
- (3) 米子(一九)……伯耆の北西部、中海湖に臨める名邑にして、山陰及び作州兩街道の衝に當たり、山陰本線及び境線兩鐵道の接續地とす。綿、生絲、木綿織の集散盛なり。北東の名和には、名和神社(別格官幣社、名和長年を祀る)あり。
- (4) 境……夜見ヶ濱の北端に位する開港場にして、境線鐵道の終點なり。

○島根縣

(一) 島根縣の地勢

古の所謂根の國の地にして、我が太古二大開化地方の一なり。中部及び南部には、白山火山脈に属する三瓶山(死火山にして直徑約半里、噴口と鳥地獄とあり)、青野山、中國山脈に属する船通山(説明前)等ありて、山地なれども、中國地方の最大河たる江川(り約三十里、備後三次より長)に在り。斐伊川(大川、二一里、出雲の)、神門川、高津川等の流域及び海岸地方は、概ね低原を成す。殊に斐伊川低原(神門を最とす)湖の大なるものには、海跡湖の中海湖(六里、同十)及び宍道湖(同十)あり。隠岐の國には、山多し。

(二) 島根縣の海岸。

南西部、石見潟斜面の海岸には、濱田(明)、温泉津等の港あるも、屈曲に乏し。北東部には、島根半島(長一里、約突出し)、地藏崎、十六島鼻、美保灣等の出入あり。中海湖岸には、境(明)、安來あり。湖中には、大根島あり。宍道の湖岸には、松江湖中には、嫁ヶ島ありて、風景佳なり。大橋川によりて、兩湖の水相通す。

(三) 隠岐島。

出雲の國より約四十五哩の北方に位する隠岐の國は、島前(南西の中島、西)、及び島後(北東の)より成り、後醍醐天皇の行在所址(西ノ島別府村及び島後)、後鳥羽天皇の行在所址(海士ノ島)あり。その北西約八十五哩の日本海には、朝鮮の鬱陵島、松島に近く竹島あり。

隠岐に属し、日本海戰の激戰場たり。

(四) 島根縣の重要産物及び産地。

- (1) 農産……米(斐伊川低原、麻、同上)、人蔘(大根島産の御種人蔘、或は出雲人蔘)。
- (2) 工産……出雲燒(松江市の東、樂山より産する樂山燒、或は御山)、石見半紙(濱田、瑯琊、玉造、出雲の)、玉(玉造、出雲の)。
- (3) 鑛産……銀(大森、同)、銅(同)、瑪瑙(南部、帝)、鐵(南部)。
- (4) 水産……錫(隠岐、錫の名、古來高し)、鱈(松江、世に松)。
- (5) 畜産……牛(三瓶山、裾野)。

(五) 島根縣の都邑。

- (1) 安來……出雲の北東部、中海湖岸の港にして、その南西、廣瀬附近には、毛利氏の尼子氏を攻めし富田月山城址あり。
- (2) 美保、關……島根半島の東端、美保灣に臨める港にして、古代、朝鮮の迎日灣との間、航通ありて、早く朝鮮の文物この地方に傳はりしもの少からず。今は、隠岐との間、汽船の便あり。
- (3) 西郷……島後の南東に位する隠岐第一の良港にして、錫の積出多く、島廳あり。

(四) 岡山縣の都邑。

- (1) 岡山市(九三)……旭川の下流に沿ふ中國地方第二の大都會(池田氏三十一)にして、兒島灣唯一の良港(三幡)を控へ、三鐵道(山陽本線、宇野線、中國鐵道)の便あり。縣廳第十七師團司令部(備前守相宇田秀家の城址に在り)、後樂園(日本三公)、第六高等學校、醫學專門學校ありて、綿絲、花筵、蠶表の集散地なり。
- 岡山市の東方には、和氣(和氣清盛の生地)伊部(備前燒の産地)伊里(池田光政の創設、閑谷塾あり)長船(古昔粟田口と共に名を得し所)等あり。
- (2) 津山(一六)……津山川に沿ふ美作第一の商業地(岡山縣第三)にして、雲齋織、足袋を産す。附近には、兒島高德の事蹟を以て知らるゝ院ノ庄あり。
- (3) 倉敷……備中東部の名邑にして、花筵、綿絲、蠶表、麥稈真田の取引多し。北東に吉備津神社(真金村に在る國幣中社にして、四道將軍の一な、高松城址(豐太閤の毛利所)あり。
- (4) 玉島(二〇)……備中の南部に位する縣下第二の名邑にして、麥稈真田、花筵を産し、讃岐の多度津と汽船を通ず。
- (5) 笠岡(一一)……備中南西部の都邑にして、麥稈真田、花筵、綿絲を産す。
- (6) 高梁……備中の中部、高梁川に沿へる都邑にして、麥稈真田、煙草を集散す。その北西に吹屋の吉岡銅山あり。

○廣島縣

(一) 廣島縣の地勢。

北部には、中國山脈(刈尾)あり。中國地方の巨流江川(五〇里、流域一萬三千町歩)は、霧の海の名ある三次盆地を流れ、横谷を形くりて石見に入る。三次の東方御神山には、神橋の奇景あり。蘆田川(備後の長、流二三里)太田川(三〇)は、南流して、一は備後灘、一は廣島灣に注ぐ。その下流地方には小低原あり。

(二) 廣島縣の海岸。

海岸は、屈曲に富みて、島嶼頗る多し。殊に廣島灣(安藝多)は、中國地方の良灣にして、倉橋島(本州地との間に平瀬あり)江田島(海軍兵學、校あり)嚴島(日本三景の一、ま)等の大島を有し、吳軍港、宇品港(日清、日露兩役の際、軍艦は、その灣岸に在り。備後灘には、中世、海賊の根據地たりし因、島及び絲崎(備前)忠海(要塞)あり。

(三) 廣島縣の重要産物及び産地。

- (1) 農産……綿(備前、備中、備後等の島)大麻(太田川、江ノ川流域、吉田は)備後煙草(福山、三)茶(北)

- (2) 工業……備後表(尾ノ道、第一、産額大分縣に次ぐ)、花筵(岡兩縣に次ぐ)、蚊帳(廣島市)、山繭織(同地及)、木綿織(福山)、傘(廣島)、罐詰(同上)、燐寸(廣島地方、兵庫、大阪)、金屬器(三保命酒(瓶)、酢(尾ノ)、半紙(大竹)、宮島細工(島))。
- (3) 水産……牡蠣(廣島灣の北西部、草津の近海、品質)、鹽(備後松永地、鯛(主に廣)、蝦(同上)、海苔(廣島灣の))。
- (4) 畜産……牛(主として北部、七塚原牧場あり)。
- (5) 鑛産……鐵(北部粟)、鹽(地方、帝國第三)。

(四) 廣島縣の都邑。

- (1) 福山(一、八)……備後の南東部、蘆田川の東岸に位する縣下第四の名邑にして、煙草、織物、花筵、壘表の取引行はる。
- (2) 尾道市(三、〇)……備後の南海岸に位する縣下第三の都邑、内海中著るしき港にして、酢を産し、肥料、備後表、花筵の大集散地なり。汽車及び汽船(中國及び)の便あり。附近の松永は、製鹽地を以て著はれ、南東の鞆(一、〇)は、内海の碇泊地にして、保命酒を産す。
- (3) 絲崎……備後の南西海岸に位する開港場にして、將來有望の地なり。西方の三原

(一、二)は、煙草、鑛物を産す。

- (4) 三次……備後の北西部、三次川(江川の支流)に沿ひ、山陰道に通ずる要路に當たりて、廣島縣北部の中心市場なり。南西の吉田(安)は、大麻産地の中心にして、郡山に毛利元就の城址及び墳墓あり。
- (5) 忠海……安藝の南東部に位する内海の碇泊地にして、その西方、竹原は、頼山陽、唐崎常陸介の出でし所なり。
- (6) 吳市(一、〇)……安藝の南部、廣島灣の東岸に於ける縣下第二の都邑(中國地方第一軍港所在地にして、吳線鐵道の終點なり。江田島(海軍兵學)、倉橋島を控へて、頗る要害の地を占め、第二海軍鎮守府造兵廠あり。その南方の穩戸(音戸)瀬戸は、平清盛の開鑿せし所なり)。
- (7) 廣島市(一、四、二)……安藝の南、太田川の三稜洲に在り。宇品線鐵道を以て宇品(日清兩戰役の際、軍隊の大輸送港たりし)と相通じ、水陸の便、自在を極む。東京市を距ること二百三十餘里。中國地方の最大都、淺野氏(萬石)の舊城地にして、縣廳、第五師團司令部(毛利輝元の城きし)、控訴院、高等師範學校、泉邸(淺野氏の庭園にして、饒津神社(淺野長政)等あり。市の重要産物を山繭織、罐詰(帝國)、蚊帳、傘等となす)。

(8) 嚴島(宮島)……廣島灣中三大島の一なる嚴島(俗に宮島といひ、周回七里)の西海岸に在り。島頂を彌山(五三六)といひ、眺望絶佳なり。嚴島神社(官幣中社、祭)の廻廊は、長さ百四十八間にして、平清盛の造營に係り、千疊敷(豊臣秀吉の遺)及び五重塔は、その附近の塔ヶ岡(毛利元就の陶晴)に在り。實に嚴島は、日本三景の一にして、有栖川大將宮の繪圖よりも見て驚きしいつくしまの句あり。

○山口縣

(一) 山口縣の地勢

本州の西端に位する地域にして、北東部には、中國山脈(寂地山、羅漢山、徳佐ヶ峯等)連りて山地多く、山代地方、徳地地方の稱あり。河流の瀬戸内海に注ぐ者には、岩國川(錦川といひ、長さ三十二里、本)佐波川、厚東川等あり。日本海に注ぐものには、阿武川あり。これ等河川の流域及び海岸には、低原あり。長門の秋吉臺高原には、著名なる石灰岩窟あり。域内また白山火山脈通するを以て、俵山(硫黄)川棚(硫黄)湯田(硫黄)等の温泉散在す。

(二) 山口縣の海岸

海岸は、屈曲に富み、瀬戸内海面(廣島灣及び)には、室津半島(室積)小野田半島等突出して、柳井津、徳山、三田尻等の港あり。大島(屋代島といひ、周回二)の北西、水勢急にして渦

流をなす所を大島瀬戸といふ。長門、豊前の間には、長豊海峡(下關海峡といひ、潮流の速に砲臺燈明臺の設あり。西部には彦島或は引島横はりて下關開港を包有す)ありて、瀬戸内海の西口を扼す。日本海面(瀬といふ)には、向津具半島出で、油谷灣を擁し、萩の遙か沖には、見島あり。その近海は、日露兩國海軍の激戦せし所なり。

(三) 山口縣の重要産物及び産地

- (1) 工産……岩國(縮)地方、半紙(岩國、徳)蚊帳(岩國)生絲(同)セメント(小野)硫酸(同)綿木綿(柳井津、大)陶器(萩、深川)甘露醬油(柳井津)。
- (2) 農産……防長米(南指の良米)夏蜜柑(萩)牛(南)。
- (3) 鑛産……石炭(長門の南東部有帆地方、大嶺には)安賀母尼及び黒鉛(鹿野)石灰岩(秋吉)銅(藏目)。
- (4) 水産……鹽(三田尻、平生地方、設岐)鯛(上ノ關、萩地方)鱈(日本海)鰯(三田尻、近海、廣島)鯨(仙崎)鮎(岩國川)。

(四) 山口縣の都邑

(1) 岩國(一)……周防の東部に位する名邑にして、岩國川、錦川に跨り、古歌に名高き岩國山を負ひ、岩國縮、蚊帳、半紙、生絲の取引多く、電氣鐵道の便あり。岩國川に架せ

らるゝ錦帯橋は、日本三奇橋の一にして、また算盤橋と稱せられ、半月形の五橋より成る。長さ百二十五間、延寶年間、吉川廣嘉の架設せしものなり。櫻の勝地、岩國公園(吉川氏の祖先を祀れる)、養老館址、義濟堂(織物生絲等の工場あり)、また著はる。

(2) 柳井津(一、二)……周防の南東海岸に位して、綿木綿(柳井)の集散多く、甘露醤油を産す。その西、東荷は、伊藤博文の出でし所なり。

(3) 徳山(一、三)……周防の南海岸に位して、海軍煉炭所の設あり。その西に陶晴賢の古城址あり。

(4) 防府(二、三)……周防の南海岸に在り。南部の三田尻は、防長米、鹽の大集散地にして、北部の宮市には、酒垂公園、松崎神社(神宮原道真、賽客多き)あり。その西、中、關(一、〇)には、鹽田多し。

(5) 山口(二、一)……周防の西部、鳳凰山下に在り。足利時代、京都と共に繁盛を極めし所にして、大内氏館址、鴻臚館址、山口公園(防長藩主の六銅像あり)、高等商業學校、縣廳等あり。輕便鐵道は、山陽本線の小郡驛より山口に通ず。その南、大内は大内氏の起りし所。大道は、大村益次郎の出でし所なり。

(6) 長府……長門の南西海岸に位し、下關市と相近し。干珠、滿珠の二島、前に横はりて、一勝區を成し、豊浦行宮址(仲哀天皇神功皇后)、忌宮神社(仲哀天皇)あり。附近の住吉神社(長門の一ノ宮、官幣中)は、この地方の名社なり。

(7) 下關市(五、八)……長門の南西、長豊海峡に臨める縣下第一の都會、對岸の門司と共に瀬戸内海西口に於ける重要な開港場(横濱、神戸、大阪、門司に次ぐ)にして、赤間ヶ關または馬關の名あり。米穀の取引の盛なること、東京、大阪に次ぎ、赤間硯(硯材、野田の北方)を名産とす。山陽本線鐵道こゝに終り、門司(分司)及び釜山(時約十一)との間に連絡船を通ず。赤間宮(神安徳天皇)、安徳天皇陵、平氏七盛塚、春帆樓(下關條約を締結せし所)等は、附近の壇浦古戰場(壽永四年即ち元暦二年)、御裳川と共に史上に名高く、また要塞の設あり。

今ぞ知る、みもすそ川の流に、は、波の底にも都ありとは、二位尼

(8) 萩(一、八)……長門の北部、阿武川の下流に沿へる毛利氏(萬石餘)の舊城地にして、夏蜜柑、萩焼(松本)の取引行はる。吉田松陰(社あり)は、この地の出にして、その松下村塾よりは、大村益次郎、高杉晋作その他維新の名士輩出せり。東光寺(毛利氏の菩提所、門の一、毛利三國老等の墓あり)は、この地方の名刹にして、その東方に藏目喜銅山、南西に深川俵山温泉及び大寧寺(大内義隆の墓あり)あり。

第六章 四國地方

(甲) 總論

(一) 四國地方の地勢

蝙蝠の兩翼を張るが如き四國の地は、本州島の約十三分の一に當たり、四國山脈(四水)阿蘇火山脈讃岐山脈等、域内に連なるが故に、山地多く、吉野川(六〇)等の流域及び海岸に僅少の低原あるのみ。

(二) 四國地方の山脈

- (1) 四國山脈……中部………ツルギ 劍山、イシノネ 石鎚山等。
- (2) 阿蘇火山脈……北部………高繩山、飯野山等。
- (3) 讃岐山脈……北東部………ウツミ 雲邊寺山等。

(三) 四國地方の二大高山

- (1) 劍山………高さ七千四百餘尺。山上に劍神社ありて、夏日登山するもの多し。
- (2) 石鎚山………高さ六千九百餘尺。石鎚山或は伊豫の高根にして、石鎚神社あり。

(四) 四國地方の重要なる河川

- (1) 紀伊水道に注ぐもの………吉野川(六〇里)、那賀川(三六)。
- (2) 土佐灣に注ぐもの………ウツミ 物部川(一四)、ニ 仁淀川(三三)、ワタリ 渡川(四五、十川)。
- (3) 瀬戸海内に注ぐもの………ヒラ 肱川、ヒメ 重信川。

吉野川は、四國第一の巨流にして、流域二四〇方里に及び、渡川、那賀川、仁淀川と共に四國の四大川とす。

(五) 四國地方の低原

諸川及び海岸には、低原あれども、殊に吉野低原及び讃岐低原を最とす。

(六) 四國地方の海岸

四國は、面積の割合に海岸の屈曲多きこと、帝國中、九州(周圍八)に次ぎ、周圍四百五十餘里あり。

- (1) 北海岸………瀬戸内海面の播磨灘、水島灘、ヒメ 燧灘(或は豫)、イ 硫黄灘(或は伊)に瀕する部には、三崎、高繩半島(その岬角を大)等の突出あれども、率ね遠淺にして、良港に乏しけれども、製鹽業に適す。近海には、島嶼多し。
- (2) 南海岸………太平洋面には、室戸岬及び蹉跎岬(足摺岬ともいひ、附近)との間の半圓狀をなす大灣入を土佐灣といひ、天武天皇の時地震の爲めに陥没せしものなり。

といふ。要するに南海岸には、岩嶺多くして、良港に乏しく、加ふるに風浪荒きが故に、船舶の碇泊に便ならず。近海には、島嶼少く、日本海流その沖を流る。

(3) 東海岸……紀伊水道の面には、北に瀬戸内海南東の入口に當たる、鳴門海峡(深き所は)約六、七十尺に達し、潮流の速力一時間約三里にして、大鳴門、小鳴門の險あり。を控へ、南に蒲生田岬の突出あり。その前面に在る島嶼を阿波の松島といふ。

(4) 西海岸……豊後水道の面には、北に佐田岬斗出して、瀬戸内海南西の入口たる豊後海峡(早吸海峡)を成す。八幡濱、宇和島等の港灣頗る多し。

(七) 四國地方の著名なる島嶼。

島嶼は、北面に多くして南面に少く、西面に多くして、東面に少し。小豆島最も大にして、大島(高繩半島との間に潮流、急なる來島海峡を成す)大三島等これに注ぐ。鹽飽七島、興居島(伊豫の)、日振島(慶應二年藤原純友、沖島、築散地)等また著はる。

(八) 四國の交通。

(甲) 陸路。

(1) 普通道路。

四國に於ける主要なる普通道路は、海岸及び河岸を通ず。

(2) 鐵道。

讃岐 線高松—琴平 德島 線德島—船戸 伊豫鐵道(高濱、河原、立松、松、古河、一番町、間、松)
別子鐵道(別子—新居濱)
土佐の高知市附近には、電氣鐵道の設あり。

(乙) 水路。

四國に於ける海運は、主として大阪商船會社の司る所にして、高松、多度津、德島、浦戸(高知等)を主要なる寄港地とす。主要なる航路は、次の如し。

大阪德島線	大阪下關線	大阪内海線	大阪山陰線
宇品高濱線	大阪四國門司線	大阪高松線	大阪高知線
高知宿毛線	大阪甲浦線	高知甲浦線	玉島多度津線
大阪宿毛線			

その他、東豫運輸會社(今治)の今治尾、道線、宇和島運輸會社の宇和島、大阪線、石崎汽船會社の三津濱尾、道線、住友汽船の新居濱尾、道線及び新居濱、大阪線、鐵道院の高松、宇野線等あり。

(九) 四國地方の主要なる海底電線。

讃岐備前間 伊豫安藝間 伊豫豊後間

(一〇) 四國地方の主要なる燈臺所在地。

多度津 興居島 浦戸

(一一) 四國地方の氣候。

四國の氣候は、概して温暖にして、南部海岸地方の如きは、殆んど積雪を見ざる所あり。雨量は、四國山脈の北部に少くして、南部に多し。

(一二) 四國地方の重要工業地。

徳島縣………徳島市(織物) 撫養(織物)

香川縣………高松市(漆器) 引田(醬油) 九龜市(扇)

愛媛縣………松山市(織物) 大洲(蠶紙産地) 砥部(陶器) 今治(織物) 八幡濱(同上)

高知縣………伊野(紙産地)

(一三) 瀬戸内海地方の製鹽業盛なる理由。

(1) 沿海岸一帯遠淺の所多きこと。

(2) 瀬戸内海は、本州、四國九州の三大島間に介在し、恰も一大蕩の如く、外海と通ずること少きが故に、自ら濃厚なる鹽分を有すること。

(3) 瀬戸内海は、中國山脈紀伊山脈、九州北部山脈等の爲めに外海より來たる水蒸氣を遮るるによりて、雨量甚だ少く、晴天の日多きこと。

(4) 氣候温暖にして、蒸發を盛ならしむること。

(一四) 十州鹽田。

本州島の南西部なる播磨(兵庫縣備前備中(共に岡山縣))備後(廣島縣)周防(山口縣)の七ヶ國と四國島の北東部、阿波徳島縣、讃岐香川縣、伊豫愛媛縣の三ヶ國とを十州鹽田といひ、本邦中、製鹽業の最も盛なる所なり。殊に香川、廣島、山口の三縣は、その産額最も多く、赤穂鹽、播磨、齊田鹽、阿波は、良鹽を以て稱せらる。

(一五) 四國地方の區劃。

(一六) 四國地方の縣廳所在地。

四國は、南海道大部の地にして、阿波、讃岐、伊豫、土佐の四ヶ國を含有す。これを徳島、香川、愛媛、高知の四縣に分つ。

縣名	管轄	面積	一方里の人口	縣廳所在地
徳島	阿波	二六九	二六七九	徳島市
香川	讃岐	一一〇	六五八五	高松市

愛媛	伊豫	三六二	二九一八	松山市
高知	土佐	四八四	一三八三	高知市

(二七) 四國の市制地。

(二八) 四國に於ける人口五萬以上の都會。

- (1) 德島市(六、五)
- (2) 松山市(四、四)
- (3) 高松市(四、二)
- (4) 高知市(三、八)
- (5) 高知市(二、七)

(乙) 各論

○ 德島縣

(一) 德島縣の地勢。

德島縣即ち阿波(古の粟)は、北部には、讃岐山脈(空海の草創に係る雲邊寺山等)中部には、四國山脈(劍山)連りて山地多し。劍山は、四國の高峯にして、海拔七千四百餘尺。山上に劍神社ありて、夏日登山者多し。その西、祖谷山地方は、祖谷川(吉野川の支流)に沿へる山郷にして、壽永四年(1185)壇浦の役後、平氏の落武者の隠遁せし所ありと傳へ、人情風俗、他郷と異なるもの多し。深さ約十八丈の峡谷には、善徳橋(幅四尺長さ)といへる蔓橋を架す。縣内二低原あり。

一は、吉野川(第一の長流、延長六十里)の縦谷地、所謂北方にして、一は、那賀川(三六)の縦谷地にして、南方と稱せらる。

(二) 德島縣の海岸。

東部海岸は、屈曲に富み、蒲生田岬附近には、島嶼散在し、風景絶佳なり。世にこれを阿波の松島といふ。北東部と淡路島との間には、潮流の急なるを以て著はるゝ鳴門海峡あり。南海岸には、絶壁をなす所多く、八坂八濱の險路あり。

(三) 德島縣の重要産物及び産地。

- (1) 農産……藍(吉野川の下流地方、奥野を本場、脇町を取引地)、煙草(池田)。
- (2) 工産……阿波縮(織織としいひ、徳島市、撫養地方)、綿(フランネル)(同地)、紺(同地)、足袋(撫養)、砂糖(南方)。
- (3) 水産……齋田鹽(撫養地方、赤穂鹽)、鱈(東海岸、近海、魚)、鯛及び和布(鳴門)。

(四) 德島縣の都邑。

(1) 德島市(六、五)……吉野川の三稜洲に跨れる四國第一の都會(蜂須賀氏)にして、縣廳、忌部神社(國幣神社、祭)等あり。德島線この地に起りて西走し、また神戸、大阪との間汽船の便あり。

- (2) 撫養(一、八)……德島縣第二の名邑にして鳴門海峡に面ひ、織物、足袋を産し、齋田鹽の取引多し。附近に土佐泊(古昔土佐の通路)池谷(土御門天皇御)勝瑞(細川氏の)等あり。
- (3) 小松島(一、三)……德島縣第三の名邑にして、德島市の南に位し、富岡地方と共に砂糖、酒を産す。浦生田岬の近海は、縣下著名の漁業地とす。

○香川縣

(一) 香川縣の地勢

香川縣(明治二十一年愛媛縣より分離)即ち讃岐の國には、讃岐山脈、阿蘇火山脈等あれども、海岸には、低地多く、四國中、廣大なる讃岐低原を成す。飯野山(力山または讃岐宮)象頭山(金刀比羅)五劍山(八栗山とも山容頗る奇なり)等は、高からざるも、世に聞ゆ。河流は、皆な小なれども、満濃の池(空海の穿ちし)等、數多の溜池(四、二、八、〇〇町步)ありて、灌漑甚だ便なり。

(二) 香川縣の海岸

海岸は、頗る屈曲に富み、四國屈指の良港たる高松及び多度津の兩港あり。立てる牛の形をなせる小豆島は、四國の最大島にして、星ヶ城山の西に四國の耶馬溪と稱せらるゝ寒霞溪(神懸)の絶勝あり。鹽飽七島その西方に羅列す。

(三) 香川縣の住民

香川縣は、東京府、大阪府、神奈川縣に次ぎて、帝國中、人口の稠密せる地方にして、一方里約六千六百人の住民あり。本縣は、明治二十一年愛媛縣より獨立分離せしものなれども、歴史上、東部の高松藩(松平)及び西部の丸龜藩(京極)の領土によりて、今尙ほ東讃及び西讃に分れ、人情を異にす。

(四) 香川縣の重要産物及び産地

- (1) 工産……麥(真田)山(小豆島、高松市地方)岡(保多織)市(高松)文綺塗(讃岐塗とも)燐寸(同地方)國第(醬油)小豆島(砂糖)引田(地方)讃岐の三盆白と稱せられたり(古昔鹽)素麵(小豆)紙(同)團扇(丸龜)市。

- (2) 水産……鹽(阪出地方)鮭(丸龜七)。
- (3) 農産……米(入口に比し)鶏卵(一ヶ年八百萬)。
- (4) 鑛産……石材(小豆)。
- (5) 畜産……牛(面積の割合に多)。

(五) 香川縣の都邑

- (1) 引田……縣の南東海岸に在る漁舟の碇泊地にして、砂糖、醬油を産す。
- (2) 高松市(四、二)……北海岸、四國第三の都會、讃岐線鐵道の起點にして、内海通ひ及

び鐵道連絡の汽船出入し、保多織、文綺塗、燐寸、麥稈、真田産地の中心なり。縣廳、高松城址あり。栗林公園(日本三公)は、その名高く、東方には屋島の源平古戰場、五劍山の奇勝あり。西方には、崇徳天皇の陵ある白峯綾の松山あり。

(3) 丸龜市(二、七)……縣の北海岸に位する本縣第二の商業地にして、團扇、圓座等を産す。その北東の阪出(一、五)は、帝國屈指の製鹽業地にして、南西の多度津は、瀬戸内海の重要商港なり。

(4) 善通寺(一、八)……縣の西部第十一師團司令部ありて、弘法大師(空海)は、この地方の人なり。南方に琴平(道の終點)あり。象頭山腹の金刀比羅宮(國幣神社、祭神大物主神、崇徳天皇、俗稱金比羅大権現)なり。參詣者の爲めに常に賑ふ。南西に觀音寺(一、三)の名邑あり。

○愛媛縣

(一) 愛媛縣の地勢

愛媛縣即ち伊豫(古の愛)には、四國山脈(石鎚山、阿蘇火山脈)阿蘇火山脈(河野氏の城址)連りて、山地八分を占む。海岸及び肱川、重信川の流域には、小低原あり。重信川流域の道後低原は、西條地方の道前低原と共に著はる。石鎚山(石鎚山或は伊豫の高根と)は、四國の靈山にして、山上に石鎚神社あり。夏日登山者多し。

(二) 愛媛縣の海岸

愛媛縣は、燧灘(豫讃灣)、硫黄灘(伊豫灘)、豐豫海峽(早吸海峽といひ、瀬戸内海、西の入り)豐後水道に瀕して、高繩半島(その岬角を大佐田岬(長さ約四十三里、幅廣き所半里)の大斗出あり。南西海岸の外、幸ね遠淺にして、鹽田に適すれども、船舶の碇泊に不便なり。島の大なるものを大三島、大島(高繩半島との間に來島、興居島(伊豫の)とし、日振島は、天慶二年939)藤原純友の亂せし所なり。

(三) 愛媛縣の重要産物及び産地

- (1) 鑛産……銅(足尾小阪に次げる帝國第三の銅山別安、賀母、尼市ノ川、嶺山)。
- (2) 工産……伊豫紉(松山市、八幡濱地方、福、白木綿(大、三)、綿フランネル(今、楡蠟(大洲、内子地方、帝國第二)。
- (3) 水産……鹽(波止濱、鯛(山口縣)に次ぐ)。

(四) 愛媛縣の都邑

- (1) 新居濱……燧灘に臨める港にして、別子との間、汽車の便あり。南西の道前地方に小松、西條の都邑あり。
- (2) 今治(一、六)……高繩半島の東海岸に在りて、綿フランネルを産し、尾道との間、汽船

を通ず。附近に脇屋義助の墓、波止濱の鹽田あり。

(3) 松山市(四、四)……四國第二の都會、四國鐵道の中心にして、三津ヶ濱(市、〇松山)及び

高濱(宇品と汽)を控へ、縣廳、城山(天主閣)あり。伊豫緋、砥部焼、素麵の取引多く、四國の

靈泉道後温泉(湯に亞爾加里、往古の所謂伊豫の)に程近く、その南の星岡は、土居、得能兩

氏の義兵を擧げし所なり。

(4) 大洲……肱川の畔に在る、檣蠟、紙の集散地にして、長濱は、その積出の港なり。

(5) 八幡濱……宇和島(一、二)と共に、豊後水道面の良港にして、織物を産し、宇和島運輸

會社、大阪商船會社の汽船常に往來す。

○高知縣

(一) 高知縣の地勢

本縣(土佐)は、南海に偏在し、且つ北部には、四國山脈に屬する瓶ヶ森山(高き約三千尺)三榜山等の山嶺ありて、全國の約九分は、山地をなすが故に、陸路の交通便ならず。従ひて住民は、質朴豪健なる風あり。河流の著るしきものを仁淀川(三三、渡川(四五、四萬)といひ、仁淀川の流域には、高知低原あり。本縣の河川には、野中兼山の遺工多し。氣候は、温暖にして雨量多し。

(二) 高知縣の海岸

南部は、土佐灣(天武天皇の時、地震の爲めに臨み、同灣の左右には、室戸岬及び足摺岬(蹠岬)あり。足摺岬の附近には、龍串の奇勝あり。

(三) 高知縣の重要産物及び産地

(1) 工産……土佐半紙(仁淀川の上流地方より産する楮(帝國第一)及び三極(帝國第一))

(2) 水産……土佐節(南海岸地方、真好なること)、帝(鯉(帝國第三)、珊瑚(帝國第一)、近海)、鰯、鯨(近海)。

(3) 林産……竹材、杉、檜、樟材(共北地)。

(四) 高知縣の都邑

(1) 中村……縣の南西、渡川の畔に在り。昔時、土佐一條氏の國司たりし所なり。その南西、宿毛は、珊瑚の取引を以て著はる。

(2) 須崎……南海岸に位する本縣第一の良港にして、仁淀川流域の伊野と共に製紙を業とするもの多し。

(3) 高知市(三、八)……四國第四の都邑、山内氏の舊城地にして、縣廳あり。維新の際この地方より俊傑輩出し、薩長土肥の名を得たり。風景に富む、吸江によりて浦戸港と通ずるも、海水淺くして、汽船の碇泊に便ならず。伊野との間には、電車を通ず。東方

の赤岡安藝は名邑にして、北東には紀貫之の居館址(國北)、長曾我部氏立脚の地(阿)あり。

第七章 九州地方

(甲) 總論

(一) 九州地方の地勢

九州島(古の筑)は、我が國第四の大島(三方三)にして、南北に長くして、東西に狭し。北部には九州北部山脈(筑紫山脈、肥前)阿蘇火山脈あり。南部には九州南部山脈、霧島火山脈あり。火山脈の通する所には、温泉散在す。低原は、筑後川(筑紫二郡)川内川(三二)等の河川の流域及び海岸に在り。殊に筑後低原、肥後低原、筑前低原著はる。要するに九州は、中央部に高くして、諸川の分水嶺を成す。

(二) 九州地方の山脈

- (1) 九州北部山脈……北部……雷神山、背振山、寶満山、英彦山等。
- (2) 九州南部山脈……南部……祖母山、市房山等。
- (3) 阿蘇火山脈……北部……阿蘇山、九重山、由布山、鶴見山等。

(4) 霧島火山脈……南部……霧島山、櫻島御岳、開聞山(海門)、宮浦岳、湯灣岳等。

(三) 九州地方の三高山

祖母山(六千五百餘尺) 宮浦岳(六千三百餘尺) 市房山(六千餘尺)

(四) 九州地方に於ける著名の火山

霧島山(五千八百餘尺) 阿蘇山(五千五百餘尺) 櫻島御岳(三千七百餘尺) 開聞山(三千餘尺)

(五) 九州地方の三大低原

筑後低原 肥後低原 筑前低原。

(六) 九州地方の重要な河川

- (1) 瀬戸内海斜面……大野川(二六)、山國川(二三)、大分川(二三)、驛館川(二二)。
- (2) 太平洋斜面……美々津川(二八)、大淀川(二六)、五箇瀬川(二六)、佐土原川(二〇)、高鍋川(一九)。

(3) 東海斜面……筑後川(三五)、川内川(三二)、球磨川(三九)、緑川(二四)、菊池川(一八)、白川(一六)、矢部川(一四)。

(4) 日本海斜面……遠賀川(一五)、松浦川(一三)。

殊に筑後川は、九州第一の巨流にして、長さ三十五里、流域一八五方里、灌漑地三萬一

千町歩に及び、世に筑紫二郎と稱す。川内川、球磨川(日本三急流の第一)、美々津川これに次ぐ。

(七) 九州地方の海岸

九州は、日本海(支海)、瀬戸内海(周防)、太平洋(豊後水道、日向)に面し、面積の割合に海岸の出入多きこと、帝國の諸大島に冠たり。殊に肥前の半島部を然りとす。半島には、肥前半島(東松浦、西松浦)、宇土半島、薩摩半島、大隅半島、國東半島等あり。著名の灣には、別府灣(大分灣)、志布志灣、鹿兒島灣、八代灣、有明灣、筑紫灣、千々岩灣、大村灣、鯛浦、伊萬里灣、唐津灣、博多灣等あり。

(八) 九州地方の島嶼

九州島の北西に壹岐對馬の二大島ありて、朝鮮對馬壹岐の三海峡を形成す。對馬上下兩島の間には、淺海灣あり。肥前半島は、平戸海峡を隔て、平戸島と相對し、五島列島その南西に羅列す。島原半島は、早崎海峡を隔て、天草諸島と相對す。その沖を天草灘といふ。薩摩の西には、領諸島あり。また南には、川邊十島あり。その實七島の近海を七島灘といひ、海上風波荒し。大隅半島は、大隅半島を隔て、種子、夜久の二大島を控ふ。奄美諸島、沖繩列島、南西に連りて、壱灣島に迫らんとす。就中、種子島、夜久島、川邊十島、奄美諸島等を總稱して、薩南諸島と稱す。これ等の諸島には、霧島山脈の通する所多く、日本海

流は、九州の南部近海を流れ、對馬海流は、西部近海を流る。

(九) 九州地方の主要なる鐵道

- 鹿兒島本線(門司—鹿兒島) 大藏線(小倉—大藏) 室木線(遠賀川—室木)
 - 篠栗線(博多—篠栗) 三角線(宇土—三角) 長崎本線(鳥栖—長崎)
 - 唐津線(久保田—西唐津) 伊萬里線(有田—伊萬里) 佐世保線(早岐—佐世保)
 - 豊州本線(小倉—柳井浦) 田川線(行橋—添田) 宮床線(後藤寺—宮床)
 - 大分線(柳井浦—大分) 筑豊本線(若松—上山田) 伊田線(直方—伊田)
 - 幸袋線(小竹—幸袋) 長尾線(飯塚—長尾) 博多灣鐵道(酒戶—志免)
- その他、大津(熊本)地方には、輕便鐵道あり。門司、黑崎間及び大分、別府間には、電氣鐵道あり。

(一〇) 九州地方の主要なる航路

(1) 大阪商船會社

- 大阪下關線 大阪内海線 下關佐伯線 尾ノ道別府線
- 大阪四國門司線 大阪沖繩線 大阪基隆線 大阪鹿兒島線
- 横濱打拘線 大阪仁川線 大阪清津線 神戸基隆線

米國線(香港マカオ) 大阪安東線 大阪大連線 横濱大連線
 大阪天津線 長崎朝鮮大連線

(2) 日本郵船會社。

神戸基隆線 佐世保旅順線 歐洲線(横濱スアン) 濠洲線(横濱メル)
 香港シアトル線 ホンベイ線 横濱上海線 神戸浦鹽斯德線
 神戸北清線 横濱北清線 神戸朝鮮北清線 神戸上海線
 横濱大連線

(3) 東洋汽船會社。

香桑線(香港スアン フラ) 南米線(香港パルバ)

(一) 九州地方に於ける主要なる燈臺。

部崎(豊前) 若松(筑前) 博多(同上) 大分(豊後) 地藏崎(同上) 大島(日向)
 佐田岬(大隅) 釣掛崎(薩摩) 島原(肥前) 口津(同上) 伊王島(同上) 大瀬崎(日向)
 呼子(同上) 神崎(對馬) 鰐浦(對馬)
 (二) 九州地方の主要なる海底電線。
 豊後伊豫間 豊後周防間 豊前長門間 肥前壹岐對馬釜山間

長崎浦鹽斯德間 長崎上海間 長崎基隆間 長崎福江間
 大隅種子夜久間 大隅沖繩基隆間 肥前巨文島間 串木野上飯島間

(三) 九州地方の氣候。

氣候は、概して温暖なれども、南部地方は、緯度の低きと、日本海流の影響とを受けて高温多湿なり。殊に琉球地方は、低地には、霜雪を見ること少し。九州南部地方及び奄美諸島、琉球列島は、臺灣と共に、我が國中、雨量の多き所なり。

(四) 九州地方の主要なる工業地。

福岡縣……福岡市(織物、綿絲) 小倉市(織物、紙) 久留米市(織物、綿絲) 柳河(酒、糖)
 枝光(金屬)
 佐賀縣……有田(陶磁) 佐賀市(織物) 唐津(陶磁)
 長崎縣……長崎市(細工) 島原(蠶糸)
 熊本縣……熊本市(織物) 八代(蠶糸)
 大分縣……杵築(蠶糸、蠶産) 生蠟(田) 宇佐(織物)
 宮崎縣……都(織物) 高岡(紙)
 鹿兒島縣……鹿兒島市(織物、陶磁器) 名瀬(織物) 阿久根(酒) 國分(草)

沖繩縣……那覇區及び首里區(織物、漆器、燈籠、酒、砂糖等)

(二五) 九州地方の主要なる鑛業地

- (1) 石炭……筑豊炭田及び三池炭田は、日本第一の石炭産出地にして、佐賀縣(松浦川)長崎縣(高島)これに次ぐ。熊本縣の天草島よりは、無煙炭を産す。
- (2) 銅……宮崎縣の日平及び檳峯鑛山最も著はれ、その産額多きこと秋田、朽木、愛媛、岡山の四縣に次ぐ。大分縣(木浦尾平)よりも、またこれを産す。
- (3) 金……鹿兒島縣は、帝國第一の金産地にして、牛尾、大口、芹ヶ野、山ヶ野、鹿籠等の諸鑛山より産す。長崎縣(上波佐見)また著はる。
- (4) 銀……鹿兒島縣(主とし)は、秋田、岐阜、兵庫、島根、福島(第五縣)に次げる。銀産地にして、九州地方に冠たり。
- (5) 錫……鹿兒島縣の錫山最も著はれ、日本本部産出の約十分の九を占む。
- (6) 亞鉛……長崎縣に多く、岐阜、山形の兩縣に次ぐ。
- (7) 硫黃……大分、鹿兒島の兩縣に最も多く、熊本縣これに次ぐ。
- (8) 磷酸石灰……宮崎縣に多し。
- (9) 明礬……大分縣の鶴見山より産出す。

(10) 陶土……熊本縣の天草島産最も佳なり。

(二六) 九州地方の主要なる畜産地

- (1) 牛……大分縣、鹿兒島縣に多し。
- (2) 馬……鹿兒島縣は、帝國第一の馬の産地にして、熊本縣(帝國第三)これに次ぐ。
- (3) 羊及び豚……沖繩縣は、帝國の主産地にして、鹿兒島縣(帝國第二)これに次ぐ。

(二七) 九州地方の區劃

(二八) 九州地方の縣廳所在地

九州地方は、西海道の地にして、筑前、筑後、肥前、肥後、豊前、豊後、日向、大隅、薩摩の九州と壹岐、對馬及び琉球の三島國とより成る。これを福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿兒島、沖繩の八縣に分つ。

縣名	管轄	面積	一方里の人口	縣廳所在地
福岡	筑前、筑後、豊前の一部	三三四 <small>カ</small>	五三〇 <small>〇</small>	福岡市
佐賀	肥前の半部	一五七	四二七三	佐賀市
長崎	肥前の半部、壹岐、對馬	二五三	四三四九	長崎市
熊本	肥後	四八四	二五五三	熊本市

大分	豊前の半部、豊後	四一七	二〇八	大分市
宮崎	日向	五〇五	一〇七三	宮崎町
鹿児島	大隅、薩摩	五九一	二一五六	鹿児島市
沖縄	琉球	一四三	三四八九	那覇區

(二九) 九州地方の市制地。

(三〇) 九州地方に於ける人口五萬以上の都會。

- (1) 長崎市(一七、六)
- (2) 佐世保市(九、三)
- (3) 福岡市(八、二)
- (4) 鹿児島市(六、三)
- (5) 熊本市(六、二)
- (6) 門司市(五、五)
- (7) 佐賀市(三、六)
- (8) 久留米市(三、五)
- (9) 小倉市(三、二)
- (10) 大分市(三、九)

(三一) 九州地方に於ける區制地。

- (1) 那覇區(四、七)
- (2) 首里區(二、五)

(三二) 九州地方に於ける開港場。

- 門司(前豐) 若松(前英) 博多(上同) 三池(後英) 唐津(前肥) 住江(上同) 長崎(上同)
- 口津(上同) 三角(後肥) 嚴原(馬對) 佐須奈(上同) 鹿見(上同) 那覇(琉球)

但し長崎には、北米合衆國イギリス、ロシア、オランダ、ドイツ、ベルギー、デンマーク、

スエーデン、ノルウェー、イスパニアの領事館あり。

(乙) 各論

○福岡縣

(一) 福岡縣の地勢

筑前筑後の兩國は、古の筑紫國にして、豊前は、豊の國の一部なり。域内、九州北部山脈連りて、英彦山(官幣中社英彦山神社あり、中世の)、福智山(日本武尊の故事、寶滿山、天拜山、原道眞の故事を、)、背振山(山麓の地は榮西禪師の初め、雷山、怡土城)等の山峯あれども、英彦山(四、千一)の外、率ね皆な低き丘陵性の山なり。豊前筑前の國境地方は、筑豊炭田と稱せられ、筑後の三池炭田と共に著はる。

河流には、南部に九州の巨流筑後川(三五里、千歳川ま)あり。北部には、石炭輸送の便ある遠賀川(一五)あり。共にその流域は、低原をなす。筑後低原、筑前低原これなり。

(二) 福岡縣の海岸

瀬戸内海の西部、周防灘に面する東海岸(前豐)は、屈曲に乏し。部崎は、長門の壇浦と相對して、幅數町の早瀬瀬戸(海峽)を成す。潮勢急にして且つ瀬戸内海の西口に當たるが故

に燈臺及び砲臺の設あり。碧灘及び玄海灘(共に日本)に面する北海岸(筑)は、出入に富み、鐘ヶ岬以東には門司(長門海峽)及び若松(洞ノ海)の開港あり。以西には、海の中道(志賀島、福町、延長三里)の沙嘴斗出して、博多灣を擁す。灣中殘島あり。この邊到る所、元寇の古蹟多し。芥屋の大門は、玄武岩より成りて頗る絶景とす。遙か北方には、日露戦役の際、常陸丸の遭難地として名高き沖島あり。有明海に瀕せる南海岸(筑)には、三池開港あり。門司若松と共に本縣の三大石炭輸出港とす。有明の海は、遠淺にして、潮汐干満の差多し。

(三) 福岡縣の重要産物及び産地。

- (1) 鑛産……石炭(筑豊炭田は、帝國總産額の約三分の二を産して、帝國第一。三池は、峴内及び高島と共に一ヶ年十萬噸以上の産あり。)
 - (2) 工産……博多織(福岡)、小倉織(小倉)、久留米緋(久留米市)、綿絲(福岡市、久留米、大牟田)、瓦(愛知、兵庫兩縣に次ぐ)、酒(筑後川の流域、柳河若津地)、生蠟(筑後低原の北部、伊豫蠟と共に名高く帝國第一)、鹽表類(柳河、紙方、兵庫縣に次ぎ帝國第二)、素麵(福岡)、高取燒(同)、金屬器(枝光製鐵所)、菜種油(北海に著)、博多人形(福岡)。
 - (3) 農産……米(筑後低原に多し新)、茶(筑後の、濁兵庫兩縣に次ぐ)、南東部。
- (四) 福岡縣の都邑。
- (1) 門司市(五、五)……長豊海峽に臨み、對岸の下關市と汽船の便ありて、山陽本線及び

鹿兒島本線兩鐵道を連絡す。この地、瀬戸内海の西門を扼し、九州に入る要口を占め、内外國航路の衝に當たり、帝國第一の石炭輸出港(九州第一及び帝國第一)なるを以て、市況大に榮え、縣下第二の都邑となれり。昔時、三韓の貢物を献せしは、この地にして、附近の大里には、安徳天皇の行宮址あり。

(2) 小倉市(三、一)……縣下第五の都會、鹿兒島本線及び豊州本線兩鐵道の接續地にして、舊城址に第十二師團司令部あり。小倉織を産し、附近より洋紙を出だす。門司より當地を経て黒崎に通ずる電氣鐵道あり。

(3) 若松(二、七)……縣下第六の名邑、開港場(帝國第二の石炭輸出港、鐵類の大輸入港)にして、洞海に臨み、黒田長政の開鑿せし運河は、蘆屋地方に通じ、遠賀川、筑豊本線鐵道と共に運輸の便少からず、對岸地の八幡(二、二)に東洋第一の枝光製鐵所(職工七五)ありて、清國大冶朝鮮黃海道(大冶)の鐵を輸入して製鐵に従事す。南東の折尾は、鐵道の一中心、西方の蘆屋は、遠賀川の口に近き所に在りて、神武天皇の岡田行宮ありし所なり。南方には、帝國第一の大炭田たる筑豊炭田(飯塚、鉢田)あり。

(4) 豊津……縣の北東部に在る名邑にして、附近の御所谷は、景行天皇の長峽の宮ありし所を以て著はる。北東の行橋は、鐵道の一中心にして、北西の金田は、著名なる

炭坑ある所なり。

(5) 福岡市(八、二)……福岡(黒田氏五十二)及び博多(上古日本の三津の一、日本の貿易地、今尚ほ開港)の總稱。博多灣に臨みて、また鐵道の便あり。長崎市に次ぎ、九州第三の大都會にして、縣廳、九州帝國大學、聖福寺(日本最古の禪寺)、福岡公園(東公園は元寇の古跡、千代松原に)等あり。博多織、博多絞、綿絲、素麵、高取燒等は、市の重要産物にして、附近の地には、名蹟頗る多し。箱崎八幡宮(官幣中社、應神、香椎宮(官幣大社、神功皇后等を祀る。古の香椎行宮の址)、名島(神功皇后三出師凱、輔、濱、菊池武敏足利、宗像神社(官幣大社、市村、宇美(應神天皇、鳥飼(九州探題の所)等これなり。南東の大宰府(軍に宰府)地方には、大宰府神社(官幣中社、祭、大宰府遺址、水城の遺址、觀世音寺(天智天皇の時開創、九州第一)、武藏温泉(單純)、天拜山(菅原道真の故)等ありて、四時詣るもの少なからず。

(6) 久留米市(三、五)……筑後川の左岸に位する縣下第四の都邑(筑後)にして、綿絲、久留米緋の産多く、第十八師團司令部、水天宮(安徳天皇)高山正之の墓(遍照院)等あり。高良山(菊池武光の征西將軍、桓其親王を奉ぜし所)、善導寺(淨土宗、鎮、岩戸山の古蹟(築紫磐井の墓)等は、市の附近に在り。

(7) 大川(一、二)……筑後川の下流に沿ひて、若津港を控へ、酒、米の集散多し。南東の柳河は、疊表、酒の取引地なり。

(8) 三池……筑後の南西部に位する石炭取引地にして、三池開港よりこれを輸出す。大牟田(四、五)もまた石炭業の爲めに近時大に榮え、縣下第三の都邑となれり。

○佐賀縣

(一) 佐賀縣の地勢。

本縣は、香川、沖繩の兩縣に次ぎて、面積小なり。北部及び中部には、九州山脈に屬する肥前山脈(昔振山)連りて、山地多けれども、南部は、筑後低原に屬して、農業大に行はる。南西部には、阿蘇火山脈の多良岳(消火)、武雄及び嬉野の温泉(共に炭)あり。

(二) 佐賀縣の海岸。

北部には、東松浦半島、玄海灘に突出して、唐津灣(開港)と伊萬里灣とを分ち、七ツ釜(玄武)の奇勝あり。唐津の北東には、虹の松原といへる白沙青松の勝地ありて、海水浴場の設あり。南部、有明の海に沿ふ所は、率ね遠淺にして、潮汐干満の差甚だし、住、江開港ここに在り。

(三) 佐賀縣の重要産物及び産地。

(1) 鑛産……石炭(主として松浦川流域、芳谷、相知、杵島、北方、赤阪口等の炭坑あり。一ヶ年約九十萬噸。福岡北海、道、福島に次ぐ。唐津、住、江、長崎諸港はその輸出港なり)。

火山灰(南部地方、セメン、トに代用せらる)

(2) 工業……陶磁器(有田焼、或は伊萬里焼及び唐津焼等、愛知、岐阜、京都に亞ぐ)、木綿織(東部地方の三養基織)

(3) 農産……米(南部)、茶(北部)、野茶(最も著はる)

(4) 水産……鯛(玄海)、鱈(上同)

(四) 佐賀縣の都邑

(1) 佐賀市(三、六)……縣の東部、筑後低原に位し、長崎本線鐵道に沿へる鍋島氏(三、十六)の舊城地にして、維新の際、江藤新平等の志士輩出せり。縣廳こゝに在り。北西の小城には、素麵の産あり。

(2) 住江……六角川(武雄川)の有明海に注がんとする所に在る開港場にして、石炭、米等を輸出す。

(3) 唐津(一、二)……松浦川(一、三)の口に近き唐津灣に臨める縣下第一の開港場にして、近傍より産する石炭を輸出し、唐津燒(關西地方にては陶磁器を産す。この地、唐津線鐵道の終點にして、釜山と汽船を通ず。その北西の呼子は、東松浦半島の北端に位し、壹岐對馬、釜山に通ずる海底電線の起る所、名古屋は、豊臣秀吉の征韓の役に本營を置きし所なり。

(4) 有田……縣の南西部、有田燒の産地にして、昔時その大積出港たりし伊萬里との間に鐵道の設あり。東方の武雄は、温泉地を以て著はる。

○長崎縣

(一) 長崎縣の地勢

長崎縣は、肥前南西部の半島地及び壹岐對馬等數多の島嶼より成り、九州北部山脈に屬する肥前山脈及び阿蘇火山脈(温泉岳、多良山等)連りて低地少し、温泉岳(四、九、二)の西麓には、所々に温泉湧出す。壹岐對馬の兩國は、山地多くして、農業に適せず。

(二) 長崎縣の海岸

長崎縣の本地は、有明海、早崎海峡、千々岩灣、天草灘、大村灣、鯛ノ浦、平戸海峡、伊萬里灣等に面し、西松浦、彼杵、島原の三大半島及び諫早地峽ありて、海岸の出入多きこと帝國その比なく、開港長崎、口ノ津及び軍港佐世保あり。

(三) 長崎縣の島嶼

長崎縣は、鹿兒島、沖繩兩縣と共に九州地方中、最も多く島嶼を有す。殊に對馬(上下の分た)及び壹岐最も大にして、古來軍事上最も重せらる。壹岐の左右には、壹岐海峡、對馬海峡あり。對馬は、朝鮮海峡を隔て、朝鮮と相對す。その間約四十哩に過ぎずして、嚴原

佐須奈、鹿見の開港、竹敷の海軍要港(淺海灣に在り)あり。平戸島、五島列島(宇久、中通、奈留、久賀、福江)これに次ぐ。高島は、石炭の産出を以て著はる。

(四) 長崎縣の重要産物及び産地。

- (1) 鑛産……石炭(高島等産額、九州第三)、金(東部上波、佐見地方)、亞鉛(同上、岐阜、山形、兩縣に次ぐ)。
- (2) 水産……(北海道、千葉縣に次ぐ)、水産業地、鰯(對馬第五島、帝國第一島)、鯨(近海島)、鯉節(五島、鯉節、九州)、鱈(同上)、鰯子(野母岬、真珠貝、大村、志摩、高島)。
- (3) 農産……煙草(島原地方)、蜜柑(伊木力地方、佳評あり)、大豆(岐)。
- (4) 工産……甕甲及び唐木細工(長崎市)、七島表(島原地方)、砂糖(同上)。

(五) 長崎縣の都邑。

- (1) 佐世保市(九三)……縣の北西海岸に位し、第三海軍鎮守府、造兵廠あり。この地寒村たりしが、軍港となりし以來、頗に榮え、今は九州第二の大都會(長崎縣第二)となれり。佐世保線鐵道は、南東の早岐に通ず。
- (2) 平戸(一〇)……平戸島の北東端に在りて、平戸海峡に臨む。徳川時代帝國屈指の外國互市場たりし所にして、明の鄭成功(父は鄭芝龍)の生地たり。永祿七年(1564)建立せし帝國最初の基督教會天門寺の址あり。今尙ほ住民は、率ね天主教を信ず。

(3) 長崎市(一七六)……縣の南西、彼杵半島に位する九州第一の大都會及び第二の開港場(舊五港)。長崎本線鐵道の終點、内外航路の燒點にして、浦鹽、斯德、釜山、上海、基隆、福江に海底電線を通じ、交通自在を極む。古代この地、鎮西探題、長崎代官等のありし所。徳川時代には、帝國屈指の互市場(出島或は扇島は、舊互市場の地)たりしが、故に、濱田彌兵衛、荒木宗太郎、津田又左衛門、白山嘉左衛門等の貿易家こゝに雲集し、西洋の文物率ねこの地より渡來せり。重要輸出品を石炭、水産物等とし、甕甲細工、唐木細工、陶磁器の取引多し。三菱造船所は、盛に艦船の製造に従事す。高等商業學校、醫學專門學校、縣廳税關、控訴院、諏訪神社(鎮西の大神にして國幣小社、祭神建御)等ありて、附近の地と共に天主教信者極めて夥し。前面の高島は、三池峴内と共に帝國屈指の大炭坑ある所なり。

- (4) 島原……島原半島の東海岸に位す。天草の亂に名高き原城址あり。その西方に火山性の温泉(壱岐)岳聳立し、温泉所々に湧出す。この地方の名産を煙草、七島表、砂糖とす。南西の口、津開港(一、二)は、石炭の輸出多し。
- (5) 富江(一、二)……五島列島中の最南、福江島の東海岸に位する港にして、五島鯨、五島鰯、五島節を産す。住民には、天主教を奉ずるもの多し。

(6) 勝木……壹岐の北西端に在る港にして、その南郷浦には海底電線の設あり。
 (7) 嚴原(一、二)……對馬上島の東海岸に在る開港場(徳川時代日韓唯一)にして、島廳あり。この島は古來壹岐と共に軍事上重要な位置を占むるを以て、往古防人これを守りしも、今は警備隊を置くのみならず、淺海灣竹敷(海軍)に砲臺の設あり。下島の鹿見、佐須奈は朝鮮海峡に面する開港場にして、鰐浦古の和珥津は神功皇后の三韓征伐の時發船せられし所を以て名高く、朝鮮釜山浦を相距ること約四十裡に過ぎず。

○熊本縣

(一) 熊本縣の地勢
 本縣は古の火の國にして、城内九州南部山脈(市房)阿蘇火山脈(阿蘇)霧島火山脈等相連りて、東半部には山地多し。温泉また所々に散在す。西部有明海及び八代の海に沿へる所は所謂肥後低原にして、球磨川(三九流)日本、緑川(三四)菊池川(一八)白川(一六)の四大川これを潤ほし、九州屈指の農業地を成す。

(二) 阿蘇山

阿蘇山は熊本縣の北東部に位して、阿蘇火山脈を形成す。中岳、根子岳、高岳、杵島岳、

鳥帽子岳(阿蘇)より成る複成火山(成層)にして、高岳最も高く(百餘尺)中岳は活動最も盛なる中央火口丘なり。その舊噴火口は世界中最も廣大なるものにして、直徑約五里半(立野より取栗に至る東北の直徑二十三里、面積一五五方里)に及び、箱根の舊噴火口と共に帝國の二大噴火口なり。この舊噴火口には阿蘇郡の住民これに住し、阿蘇谷、南郷谷、千里濱(明治三十九年)等の火口原あり。白川これより出で、西流す。宮地には阿蘇神(中社、祭神)あり。附近の垂玉柄木、杖立三温泉は、山鹿、日奈久と共に熊本縣の五大温泉と稱せらる。阿蘇地方よりは硫黃、煙草、馬等を産す。

(三) 五箇莊

五箇莊は肥後の南東部に於ける山中に在りて、椎原久連子、椴子、葉木、仁尾田の五箇村より成る。壽永四年(一一八三)壇浦の役後平氏の遺族の潜匿せし所なりといひ、人情風俗他郷と異なる所多し。

(四) 球磨川

球磨川は肥後の最長流にして、延長二十九里。河邊は斷崖絶壁に富みて、風景宜しく、また石灰岩窟、間歇泉等あり。航行、極限地なる人吉より河口に近き八代まで約十四里の間、六七時間にして下るを得べし。實に日本三急流の一なり。

(五) 熊本縣の海岸。

本縣の西部は、潮汐昇降の差多きを以て著はるゝ有明海と夏秋の交、不知火(燈籠と千い)の現象起るを以て知らるゝ八代海とに瀕し、海岸率ね遠淺にして良港に乏し、中央部に宇土半島斗出し、その先端に木材、米の輸出港三角(開)あり、談合島その前に横はりて、天草亂の史上に名あり。天草島(上下の二大)その南西に連りて、天草灘、早崎海峡、八代海を分つ。

(六) 熊本縣の重要産物及び産地。

- (1) 農産……肥後米(肥後低原、九州)、麥(肥後低原)、粟(帝國總産額の約四分)、肥後煙草(北東部阿蘇八代蜜柑(八代)、蘭草(上))。
- (2) 畜産……馬(阿蘇地方、鹿兒島)。
- (3) 鑛産……無煙炭(天草)、陶土(上)、硫黄(阿蘇)。
- (4) 工産……綿絲(熊本市)、木綿紉(上)、陶器(八代、天)。
- (5) 林産……木材(東部の山地、櫛)。

(七) 熊本縣の都邑。

(1) 熊本市(六、一)……縣の北西部、白川坪、井川と鹿兒島本線鐵道に沿ひ、百貫石港に近

く、大津地方に輕便鐵道を通じ、交通自在を極め、木綿紉、綿絲、南關、素麵(南關)産す。肥後米の集散あり。九州第五の都會、細川氏(五十四萬石、初め加)の舊城地にして、縣廳第六師團司令部(加藤清正の築きし西陞第一の難攻不落城と稱へられたる熊本城は明治、錦山神社(加藤清正)あり。郊外には、高等工業學校、高等學校、花岡山(西南の役、四郷、隆)本妙寺(日蓮宗の巨刹、俗に清正)成趣園(俗に水前寺といひ、細川氏の舊別墅地、細川氏の祖先)畫圖湖等あり。

市の北植木、田原阪は、西南役の激戰地なり。菊池川の畔には、隈府山鹿(硫黄泉多)に冠たり(九州)あり。隈府は、菊池氏の城居せし地にして、菊池神社(別格官幣社、菊)あり。

(2) 三角(開港)……宇土半島の西端、三角線鐵道の終點にして、木材、米を輸出し、附近に小西行長の城址、陶器の産地あり。

(3) 八代(一、二)……球磨川の八代海に注がんとする所に近く、セメント、蜜柑を産す。八代宮(官幣中社、祭神、懷良)はこの地方の名社とす。日奈久温泉(硫黄)その南に在りて、來たり浴するもの少からず。八代より球磨川によりて、人吉、五箇、莊に至るを得べし。

(4) 水俣(一、六)……縣の南西部、鹿兒島縣に入る要地に當たり、煙草産地の中心にして

隈内城址あり、その北に九州街道中、著名の峻路、三太郎越(佐敷太郎、赤松太)あり。
 (5) 牛深……天草下島の南部に位する本縣第一の良港にして、附近の地は、本邦著名の無煙炭産地なり、北方の富岡は、天草の亂につきて史上に著はる。この地方には、石炭、陶土、陶器を産し、天主教を信するもの少からず。

○大分縣

(一) 大分縣の地勢

(二) 別府温泉

九州南部山脈(祖母山等)及び九州北部山脈(英彦山等)南北に亘り、阿蘇火山脈(九重山、由布山、或山、兩子)その間に連りて、温泉多きこと帝國比なし。豊後十湯殊に著はる。祖母山(六五五尺)は、日向豊後の境上に跨れる九州の最高山にして、尾平、木浦の鑛山その附近に在り。英彦山(四千餘尺)には、官幣中社英彦山神社(祭神、忍)あるを以て著はれ、中世僧院の盛なりし頃には、三千八百坊の寺院を有したりしといふ。由布山は、阿蘇火山脈中、阿蘇山に次ぐ高峯にして、高さ五千五百餘尺。鶴見山(三千餘尺)及び附近には、硫汽孔、諸種の温泉、沙蒸等ありて、浴客常に絶えず。別府及び濱脇の温泉(炭酸鹽類、硫黄)、海地獄、紺屋地獄、坊主地獄、血池地獄の壯觀は、世の嚮傳する所なり。

河流は、大野川(二六)を最とし、上流に九州無比の大壯瀑、沈墜瀧あり。大分川(二三)、山國川(二三)これに次ぐ。山國川の峡谷には、耶馬溪の絶勝ありて、頼山陽の記行文と共にその名海内に鳴る。河邊には、低原あり。

(三) 大分縣の海岸

海岸は、頗る屈曲に富み、國東半島と佐賀關半島との間に別府灣(大分灣或は齒齒灣)あり。地蔵岬(關岬)は、潮流急なる豊豫海峽(早吸瀬戸)を隔て、伊豫の佐田岬と相對す。豊後水道の面には、鶴望崎等斗出して、臼杵灣、佐伯灣等の灣入を成す。

(四) 大分縣の重要産物及び産地

- (1) 工産……蠶表(國東半島、帝國總産額の一)、花筵(同地)、生蠟(日田地方)、葛粉(同上)、木綿織(津佐地方)
- (2) 水産……鱧、鯛(共に佐賀地方)、鮎(大野川の上流)
- (3) 農産……牛(大野川第一地方)、米(各低原)、蜜柑(臼杵附近地方)
- (4) 林産……椎茸(西山)
- (5) 鑛産……硫黄(九重山、北海道、福島縣に次ぐ)、明礬(鶴見山)、銅(尾平)

(五) 大分縣の都邑

- (1) 中津(一八)……縣の北西部、山國川の畔に位し、豊州線鐵道に沿へる縣下第二の名

邑にして、木綿織を産す。前野良澤、福澤諭吉は、この地の人なり。南方に耶馬溪の絶勝あり。南東の宇佐に宇佐神宮(官幣大社、應神天皇等を祀る)あり。和氣清麿の事蹟と共に史上に著はる。

(2) 日田(一〇)……縣の西部に於ける名邑にして、生蠶、葛粉、紙の取引多く、平野五岳、廣瀬、淡窓はこの地の出なり。筑後川によりて、筑後の市邑と交通の便あり。

(3) 別府(一四)……別府灣頭に位する我が國屈指の温泉(炭酸鹽類、硫黄)地にして、火山性の鶴見山を負ひ、海岸に沙蒸(スチム)の設あり。氣候温和、空氣清燥なるが故に、浴客常に廣集す。石垣原の古戰場は、大友義統(義統)と黒田孝高(孝高)との交戦せし所なり。この地は、大阪商船會社汽船の便あるのみならず、汽車、電車等の便あり。北東國東半島の杵築(杵築)日出(帆足萬里の)は、疊表、花筵の集散地なり。

(4) 大分市(二九)……大分灣に臨み、大分川に沿へる縣廳所在地にして、もと府内といひ、大友宗麟(宗麟)の偉業を興し、所なり。米、疊表の集散地にして、槍細工を産す。附近に西塞多神社(國幣中社、祭神西塞多神)あり。南西、大野川の上流地方に竹田あり。田能村、竹田及び直入の出でし所なり。

(5) 佐賀、關……佐賀、關半島に位する水産業地にして、椎根津彦神社(神武天皇の功、早吸、日女神社、關の男神等といへる)の名社あり。その南の白杵(二〇)は、佐伯と共に水産業地にして、近海航路の要港なり。臼杵の近傍より蜜柑を産す。

○宮崎縣

(一) 宮崎縣の地勢

宮崎縣は、九州の南東部に位する日向(我が太古二大開化地方の一)にして、神武、景行兩帝の事蹟を以て史上に著はる。九州南部山脈(祖母山、市)及び霧島火山脈(霧島山等)相連りて山地多く、美々津川(耳川ともいひ、二八里、本縣の最長流、神武天皇東)大淀川(二六、また赤江、餘間の長さ)六箇瀬川(二六、船)佐土原川(二〇、一ツ)高鍋川(一九、小丸)等の流域には、小低原橋あり。

(二) 霧島山

霧島山(高、五、千、八、百、餘、尺)は、霧島火山脈の主峯にして、大隅、日向の境上に聳え、阿蘇山と共に九州の二大活火山と稱せらる。東西の兩峯に分れ、東に在るを矛峯(古の高千穂二上の)といひ、西に在るを韓國岳(高千穂二上の)といひ、山腹に周圍約二里の大浪池等の諸池散在す。世にこれを四十八池(恐噴火口の湖)といふ。西麓の鹿兒島縣大隅に霧島神宮(官幣大社、彦火々)ありて、その附近に數多の温泉あり。

(三) 宮崎縣の海岸

海岸線は僅に七十餘里にして九州中、屈曲少き海岸に屬す。されば殆んど單純にして、細島、内海、油津等二三の小港あるに過ぎず。加ふるに日向灘は、風波荒きを以て船舶の交通に便ならず。南部の都井岬(附近の大島には)は大隅半島と共に志布志灣(石明)を形成す。本縣の海岸は、日本海流の影響を蒙るが故に、低緯度の地に位する鹿兒島地方よりも、氣候溫和にして、霜雪稀なり。

(四) 宮崎縣の重要産物及び産地

- (1) 鑛産……銅(九州第一。秋田、栃木、愛媛、岡山、四) 磷酸石灰(大淀川流)
- (2) 林産……松、杉、材(四部) 木炭(上) 椎茸(北西部)
- (3) 農産……麻(大淀川流域、九州中、熊) 茶(都井岬) 煙草(高岡)
- (4) 工産……木綿、緋(都井岬) 砂糖(上) 紙(高岡)
- (5) 水産……鱒、鯉(日向) 鮎(五箇)

(五) 宮崎縣の都邑

- (1) 延岡……縣の北東部。五箇瀬川(鮎を産す)の下流に沿へる名邑にして、九州第一の銅産地。日平、横峯及び天孫降臨の靈地と稱せらる。高千穂(三田)に至る門戸に當たれ

り。その南細島は、土々呂と共に椎茸、銅積出の港にして、近海、鯉、鱒の漁利少からず。細島の南、美々津は、神武天皇東征の際、發船せられし所なりといふ。

- (2) 宮崎(一、三)……大淀川の下流に沿へる縣廳所在地にして、附近に宮崎宮(神武天皇を祀り)あり。神武天皇の宮址なりといふ。宮崎より高濱の月知梅、都於郡の景行天皇高屋行宮址に程近し。また宮崎の北には、佐土原、高鍋の名邑あり。宮崎の南倉岡は、安井息軒の出でし所なり。

- (3) 都城(二、八)……縣の南西部に位する縣下第一の都會にして、木綿、緋、砂糖、茶、萬年青等を産す。南東の飯肥には、琉球、幾那等熱帯性植物の試作行はれ、油津(日向南部)と近く、北東海岸に内海港、鶴戸神宮(官幣大社、鶴崎草葺不合)あり。

- (4) 小林(一、五)……縣の西部、霧島山に近き所に在り。肥後街道に當たり、將來有望の地なり。附近に狹野(神武天皇降誕)及び細野(景行天皇熊襲を征服)あり。

○鹿兒島縣

(一) 鹿兒島縣の地勢

鹿兒島縣は、古の日向の國(國)の一部にして、大隅、薩摩の兩國及びこれに附屬する薩南諸島、奄美諸島、甌諸島より成る。域内九州南部山脈(高尾山等)霧島火山脈(霧島山)兩

開岳或は薩摩富士高さ三千餘尺。櫻島の御岳高さ約三千七百餘尺。夜久(連りて、北東部地方の宮ノ浦岳高さ約六千三百餘尺本縣の最高山。大島の湯澤岳等)連りて、北東部地方及び諸島嶼には山地多し。火山脈の通する地方には數多の温泉涌出す。霧島(硫黄)有村(鹽類)脇湯(和氣清)等殊に著る。開聞岳の附近には、池田湖(周回四里)、鰻池(周回十)の小湖あり。後者は、本邦に於ける鍋狀噴火口の好標本なり。また牛尾山、野、芹、野、鹿籠は、本邦著名の嶺山とす。川内川(三二里、筑後川と共)の域流及び海岸地方には低原あり。

(二) 鹿兒島縣の海岸。

薩摩及び大隅肝屬の二大半島は、馬蹄狀をなして、長さ約二十里の鹿兒島灣を擁し、佐多岬及び開聞岬は、その入口をなす。灣の北部には、櫻島(周回約一里)火山島あり。大隅半島の東部には、志布志灣、有明浦の灣入あり。南部(伊座敷より種子、夜久の兩島と大島、沖繩島あり)は、大隅海峡を隔て、種子(多)、夜久(古)の二大島と相對す。薩摩半島の西海岸には、野間崎斗出し、九州中著名なる沙丘地吹上(濱)これと相接し、犬吠岬の九十九里濱に於けるが如き有様をなす。その遙か沖合に、飯列島(上中下の三島あり)連れり。薩摩半島の南には、川邊十島、奄美諸島あり。いづれも火山島に屬し、種子、夜久の二島を合して、薩南諸島と總稱す。

(三) 櫻島。

鹿兒島灣の北部に位する火山島にして、鹿兒島市と相對し、恰も大隅薩摩間に於ける飛石の狀をなす。周回約十一里、中央に霧島火山脈に屬する御岳火山(高さ三千七百餘尺)あり。安永八年(1778)の大破裂を以て著はれ、南麓には、有村温泉(硫黄)あり。櫻島羅荷(巨大なる櫻島蜜柑は、世に賞味せらる。

(四) 種子ヶ島。

古の多瀧の國にして、大隅半島の南、二十一裡に位する大島(周回三)にして、首邑を西之表(北西海岸)といひ、赤尾木港と相接す。この地は、天文十二年(1543)葡萄牙人ピントー(Pinto)の始めて島銃を傳へし所なり(時の島主は平時銃にして八)。

(五) 夜久島。

古の夜玖の國にして、種子ヶ島の南西に在り。周回三十六里。宮ノ浦岳(高さ六千三百餘尺、縣内の最高峰)の近傍より夜久杉を産し、近海は、鯉、文鰯、鰯の漁利多し。

(六) 川邊十島。

薩摩の遙か南方に位する硫黄島(硫黄を産出し、後竹島、黒島の三島と寶七島、吐噶喇七島)、口之島、中ノ島、臥蛇島、平(口之島、中ノ島、臥蛇島、平とを總稱して、川邊十島といふ。霧島山火脈に屬する火山島にして、その近海を七島灘といひ、風波荒く、航海危険なり。七島表は、諸島の重要産物と

す。中ノ島等には、平氏の遺跡多し。

(七) 奄美諸島

一に大島諸島ともいひ、寶七島の南に羅列せる大島、喜界島、徳島、沖ノ島、永良部島等の總稱なり。大島最も大にして周圍五十九里、島廳を名瀬(鹿兒島より)に置く。この地は、沖繩臺灣航路の衝に當たるが故に、船舶の出入多く、大島紬、黒砂糖(臺灣琉球と共に)芭蕉布等を産出す。本島はもと琉球に屬し、その國祖發祥の地たり。よりて風俗習慣琉球人に類する所多し。氣候温暖、帝國中屈指の多雨地にして、高峯湯灣岳には、大蘇鐵の茂林あり。

(八) 鹿兒島縣の重要産物及び産地

- (1) 礦産……金(山ヶ野、鹿籠これに次ぐ、帝國第一)、銀(山ヶ野、鹿籠)、錫(谷山の錫山、帝國總産額國第一)、硫黄(硫黄島等、九州中大)
- (2) 工産……薩摩緋(鹿兒島)、錫器(同)、竹器(同)、薩摩燒(鹿兒島市、田ノ浦、伊)、大島紬(名)、芭蕉布(同)、砂糖(帝國に著はる)、煙草(國分、煙草は、關東地方の水戸、煙草と共に帝國第一)、七島表(七島地方)、燒酎(國分、根、帝國第一)、鍋釜類(木)、菜種油(大阪府)、農産……薩摩甘藷(約六分の一を占め、沖繩縣に次ぐ)、櫻島蘿蔔(櫻島)、蜜柑(同)、粟(鹿籠)

(九) 鹿兒島縣の都邑

- (1) 垂水(一七)……鹿兒島灣の東岸に位する大隅の名邑にして、煙草を産す。南方肝屬半島の地に吾平山陵(草葬に在りて、鶴鶴)あり。北東の岩川地方は、牧馬盛なり。
- (2) 加治木(二三)……鹿兒島灣頭に位し、鍋釜類を産し、煙草の大産地。國分と共に鹿兒島本線鐵道に沿ふ。鹿兒島神宮(官幣大社、彦火々)、霧島神宮(同上、彦火々、彦火々、出見尊を祀る)、見尊の山陵(溝邊に)、山ヶ野金山等に程近し。南東の福山は、日向街道の要驛なり。
- (3) 鹿兒島市(六三)……鹿兒島灣の北西岸に位する。九州第四の都會(南九州)、島津氏(七石萬)の舊城地にして、甲突川(市中を流れ、汽車(門司を距る、二三哩)、汽船(神戶を距る、四哩)の便あり。縣廳第七高等學校造士館(城山の東麓、鶴)、高等農林學校、照國神社(別格官幣社、祀、城山(淨光明寺にその墳墓あり))等ありて、薩摩緋、錫器、竹器等を産す。薩摩燒、薩摩上布(琉球産)の取引多し。市の附近に島津紡績所(磯に在り、慶應三年創設)あり。

- (4) 谷山(二八)……縣下第二の名邑にして、鹿兒島灣の南西海岸に在り、盛に軍馬を育成し、錫山(帝國第一)は、錫の産出を以て世に聞ゆ。
- (5) 揖宿(一八)……薩摩半島の南東岸に在る煙草産地にして、その南に山川(昔時琉球所)あり。

(6) 坊津……薩摩半島の南西岸に位し、鯉、鱒の水産業盛なり。上古我が國三津の一たりし所にして、唐船の來泊せし所なり。附近に鹿籠の金銀鑛山あり。北方の加世田(二六)は、彦火々瓊々杵尊の宮居し、吾田の笠狭の宮ありし地なりといふ。

(7) 阿久根(一八)……縣の北西海岸に在る帝國第一の焼酎産地なり。その北東に米津港(薩摩西海)出水(一三)屋地(津久以下五)等あり。南方、川内川の畔には、新田神社(國幣神社、愛山陵の地なりといふ)太平寺地(豊臣秀吉、征西の時)等あり。

○沖繩縣

(一) 沖繩縣島嶼の區分。
 沖繩縣即ち古の琉球王國(明治十六年國王尚泰を藩王とし)は、霧島火山脈に屬する五十の島嶼より成る列島にして、沖繩諸島、先島諸島(宮古、八重山の二)の二大群に分たる。沖繩諸島の最大島を沖繩本島(周回四十里、面積一六〇方里)とし、八重山諸島(周回二里)の

西表島(周回約二十三里、那覇)石垣島(周回約二四二里、那覇)及び宮古諸島(周回約二七〇里、那覇)の宮古島(周回十一里、那覇)を距ること一(これに次ぐ)。

(二) 沖繩縣の地勢及び海岸

沖繩本島の南極を喜屋武岬といひ、北端を國頭岬といふ。海岸には、珊瑚礁多く、那覇(開港)連天の外、良港に乏し。西表島には、古見岳(本縣の最高山)及び船浮港。石垣島には、於茂登岳及び川平港(往時八重山諸島より那覇に)あり。宮古島の外、各島率ね山地にして、低原少し。

(三) 沖繩縣の五港

那覇(開港) 運天 場天 阿護 船浮

(四) 沖繩縣の氣候

氣候甚だ温暖にして、霜雪を見ること殆んど無し。されども多雨地方に屬して、暴風雨の襲來すること多し。

名	瀬(鹿兒島縣)	約二十一度	名	瀬(鹿兒島縣)	約三十三度
一ヶ年	那覇	約二十二度	一ヶ年	那覇	約二千四百耗
平均温度	石垣島	約二十三度	平均雨量	石垣島	約二千三百耗
	東京	約十三度	長	野(長野縣)	約九百耗

(五) 沖繩縣の動植物

本域は、氣候温暖なるを以て、椰子樹、蘇鐵、芭蕉(芭蕉布の原料)、竹林、投樹、阿旦葉帽の原料、榕樹、杪欏等の熱帯性植物よく成長し、甘藷(第一國)、甘蔗の栽培、羊豚(共に第一)の飼養もまた極めて盛なり。飯匙青といへる毒蛇ありて、往々人畜を害す。

(六) 沖繩縣の風俗

住民は、率ね琉球人にして、清國に屬せしことありしが故に、言語風俗等自ら内地と異なる所少からず。本島は、屢暴風雨襲來するを以て、家屋の構造は、極めて低く、甘藷を常食とし、雨水を飲料とするもの多く、率ね寛濶なる衣服(縫製し流行し、夏は芭蕉布、冬は内地にて結び、左衽と)を著し、男女共に髪を束ね、簪(カンザシ)を挿み、履物を用ゐず。されども近時教育の日に月に普及するに従ひて、漸次、弊風は、改良せらるゝに至れり。もと婦人は、手甲等に黥(しず)を施すものありしが、現今殆んどその跡を絶ちたり。

(七) 沖繩縣の重要産物及び産地

- (1) 工産……琉球。上布(那覇地方)、芭蕉布(同上)、琉球紬(同上)、琉球紵(同上)、琉球表(同上)、琉球朱塗(同上)、泡盛酒(たもと原料には内地産の米粟を用ゐ、阿旦葉帽、黒砂糖、黒砂糖、黒砂糖と共に名)

- (2) 農産……甘藷(主として沖繩本島、第一國)、山藍(同上、登野と)、大豆(同上)

- (3) 畜産……豚及び羊(共に日本本都第一)

(八) 沖繩縣の都邑

- (1) 那覇區(四、七)……沖繩島の南西海岸に位する開港場(東京より一、二六八、瀨、大阪より三、六九、瀨、三)にして、琉球上布、泡盛酒等琉球産物の取引盛なり。波上宮(官幣小社、速玉日を要す)にして、琉球上布、泡盛酒等琉球産物の取引盛なり。波上宮(官幣小社、速玉日を要す)は、縣下第一の名社なり。
- (2) 首里區(二、五)……沖繩島の南部に位する本縣第二の名邑、舊琉球王尙氏の舊城地にして、郊外の崇源寺に舜天王以下三十餘代の廟あり。第六師團の分遣隊この地に駐屯す。附近の大里は、源爲朝(舜天王的父)の來住せし所とす。

第二部 臺灣地方

第一章 總論

(一) 臺灣地方の沿革

臺灣地方とは、臺灣本島、澎湖群島等の總稱にして、我が領土の極西及び極南の域なり。臺灣島は、往古、清國人の所謂、東蕃の地にして、明末、東寧と稱せしが、清の聖祖康熙二十三年(1684) (我が徳川綱吉將軍の時) 以來、臺灣と呼べり。初め福建省に附屬せしめしも、明治十七年佛國艦隊に封鎖せらるゝに及び、翌年これを一省となしぬ。我が國人は、もと東臺島或は高砂島と唱へ、葡萄牙人は、美島の義を以てこれをフォルモサ(Formosa)と呼びしかば、西洋人は、今尙ほこれを傳稱するもの少からず。明治二十七八年の役即ち日清戦争(1894-1895)の結果、下關條約によりて、我が國は、これ等の島嶼を領有するに至れり。

(二) 臺灣地方の地勢

臺灣島は、我が國第三の大島にして、面積二三一八方里、九州島よりは稍大なり。東西に狭く (廣き所は布袋嘴、島石鼻間三十七里)、南北に長く (南岬、富貴角間約一百里) して、恰も大魚の北東に向ひて唼 (ケンギョウ) するもの、如し。臺灣山脈 (我が最高峯新高山等) 域内を縦貫して、土地を東部 (急斜面の山地にして全土の三分の二)

(を占) 及び西部 (緩斜面の低原) に分ち、淡水川、大肚川等の如き本島重要河川の分水界をなす。霧島火山脈 (大屯) の通ずる北部地方には、北投、金包里等の硫黄泉多し。本島の河川は、率ね水量に乏しくして、交通及び灌漑上に利便を與ふるもの少し。湖沼の大なるものなしといへども、中部高地の竹湖 (周回三里、水社湖或は日月潭の名あり) は、風景の佳なるを以て著はる。澎湖群島 (六十三の島嶼群) は、土地率ね低平にして、植物に乏し。

(三) 臺灣地方の山脈

(1) 臺灣山脈……中部……新高山、シルビア山(雪山)等。

(2) 霧島火山脈……北部……大屯山等。

(四) 臺灣山脈

(五) 新高山

臺灣島の中部を縦貫する山脈を臺灣山脈といひ、新高山、シルビア山 (一千一百餘尺、霧山) 等一萬尺以上の秀峯頗る多し。新高山は、支那人の玉山、西洋人のモリソン(Morrison)山と稱せし山にして、本島の我が領土となるに及びて、新高山と命名せしものなり。我が國の最高峯にして、高さ一萬三千餘尺。東山 (霧東新高山)、北山 (斗六新高山)、南山、西山の四峯これを圍繞す。この山脈には、樟、檜、杉等の深林到る所に存し、鑛産もまた少からず。

(六) 大屯山

大屯山は、霧島火山脈に属する臺灣の重要火山にして、高さ三千四百餘尺。雨季には、頂上の舊噴火口(直徑約一千尺)は、水を湛へて湖となる。ことあり。間歇泉、硫汽孔、北投温泉(硫黄)ありて、硫黄を産出す。

(七) 臺灣の重なる河川

(1) 臺峽海峽面……淡水川、大肚川、大突川、下淡水川。

(2) 太平洋面……卑南川、秀枯、欒川、荖萊川。

(八) 臺灣の海岸

臺灣島(附屬島)は、帝國第三の大島なれども、海岸線の延長僅に三一九里に過ぎずして、九州島(海岸線八六一一里)の約三分の一に當たれり。北海岸には、富貴角(臺灣島の極線電信局及び三貂角(臺灣島の極東にして日清戦あり。南海岸には、南岬(臺灣島の極南の地にして北緯二十一度四十八分)、南西岬突出し、バシー(Bashi)海峡を隔て、北米合衆國領フィリピン(Philippine)群島の最大島たる呂宋(Luzon)と相對し、その間約二百哩に過ぎず。南西海岸には、珊瑚礁多く、且つ近海風波荒く、霧深きを以て、航海危険なり。太平洋面即ち東海岸は、海深大なりといへども、屈曲に乏しく、加ふるに臺灣山脈直に海に迫りて、高さ數千尺

の斷崖をなし、或は海成段丘をなす所あるが故に、蘇澳、花蓮港、卑南等の小港の外、船舶の寄港する所なし。島嶼の著るしきものには、北に風景佳なる龜山島あり、南に石灰岩より成る火燒嶼、列舟の製作に巧みなる蕃人の住する紅島嶼あり。臺灣海峽及び澎湖水道に面する西海岸には、稍屈曲あれども、遠淺にして、沙丘、沙嘴、沙洲を成す所多くして、良港に乏し。この邊、潮汐昇降の差は、四尺乃至十三尺にして、淡水、安平、打狗は、この方面に於ける著るしき開港とす。南に珊瑚礁より成る小琉球島あり。

(九) 澎湖群島

澎湖群島は、西洋人の所謂ベスカドル(Pescadore)群島は、大小六十三の島嶼より成り、東は澎湖水道(水道を通過する東緯百二十度の)を隔て、臺灣本島と相對し、西は臺灣海峽を隔て、清國福建省と相望み、軍事上重要な位置を占む。最大島たる澎湖島(周圍二百里)は、白沙島(周圍八里)、漁翁島(周圍十里)と相迫りて澎湖灣を形成し、媽宮(馬公)の開港及び海軍要港を有す。南西の花嶼は、帝國極西の地(東緯百十九度)なり。

(一〇) 臺灣島に於ける主要なる鐵道

臺灣本線(基隆—打狗) 淡水線(大稻埕—淡水) 鳳山線(打狗—九曲里)

その他、蘇澳、頭圍間、臺中、南投間、王田、牛馬頭間、南門、屈尺間等二十餘ヶ所に輕便鐵道

の設あり。

(一) 臺灣地方の主要なる航路。

臺灣地方に於ける主要なる航路は、主として大阪商船會社及び日本郵船會社の經營する所なり。

(1) 大阪商船會社。

大阪沖繩基隆線	橫濱打狗線	臺灣東廻沿岸線	臺灣西廻沿岸線
神戸基隆線	香港淡水線	廣東安平線	基隆上海線

(2) 日本郵船會社。

神戸基隆線	橫濱打狗線
-------	-------

(一) 臺灣地方の主要なる燈臺。

富貴角	鼻頭角	南岬	打狗	安平	漁翁島	淡水
-----	-----	----	----	----	-----	----

(二) 臺灣地方に於ける主要なる海底電線。

基隆沖繩經由大隅間	基隆長崎間	淡水福州間	安平澎湖島間
-----------	-------	-------	--------

(三) 臺灣地方の氣候。

臺灣地方は、我が國の南域にして、北回歸線夏至線殆んどその中央部を通ずるを以

て、率ね熱帶的氣候を有し、高温多濕にして、晝夜寒暑の差著るしく、往々間歇熱病に罹るゝことあり。加ふるに琉球地方と同じく、暴風雨屢襲來す。支那人の所謂大風(颱風)これなり。

(四) 臺灣地方の氣溫。

氣溫は、臺北地方(約二十一度)に低くして、恒春地方(約二十五度)に高し。恒春地方は、帝國の最高溫度を呈する地にして、帝國の最寒地樺太の落合(即ちガルキノウラスコエ(七十度)と約二十四度の差あり。

溫度最も高き時は、七八の兩月(全島の平均約二十七度)にして、この頃暴風雨の襲來すること多く、二月(恒春は十九度九)を最寒季とす。最寒季すら、臺北は十三度九を示し、東京の一ヶ年平均溫度十三度餘よりも尙ほ高きが故に、臺灣地方の熱帶性氣候なることを知るに足るべし。されども往々、大屯山等の山峯に降雪を見ることあり。

(五) 臺灣地方の雨量。

北部地方は、五月乃至九月の五ヶ月を乾季とし、十月乃至翌年四月の七ヶ月間を雨季とす。南部地方は、これに反す。基隆地方は、雨の都と呼ばれ、帝國中、雨量最も多き所に於て、一ヶ年平均約三八〇〇耗に達するを以て、これを我が最少降雨地方たる北朝鮮

と比すれば、三千三百耗の差あり。南部地方は、乾季といへども、驟雨多きが故に、一ヶ年平均約一千五百耗に達すべし。全域中雨量の最も少きは、澎湖島にして、基隆地方の約四分の一に當たれり。

(二七) 臺灣地方に於ける夏冬季の區別

臺灣島にては、一年を分ちて、冬夏の二季となすことを得べし。

(甲) 冬季……十月乃至翌年四月の七ヶ月間。

(1) 嚴寒の時なく、溫暖にして、内地の春の如し。

(2) 北東季候風多し。殊に十月乃至二月を最も甚だしとす。

(3) 北部基隆地方の雨季なり。

(4) 南部恒春地方の乾季なり。

(乙) 夏季……五月乃至九月の五ヶ月間。

(1) 暑氣頗る長し。

(2) 七八九の三ヶ月は、暴風襲來すること多し。

(3) 暴風襲來の季節外は、風力甚だ微弱なし。

(4) 南部地方の雨季、北部地方の乾季なり。

(二八) 臺灣地方の動植物

高温多湿の臺灣地方には、熱帯性の植物能く成長し、有用植物たる樟は、北部の大崙炭(大姑陷)苗栗地方に多く、樟及び杉は、中部の阿里山、臺大山地方に多し。その他、檫樹、檳榔樹(果實を染料)、林投樹(その葉は阿且葉帽子)、椰子樹、杉、竹、籐、鳳梨、龍眼樹、芭蕉、落花生、甘藷等は、各地に産す。北部、淡水川の畔には、茶(烏龍茶)の栽培盛にして、一年四回摘採し得べく、南部、鳳山地方は、甘蔗の栽培盛なること、帝國に冠たり。また諸河川の流域に於て、一ヶ年二三回の收穫をなす所少からず。動物もその數頗る多しといへども、水牛、黄牛、豚の飼養最も盛に行はる。沿海には、魚族少からず。殊に澎湖群島の近海を以て最とす。

(二九) 臺灣地方の重要産物及び産地

- (1) 鑛産……金(金瓜石、瑞芳、牡丹坑等。全島鑛産の約三分の二を占む)、石炭(基隆附近の田寮港、金瓜石、鹿耳門、金瓜石、帝國第一の金山)、硫黄(基隆附近の牛埔港、金山、金包里、金山附近の樹林等。全島鑛産の約六分の一を占む)、石油(苗栗附近の出磺坑)、砂金(基隆川)、硫黄(基隆附近の金山、金包里、金山、銅、石)
- (2) 工産……樟腦(世界第一、大崙炭、樟腦油(同上、共に神戸市)、砂糖(臺南、鳳山、嘉義、阿緜地方)、鳳梨織(鳳山)、黃麻織(同)、大甲帽(大甲地方産の蘭)、大甲蓆(大甲)、淡水帽(阿且葉)

は臺灣、淡水より産す。

(3) 農産……米(臺北、新竹地方の北部米。臺中、嘉義、彰化地方の中部米。阿緞地方の南部米。約四倍の) 烏龍茶(大稻埕地方、内地) 甘藷(沖繩、桃、斗六地方) 芋麻(新竹、宜蘭、嘉義地方) 木藍(帝國第一、主と) 落花生(彰化、斗六) 文旦(臺南、嘉義) 龍眼肉(臺南、嘉義) 鳳梨(鳳山、香)

蕉(各) 椰實(上)

(4) 水産……鹽(鹽水港、布、近海) 石花菜(基隆、宜蘭、近海)

(5) 畜産……豚(鳳山、彰化地方) 水牛(彰化、阿、斗六) 山羊(彰化、斗六地方、日本)

(6) 林産……檜杉材(阿里山、檜) 竹材(嘉義地方、店紙の) 蘆草(各地方、蘆花の原料とす) 藤(宜蘭、恒)

(二〇) 臺灣の重要貿易品。

(1) 輸出品……烏龍茶及び包種茶、砂糖、米、樟腦類、纖維類(以上一ヶ年約)

(2) 輸入品……綿布類、鴉片、金屬器、煙草類(以上一ヶ年約)

(二一) 臺灣地方の開港場。

基隆 淡水 舊港 後壠 梧棲 塗葛窟 鹿港 東石港 安平

打狗 東港 媽宮(馬公)

外國貿易の盛なるは、淡水、安平を推し、内地貿易は主として基隆、打狗、媽宮に於て行

はる。殊に淡水は、臺灣第一(帝國)の開港場にして、總貿易の約二分の一を占め、安平と共に税關の設あり。淡水に次げる開港を基隆、打狗、安平とす。

(二二) 臺灣に於ける外國領事館所在地。

淡水……北米合衆國、英國、和蘭、那威、西班牙。

安平……和蘭。

基隆……メキシコ。

(二三) 臺灣地方の住民。

臺灣の地方の住民は、約三百三十萬人(九州の約八分の三)にして、臺北、臺中、臺南の三地方に偏住し、内地人は、僅に入萬餘人(北三分の一は臺)に過ぎず。大部は、三百餘年前、南清地方(福建省の閩族、廣東省の粵族多し。粵族は閩族に)より移住せし漢族、即ち臺灣人にして、三百餘萬人あり。東部山地(東地方)には、マライ(Malay)種族に屬する先住の蕃族、約十二萬人あり。蕃族を分ちて、生蕃及び熟蕃の二種族とす。生蕃は、山地に住するアタイヤル、バイワン、アミス、ペイボ、ヤミ等の蕃族にして、各蕃社を組織し、その首長を頭目といひ、蕃丁を支配す。性兇暴にして、率ね遊獵を事とし、跡を施し、人頭を蓄へ、檳榔子を喫むの風あり。明治七年西郷從道等の征臺軍が南部の牡丹蕃等十八社を征討せしは、蓋

し彼れ等が明治四年漂流したる琉球人等六十餘人を殘害せしを以てなり。されども、近時隘勇線イブウセンの漸進するに従ひて、歸順するもの多し。熱蕃ネツハンは、夙に漢族の感化を蒙り、性順良にして、農耕に従事する民をいふ。

(三四) 臺灣地方の區劃

臺灣地方は、日清戦争の結果、清國より我が國に割讓したる臺灣本島、澎湖群島等の地にして、面積二三三二方里。臺灣總督府(臺北に在り)これを統治し、行政上これを十二廳に分つ。

廳名	面積	人口	廳所在地	廳名	面積	人口	廳所在地
臺北	一〇九 <small>方里</small>	四三 <small>萬人</small>	臺北	嘉義	二一〇 <small>方里</small>	四六 <small>萬人</small>	嘉義
宜蘭	四六	一七	宜蘭	臺南	一五二	三七	臺南
桃園	六三	二二	桃園	阿緞	一四二	二五	阿緞
新竹	一〇九	三四	新竹	臺東	八一	一一	臺東
臺中	一四七	五〇	臺中	花蓮港	八五	?	花蓮港
南投	八二	三一	南投	澎湖	八	五	媽宮

(二五) 臺灣地方に於ける人口五萬以上の都會

臺北(八七) 臺南(五四)

第二章 各論

○北臺灣(臺北、宜蘭、桃園、新竹)

(一) 北臺灣の地勢

北臺灣は臺灣島の首腦部にして、臺灣山脈、霧島火山脈(大屯山等)相連りて、北投温泉(硫黄泉)あり。臺灣の最大河たる淡水川の上流を新店川、基隆川、大嵙崁川といひ、その流域及び西海岸には、低原あり。

(二) 北臺灣の海岸

臺灣島の最北端、富貴角と鼻頭角との間に、臺灣内地間、交通上唯一の良港基隆あり。西方淡水川の口に淡水港あり、共に開港にして、北臺灣の二大良港なり。

(三) 北臺灣の都邑

(1) 基隆(二七)……臺灣島の北部基隆灣に臨める臺灣第二の開港場(内地産、食物の大輸出)臺灣第三の都會、臺灣本線鐵道の起點にして、内地より臺灣島に入るの門戸をなし、市況繁華なり。この地は、帝國第一の雨量多き所にして、俗に雨の都と稱せ

られ清佛戦争の激戦地たり附近に要塞の設ありて炭坑鑛山に程近し(長崎に六海に三七五二港上)。

(2) 宜蘭(一五)……臺灣島の北東部宜蘭低原に位し前に風景佳なる龜山島を控へ本島第一の勝地をなすこの地方には熟蕃多く籐麻類を産し頭圍蘇澳に通ずる鐵道あり。

(3) 臺北(八七)……淡水川の支流大嵙崁川と新店川との會合點附近に在る本島第一の大都會にして城内(一二)及び城外(七四)の二部より成る城内には總督府覆審法院地方法院國語學校第一守備隊司令部臺北支廳あり城外の新街大稻埕(四五)は府城の北に位する商業地にして烏龍茶の集散多しその附近に臺灣神社(官幣大社、北白川宮能久あり)舊街の艋舺(二九)は府城の南西に在りて昔時埠頭たりし所なり親王等を祀るあり。

(4) 淡水……臺灣島の北西部淡水川の口に近き臺灣第一の開港場(茶、米、樟腦等)にして淡水支線鐵道の終點なり市街を滬尾といひ税關ありこの地より清國福州(相距一三)に海底電線を通ず(廈門に二〇三港)附近には硫黃鑛山北投硫黃泉(臺灣第一)あり。

(5) 桃園……臺北の南西に位する農業地の中心にして桃園廳ありこの地より鐵道

は樟腦の産地大嵙崁に通ず。

(6) 新竹(一五)……新竹廳の所在地にして農産物の集散多く舊港(開港)に近し。

(7) 苗栗……新竹の南部に住する客家の群住地にして樟腦の取引繁く附近に後壠(開港)あり。

○中臺灣(臺中、南投、嘉義)

(一) 中臺灣の地勢

東部に臺灣山脈連りて帝國の最高山新高山(高さ一萬三千餘尺)シルビア山(高さ一萬一千餘尺)等海拔一萬尺以上の秀峯多くして本島中の最高地を成すこの高地に竹湖(湖周三、四里、水月潭)といへる山湖ありて風景絶佳なり河流には大甲川、大突川、西螺川、濁水川等あれども舟楫の便あるもの少くこれ等の河邊と海岸とは本島中最も廣大なる臺灣低原を形成し田畑遠く連れり。

(二) 中臺灣の海岸

河岸は屈曲に乏しく沙丘相連り近海は率ね遠淺にして布袋嘴、北門嶼等の鹽田あり開港場には梧棲、塗葛窠、鹿港、東石港あれども主として戎克貿易行はる布袋嘴と東海岸の烏石鼻との間は約三十七里にして臺灣島中幅員最も廣き所とす。

(三) 中臺灣の都邑

(1) 臺中(約一萬)……臺灣の中部に位する米産地の中心にして、臺中廳あり。臺灣帽を産し、南投(鳳梨地)と鐵道の便あり。南投の東埔里社には、熟蕃多く、蕃地との間、重要な位置に在り。

(2) 彰化(一、五)……臺灣の中部に位する農牧業の中心にして、その門戸をなせる開港鹿港との間、鐵道あり。鹿港(一、九)は、本島中、清國に最も近き所に在りて、梧棲塗葛窟と共に清國船常に輻湊す。彰化の南東、斗六(雲林)は、樟腦の集散地なり。

(3) 嘉義(一、九)……臺灣の中部に於ける米、砂糖の集散地にして、嘉義廳あり。この地は、明治三十九年三四月臺灣地震の時、慘狀を極めし所にして、東方に阿里山の大森林を控へ、西方に、東石港(開港)あり。

○南臺灣(阿緘南)

(一) 南臺灣の地勢

南臺灣は、中臺灣と同じく、東部に臺灣山脈運りて、高地を成し、西海岸に向ひ、緩斜面をなして低降す。本域の最大河にして、淡水川と共に、本島二大河と稱せらる。下淡水川の河邊は、低原をなして、農業盛に行はる。

(二) 南臺灣の海岸

西海岸は、中臺灣と同じく、所々に沙丘の脈を有し、近海には、遠淺の所多きを以て、天日製の食鹽を産する所少からず。打狗灣は、打狗沙嘴によりて包まれ、その入口に打狗(開港)あり。打狗は、安平、東港と共に南臺灣の貿易地として知らる。南部には、帝國極南地をなす南岬(北緯二一度四分)あり。北臺灣の富貴角を距ること約一百里、南西岬と共に、天板輪港を夾む。この地方は、臺灣島中、幅員最も狭き所にして、楓港、牡丹鼻間は、約六里。恒春以南の地は、二里未滿の所あり。北米合衆國領、フリーピン群島の呂宋島と臺灣南部との間に在る、バシー海峡(兩者の距離約二百里)は、風波荒く、霧深くして、航海者の警戒する所たり。

(三) 南臺灣の都邑

(1) 臺南(五、四)……臺灣の南西部に位する本島第二の都會(南臺灣第一)にして、製糖業大に行はれ、砂糖、米鹽の取引多し。この地は、明の鄭成功の和蘭人を追ひ、建設せし古の東寧府(本島最古)にして、久しく本島の首府たりしが故に、今尙ほ商業の盛なること、臺灣第一と稱せらる。また濱田彌兵衛の蘭人を威服せしも、この地にして、臺南廳第二守備隊司令部、地方法院等あり。

(2) 安平……臺灣の南西部、臺南の門戸に當たる開港場(砂糖、鹽等)にして、臺南との間

鐵道の便あり魚市の盛なること本島中この地の右に出づる所なしといふ。

(3) 打狗……南臺灣第一の開港場(淡水基隆に次げる貿易港)にして、打狗灣に臨み臺灣本線鐵道と鳳山線鐵道との接續地なり。

(4) 鳳山……阿緞(阿緞廳)と共に南臺灣屈指の製糖業地にして、鳳梨織を産す。附近地方は米穀豚の主産地にして、米の輸出港東港(明)その南東に在り。

(5) 恒春……臺灣最南部の名邑(帝國標)にして、帝國中最高溫度を有する地(二十九年平均二十四度五)とす。附近の地より木材籐を産す。この地方には、明治四年琉球人等を虐殺せし牡丹社等の蕃社散在す。娘嬌灣の車城は、明治七年征臺軍の上陸せし所なり。

○東臺灣(臺東、花蓮港)

(一) 東臺灣の地勢
西部には臺灣山脈ありて、土地頗る高峻を極む。この地方は兇暴なる生蕃の巢窟にして、未だ王化に霑はざる所多きが故に、内部の状況を詳にすること能はず。河流は、卑南川秀枯樂川、荖菜川等の外短し。

(二) 東臺灣の海岸
海岸は、殆んど一直線にして、臺灣山脈直に海に迫る所多く、五六千尺の絶壁(所々海成段)

り(正)を爲す所さへあれば、自ら良港に乏し。花蓮港は、臺灣沿岸を廻航する汽船の停泊地なり。島嶼には、火燒嶼(全島石灰岩)及び大小の紅頭嶼あり。

(三) 東臺灣の都邑。

(1) 卑南(臺東)……東臺灣の南部、卑南川の畔に位して、臺東廳の所在地なり。
(2) 花蓮港……東臺灣の北部に於ける花蓮港廳の所在地にして、汽船の停泊地とす。

○澎湖群島

(一) 澎湖群島の地勢。

(二) 澎湖群島の生業。

澎湖群島は、率ね百六十尺以下の低地にして、風力強く、地味瘠薄なるが故に、喬木の成長に適せず。僅に甘藷、落花生等を産するのみ。されば住民は、主として漁業に従事し、衣食住の料を他より仰げり。

(三) 媽宮(馬公)。

澎湖灣に臨める開港場、海軍要港にして、要塞の設あり。この地は、清佛戦争の激戦地を以て著はれ、清國人の築きし媽宮城あり。港内、珊瑚礁多けれども、水深くして巨船の碇泊に適し、帝國南門の鎖鑰をなす。

第三部 十州地方

第一章 總論

(一) 十州地方の位置

十州地方とは、南樺太と共に我が國の北域を成す北海道(昔時地の)の地にして、鱈魚の尾を奮ふが如き十州島(北海道)と、魚列に似たる千島三十二火山列島とより成る。千島列島の北東部に位する占守島(帝國の極東にして東)は、千島海峡(約七)を隔て、露國領カムチャトカ(東察加 Kamtschatka)半島と相對し、十州島の南西部渡島半島は、津輕海峡(約三)を隔て、本州島の斗南半島と相望み、北部の宗谷半島は、宗谷海峡(約四)を以て、樺太島の西能登呂半島と相向ふ。西は日本海に面し、北東はオホーツク海(北海 Okhotsk)に臨み、南東は太平洋に面す。

(二) 十州地方の廣表

十州島は、本州島に次げる大島にして、面積五〇五六方里。本州島の約三分の一に當たり、九州島及び臺灣島の面積の和よりも稍大なり。周圍約五八三里(本州島の約三分の一)にして、東西最も廣き所は、百四十里に亘り、南北の距離、約百里に及ぶ。千島は、我が國二大火山列島の一にして、根室灣より北東約百五十里の間に羅列し、一〇三三方里(本州島の約四分の一)の面積を有し、四國島よりは、稍小なり。

(三) 十州地方の沿革

北海道本島即ち十州島は、もと渡島または蝦夷と稱し、アイヌ族(蝦夷人)等の住せし所なり。徳川幕府の末、安政元年(1854)以來、箱立(函館)に奉行を置きて、これを統治せしめしが、明治二年七月開拓使を置き、八月蝦夷を改めて、北海道とし、これを十一箇國に分ち、同四年五月開拓使廳を札幌に設置し、同八年屯田兵の制を施き、只管その開墾に従事せしかば、拓殖の業大に進みたり。こゝに於て明治十五年二月開拓使を廢し、札幌函館根室の三縣を置き、同十九年これを廢して、北海道廳とし、漸次屯田兵を變じて、師團組織となしたり。

千島列島の南部には、古來我が國人住し、北部は、露國人の占領する所となりしが、明治八年五月兩國は、千島樺太交換條約を結びて、樺太全島を露國領とし、得撫島以北の千島十八島を我が國の領土と定めたり。

(四) 十州地方の地勢

(五) 十州地方の山脈

地勢は、北東より南西に向ひて延長し、縦走せる蝦夷山脈(天鹽山脈及び日)と北東より來たる千島火山脈とは、十州島の中央部に會合して、地勢最も高峻を極む。これを十州中央高地といふ。石狩川(九二)等の諸大河この分水界より發源して、石狩低原等を形成す。また南西部には、那須火山脈ありて、温泉所々に湧出す。湖沼の多きことは、本州島に次ぎ、且つ大なるもの少からずして、率ね火成湖若しくは海跡湖に屬す。

(六) 蝦夷山脈

樺太山脈に屬する北東山脈(天鹽山脈或は北)及び日高山脈は、北、宗谷岬より南襟裳岬に向ひて縦走し、十州島を東十州及び西十州の二部に分つ。この縦斷山脈を總稱して、蝦夷山脈といふ。脈中ヒバイロシケ(六六五)最も高く、夕張岳(六三八)、石狩岳(六二二)、芽室岳(五八六)、天鹽岳(七二四)これに次ぐ。

蝦夷山脈……(1) 北東山脈……宗谷岳、天鹽岳、石狩岳等。

(2) 日高山岳……夕張岳、芽室岳、ヒバイロシケ等。

(七) 千島火山脈

(八) 十州中央高地

千島火山脈は、北東、ロシア領のカムチアトカ(東察加)半島より來たりて、三十二の火山列島を起し、十州島の中央部に向ひて西走し、縦斷山脈なる蝦夷山脈と交叉す。この交叉點は、本道中の最高地にして、これを十州中央高地といひ、諸大河の分水界を成す。

この山脈中ヌタクカムウシユベは、本道の最高山にして、海拔七二八六尺に及び、オプタテシケ(九三六)これに次ぐ。この火山脈の通する所には、火成湖及び温泉に富む。茂興呂岳(千島)、良牛山、斜里山、跡佐登、雄阿寒岳、雌阿寒岳、ヌタクカムウシユベ、オプタテシケ、十勝岳等。

千島火山脈……

茂興呂岳(千島)、良牛山、斜里山、跡佐登、雄阿寒岳、雌阿寒岳、ヌタクカムウシユベ、オプタテシケ、十勝岳等。

(九) 十州島に於ける那須火山脈

十州島に於ける那須火山脈は、本州島の下北半島(斗南)より來たりて、渡島半島を通過し、膽振地方に連亘す。マツカリ岳(後方羊蹄山)或は蝦夷富士最も高くして、高さ六四一尺、駒ヶ岳(三六〇)、四尺、渡島富士(四二二)、樽前岳(四三三)、有珠岳(約二二〇)、明破裂し、四十五の噴火は、近年破裂せしを以て、世に著はる。脈中、温泉、火成湖多し。

那須火山脈……駒ヶ岳、マツカリ岳、有珠岳、樽前岳等。

(一〇) 十州地方の七高山

- ヌタクカムウシユベ(七二八六)、ヒバイロシケ(六六五)、マツカリ岳(六四一一)
- 夕張岳(六三八〇)、オプタテシケ(六三六九)、石狩岳(六二二〇)

芽室岳

(五八六〇)。

(二一) 十州地方の河流。

(二二) 十州の七大河。

河流は、率ね十州中央高地より發源し、石狩川(四の父川、九二里、流域九五〇方里)、天鹽川(四の母川、七七里、流域四〇〇方里)、尻別川(三六は、日本海に入り、湧別川(三〇)、常呂川(三五)は、オホーツク海に注ぎ、十勝川(東の父川、四九里、流域五九三方里)、釧路川(東の母川、三八里)、鶴川(三七)、沙流川(三四)は、太平洋に朝宗す。就中、石狩川は、本道の最長流にして、天鹽川、十勝川と共に、十州の三大河と稱せられ、これに釧路川、鶴川、尻別川、常呂川を加へて、十州の七大河といふ。

(二三) 石狩川。

石狩川は、西十州を流るゝ北海道第一の長流(九二里、流域九四里)にして、西の父川と呼ばれ、九五〇方里の流域を有し、河邊に本道第一の石狩低原と上川低原とを形成す。幅廣き所は、三五〇間に及び、本道の絶景、神居古潭、峡谷以下、石狩港に至る五十餘里の間、舟楫の便あり、長さ十里以上の支流を有すること二十五。就中、雨龍川、空知川、江別川最も大なり。實に石狩川は、帝國無比の鮭の産地とす。

(二四) 天鹽川。

天鹽川は、十州に於ける日本海斜面を流るゝ第二の長流(七七里)にして、西の母川の名あり。その流域は、四百方に及び、掌狀の天鹽低原をなす。この川は、水流緩なれども、その利大ならざるは、缺點なりとす。上流地方のクンネシリ(黒林の義は、雨龍川(石狩川の支流)の上流地方と共に、本道第一の森林地をなして、蝦夷松密生し、熊、熊の巢窟たり。

(二五) 十州地方の湖沼。

十州の湖沼は、火成湖、澤湖、海跡湖に屬するもの多し。千島火山脈地方には、屈斜路湖(周回二里)、阿寒湖(六)、摩周湖(六)、塘路湖(約五等)等あり。那須火山脈地方には、支笏湖(約一〇)、洞爺湖(九)、大沼(八)、葦原沼等あり。これ等の湖沼は、風景に富み、天然の公園をなすもの少からず。北見の猿淵湖(二三里、十州の最大湖に在り)、風連湖(一七)、網走湖(一一)、頓別湖(九)、コムケ湖(八)、海排湖(七)及び釧路の厚岸湖(七)は、海岸に在り。

(二六) 十州の六大湖。

- (1) 周圍上………猿淵湖(二三)、風連湖(一七)、屈斜路湖(一一)、支笏湖(約一〇)、洞爺湖(九)。

- (2) 面積上………猿淵湖(一五一方軒)、屈斜路湖(八七)、支笏湖(七六)、洞爺湖(七五)、能取湖(五九)、風連湖(五三)。

(一七) 十州の六大低原。

- (1) 石狩低原……石狩川の流域地方をいひ、本道最大の低原なり。南北約三十里、東西約十五里。北部に狭く、南部に擴張する楔狀低原にして、神居古潭(峽谷)より上流地方は、本道の中央部たる上川低原(旭川町の高)を成す。
 - (2) 十勝低原……十勝川の流域地方にして、東西約三十里、南北約十五里(萬町歩)の掌狀河段丘低原をなし、處々に高臺地あり。
 - (3) 天鹽低原……天鹽川の流域地方にして、楔狀の低原をなす。
 - (4) 北見低原……網走、常呂諸川の流域地方(萬町歩)。
 - (5) 釧路低原……釧路川の流域地方にして、廣袤約八里(萬町歩)。土地率ね卑濕にして、泥炭を産す。
 - (6) 根室低原……西別川等の流域地方をいひ、率ね草原にして、牧場に適す(萬町歩)。
- (一八) 十州の著名なる鑛泉。
 十州の鑛泉は、約二六〇ヶ所(約三分)にして、石狩(約三分)に最も多く、渡島、後志、膽振これに次ぎ、炭酸泉最も多し。
 渡島……湯ノ川(函館の東)、惠山(湯ノ川)、湯ノ澤(熊石)。

後志……湯ノ澤(南、硫黄泉)。

石狩……常山溪(札幌の南)。

膽振……登別(硫黄泉、間歇)。

(一九) 十州島の海岸。

十州地方の海岸線は、一三五五里に達すれども、十州島に屬するものは、僅に五八三里(本州島の約三分の一)にして、これをその面積に比すれば、甚だ少く、九州、本州、四國、臺灣等の下に位す。殊に東海岸は、出入少くして、沙丘地に富み、西海岸は、屈曲稍多けれども、斷崖を成す所多し。本島に於ける著名なる半島及び港灣を示すこと、次の如し。

- 半島……宗谷半島、知床半島、花咲半島、襟裳半島、渡島半島、積丹半島。

- 港灣……根室灣、内浦灣(噴火灣)、函館灣(渡島灣)、岩内灣、小樽灣(石狩灣)。

(二〇) 十州西部の海岸。

十州西部の海岸とは、縦斷山脈なる蝦夷山脈以西の海岸をいへるものにして、北海道本島中、屈曲に富める部なり。渡島半島は、津輕海峡に突出して、本州島の斗南、津輕兩半島と相對す。その間、約三十哩。半島の南部に巴字形の函館開港を有する渡島灣(函館

灣ありて、白神岬(十州島)、沙首岬、惠山岬等その東西に斗出す。惠山岬の北西、砂原岬は、繪鞆岬と共に内浦灣、噴火灣を包み、その北東隅に室蘭開港あり。繪鞆岬より東方襟裳岬に至る間は、弓状の海岸をなして、良港に乏し。

渡島半島の西部には、水垂岬(十州島)、白絲岬ありて、奥尻島との沖に横はる。辨慶岬(源義夷地の形勢を望見)と積丹半島(産地)の神威岬(神聖の岬の義にして往古この岬より北立して波危(亂)との間には、岩内灣あり。積丹岬と高島岬との間には、余市灣あり。高島岬と雄冬岬(本道大嶽道の一、雄冬岬)との間の灣入を石狩灣(小樽灣)といひ、小樽開港あり。天鹽の海岸は、屈曲少く、その沖に禮文、利尻、焼尻、天賣の諸島あり。宗谷半島は、宗谷海峽(約四)を隔て、樺太島の西能登呂半島と相對し、野斜布、宗谷(十州島)の兩岬あり。

(二一) 十州東部の海岸

十州東部の海岸とは、縦斷山脈なる蝦夷山脈以東の海岸をいひ、北海道本島中、海岸線の發達少き地方とす。北見は、オホーツク海に面し、海岸は、率ね沙丘より成り(本邦著地)殆んど一直線の海岸より成るを以て、良港に乏し。その南東部、知床半島(岬角を知床と能取岬との間に斜里灣あり。宗谷岬より知床岬に至る海岸百餘里の間、冬季流水の爲めに、航海杜絶せらる。根室と國後島(千島)との間の海峡を根室海峡といひ、野付崎

との間には、野付水道あり。花咲半島(政國後亂の時、松前氏岬といひ、所)の南に斗出して、北海道東部の良灣たる根室灣(根室開)を成す。この近海は、冬季、結氷し、流水漂ひ、海流の影響によりて、深霧(十州地方にて)屢起り、航海危険なり。納沙布岬より南西襟裳岬(昔蝦夷と口蝦夷とを分ちし所、近藤守重の開きし新道)に至る間は、弓状の海岸をなし、屈曲にあり。本道屈指の險道にして、北海道新道の初なり)に至る間は、弓状の海岸をなし、屈曲に乏しけれども、東部に花咲灣(根室港の副港、附近の港)、濱中灣、厚岸灣、釧路港(開港)あり。

(二二) 千島の海岸及び島嶼

(二三) 南千島と北千島

オホーツク海に於て、斜に並列せる千島(土人はチヌムカカ露國人)列島は、火山帯に屬するが故に、到る所、斷崖多しといへども、所々に平夷なる沙濱あり。これを東經一五一度の子午線によりて、南千島及び北千島の兩部に分つことを得べし。南部は、對馬海流に洗はるゝ所あれども、大部は、千島海流に洗はる。また東方には、タスカロラ(Escalora)海床(深さ約二萬八千尺)あり。

南千島には、國後山(嶽)、火、擇捉得撫(八島はもと露領たりしもの)の三大島ありて、その間に國後、擇捉等の海峽あり。色丹島は、千島アイヌの移住地にして、斜古丹港あり。北千島の最大島を幌筵(幌)といひ、その南西宇志知島は、鴨の群棲地にして、また鴨島の

名あり。北東の占守島は、千島海峡(七)を隔て、露國領カムチアトカ半島と相對して、我が國の東極(東經一五六)をなし、北方の阿頼度島は、我が國の北極(北緯五六〇)をなす。幌筵島と恩禰古丹島との間の海峡を安必登瀬戸海峡といひ、新知島の得撫島との間には、ボーソリ海峡あり。

(二四) 十州地方の海流。

ベーリング(Bering)海(露國探検者の海)を経て來たる極流とオホーツク海の北東隅より來たる寒流は、カムチアトカ半島の南方に於て相合して、千島寒流(親潮海流)となり、千島列島を洗ひ、十州島の南東近海を流る。對馬暖流は、本州島の西海岸を洗ひ來たりて、十州島の西方及び宗谷海峡を過ぎ、オホーツク海に入り、北見の近海を流れ、千島列島の南方に至りて消滅す。

(二五) 十州島の鐵道。

十州島の道路は、明治十九年以來、山地を除く外、漸く脈絡を備へ、鐵道は、明治十三年開拓使の幌内鐵道(手宮、幌内)を敷設せし以來、漸次、發達の機運に向ひ、交通及び拓植上頗る利便を與ふるに至れり。今その主要なる鐵道を列擧すること次の如し。

函館本線(函館—旭川) 幌内線(幌内—旭川) 歌志内線(砂川—歌志内)

手宮線(小樽—手宮) 室蘭本線(岩見澤—室蘭) 夕張線(紅葉山—夕張)

釧路線(旭川—釧路) 天鹽本線(旭川—名寄) 留萌線(旭川—留萌)

網走線(池田—陸別)

(二六) 十州地方の航路。

石狩川は、神居古潭(峽谷)五十餘里の間、小蒸汽船の便ある外、十勝川、釧路川等も、また舟楫を通ず。

十州地方の近海に於ける汽船航路は、日本郵船會社、大阪商船會社等の經營する所にして、その主要なるもの次の如し。

(1) 日本郵船會社……青森室蘭線 神戸小樽東廻線 函館網走擇捉線 小樽稚内線
小樽網走線 樺太線

(2) 大阪商船會社……浦鹽斯德廻航線 樺太線

(3) 日本西廻汽船商會……神戸小樽西廻線

(二七) 十州地方に於ける主要なる燈臺。

(1) 十州島

函館 沙首岬 惠山岬 繪柄岬 浦河 幌泉 襟裳岬

釧路	大黒島	落石岬	納沙布岬	根室	宗谷岬	稚内
利尻島	増毛	石狩	小樽	神威岬	辨慶岬	奥尻島
江差	福山	白神岬				

(2) 千島

泊 安波移矢岬

(二八) 十州地方に於ける主要なる海底電線

木古丹(島渡)津輕半島間	函館津輕半島間	函館下北半島間
砂原岬(島渡)繪柄岬間	後志奥尻島間	天鹽燒尻島天賣島間
北見利尻島禮文島間	稚内大泊間	稚内海馬島間
根室泊間	國後擇捉間	

(二九) 十州地方の氣候

(三〇) 十州地方の氣温

(三一) 十州地方に於ける攝氏寒暖計五度以下の地方

(三二) 十州地方の雨量

(1) 温度

十州地方は樺太と共に帝國の最寒地に屬するを以て概して寒冽なれども西海岸(日本)は對馬暖流の影響を蒙りて千島寒流の爲めに洗はるゝ東及び南海岸(太平洋)よりも溫和なり故に根室灣は冬季結氷し流水漂ふといへども同緯度に位する石狩地方の海面は結氷することなし根室釧路の近海は寒暖二流の相交はる所なれば海霧屢起る。

本島の中央たる上川低原(夏は三四度、冬は以下三九度)及び十勝川天鹽川の上流地方は夏季の温度高けれども冬季は頗る寒く大陸的氣候の如き有様を呈す本道中氣温の最も高きは函館(七九)地方にして最も低きは紗那(四〇)釧路(四二)十勝(四四)上川(四八)根室(四九)宗谷(四九)地方にして札幌(六四)地方はその中間に位す。

(2) 風向及び雨量

十州地方の風向は夏は率ね南東風にして冬は北西風流行す雨量の少きとは帝國中樺太と共に朝鮮に次ぎ寡雨地方に屬すれども比較的その多きは日本海岸(西海)にして少きは南東海岸(太平洋及び北海)なりとす蓋し海流の影響與りて力あるものなり殊に九月を以て最降雨期となす融雪期は四月下旬にして晩春に至らば百花一時に開き盛夏を過ぎて牽牛花桔梗菊等の一時に咲き揃ふの奇觀を呈する

ことあり。

- 西部……森都(一四八) 函館(一〇四) 札幌(一一〇) 上川(一一三)
- 東部……宗谷(七九) 根室(八八) 襟裳岬(八七) 網走(九二)

(三三) 十州地方と畧同緯度の外國都市の溫度。

ウラヂボストク (Vladivostok).....	四四	モスクワ (Moskva or Moscow).....	三八
ペテルブルグ (St. Petersburg).....	三三	ベルリン (Berlin).....	八八
パリ (Paris).....	一〇五	ウィーン (Wien or Vienna).....	九四
ダブリン (Dublin).....	一〇〇	セントジョンズ (St. John's).....	五〇

(三四) 十州地方の重要農産物及び産地。

十州地方に於ける農民の数は、總人口(二四四萬)の約四割五分を占め、農業は漸次進歩せるも、未だ隆盛の域に達せざるなり。

- (1) 麥類……十州第一の農産物にして、裸麥(主として食料)及び燕麥(主として家畜の飼料)最も多く、大麥(酒醸造用)及び小麥(主として製粉用)これに次ぎ、石狩、天鹽、日高、膽振、後志、渡島(西部)より産す。
- (2) 小豆……十州第二(帝國)の農産物にして、主に西部地方より産し、晒箔等の原料に

供せらるゝも、大部は、輸出せらる。

- (3) 大豆……十州第三(帝國)の農産物、十勝低原は、産出最も多く、室蘭大豆また名あり。
- (4) 馬鈴薯……十州第四(帝國)の農産物、主として西部地方より産し、澱粉、酒精の原料に供せらる。
- (5) 菜種……十州第五(帝國)の農産物にして、西部地方を主産地とし、製油原料に供せらるゝ外、大部は、輸出せらる。

- (6) 玉蜀黍……十州第六の農産物にして、主に酒精の原料、家畜の飼料に供せられ、西部地方に多し(以上十州の六農産物にして、主として輸出せらる。)

その他黍(帝國)菜豆、蘿蔔、蕎麥、亞麻(帝國)薄荷等あり。果實類の中、産額最も多きは、苹果(余市を第一とし、空知、札幌、小樽にして、梨、櫻桃、葡萄、ベリー(の原料)等これに次ぐ。)

(三五) 十州地方の重要畜産物及び産地。

十州地方の牧畜業は、開拓使時代の初、外國種を輸入し、明治五年七飯牧馬場を設置せし以來、漸次隆盛に赴けり。

- (1) 馬……鹿兒島縣と共に帝國の主産地にして、約十餘萬頭あり、新冠(日高)、七飯(渡島)、根室、釧路、厚岸、釧路、真駒内(石狩)、當縁(十勝)等は、その主産地なり。

- (2) 牛……網走地方に最も多く、石狩、渡島、十勝、釧路地方これに次ぐ。
- (3) 羊……綿羊、山羊の二種ありて、石狩(約三分)、十勝(約六分)に多し。
- (4) 豚……西部地方に多し。

(三六) 十州地方の重要林産物及び産地。

十州地方の森林面積は、約五百九十萬町歩(全土の六)にして、日本本部森林面積の二割三分を占め、網走、上川、河西、釧路地方に最も多し。

闊葉樹林(部)……白楊(樺の産出あり)、栓、柏(鐵道枕木とし、樹皮)、鬼胡桃(武器製)最も多く、ヤチダモ、桂、キハダ、大檜等これに次ぐ。

針葉樹林(北見、猿拂、阿寒湖地方)……榎、松(鐵道枕木、造船用、製紙原料)、蝦夷松(鐵道枕木、造船用、製紙原料)を第一とし、赤蝦夷松、色丹松等これに次ぐ。

(三七) 十州地方の重要鑛産物及び産地。

十州地方の鑛産額は、約八百萬圓にして、石炭(産額の約八分)を第一とし、硫黄、金、銀、砂金、石油、滿俺これに次ぐ。

- (1) 石炭……福岡縣に次ぎ、帝國第二の産地にして、百餘ヶ所より産出す。殊に石狩、大鹽、宗谷の三炭田より産出するもの多し。

(2) 硫黄……跡佐、登、釧路、羅臼(國後島)、硫黄山、後志、惠山、渡島、捨子、古丹島(千島)等五十餘ヶ所より産出し、品質佳良にして、北米、合衆國、濠洲等に輸出す。帝國第一にして、總産額の約七分の五を占む。

(3) 金及び銀……主として膽振、後志より産出し、幌別(釧路)一、蕨、國富、然別の鑛山あり。殊に金は、鹿兒島縣の約二分の一を産す。

(4) 砂金……北見、天鹽、石狩等の各地(六百餘)より産するも、枝幸最も著はる。

(5) 石油……渡島(部)、膽振(部)、石狩(部)等二十餘ヶ所より産す。

(6) 滿俺……主に渡島(加)、後志(部)地方より産し、英、米等に輸出す。

(三八) 十州の著名なる石炭産地。

(1) 石狩炭田(石狩川、東部、東西五里、南北二十)……夕張、幌内、空知、幾春別(北海道炭礦社所有)。

(2) 天鹽炭田(雨龍川、天鹽地方、南北二十里)……宗谷炭田(宗谷地方、東西七)。

(4) 釧路炭田(釧路、厚岸地方、東西二十五里)……茅沼炭田(後志地方、内地方)。

(6) 幕別炭田(日高、染、退)。

石狩、天鹽、宗谷の炭田は、十州の三炭田と稱せられ、品質良好の評あり。

(三九) 十州地方の水産業。

十州地方は、世界三大漁業場の一にして、帝國第一の水産業地（魚類の總産額千三百倍約四）なり。後志、北見、天鹽、石狩（以上百萬圓以上）を十州の四大水産業地とし、渡島、釧路、根室、千島これに次ぐ。千島の近海よりは、臘虎（得撫島）臘肭獸等海獸の産あり。

(四〇) 十州地方の重要水産物及び産地。

- (1) 鯨……十州は、帝國第一の鯨産地（鯨と共により日本の三、大水産物、十州水産額の約）にして、北海道漁民の七割は、これに従事し、全道海岸線の五分の二は、その産域に屬す。殊に西海岸近海（釧路）を第一の産地とし、北東海岸及び南海岸近海これに次ぐ。その大部は、肥料に供せられ、江差は、身缺鯨（物江差）を以て最も著はれ、鯨粕は、根室、粕を第一とす。鯨油は、工業上に用ゐらる。
- (2) 鮭……石狩川（河口より約）は、帝國第一の鮭産地にして、西別川、網走川これに次ぐ。鯨と共に輸出額少からず。
- (3) 昆布……十州は、帝國第一の昆布産地（帝國總産額の）にして、徳川時代以來、海鼠、干鮑と共に長崎御用物と稱せられ、清國に輸出せらる。製品には、長切昆布（大部を占輸出す）及び元揃、花折（共に渡島、大）等あり。その主産地を納沙布岬（根室）より釧路川口に至る間、襟裳岬、禮文島、利尻島の近海とす。

(4) 鱈……捕獲量の多きことは、十州第一。白神岬より廣尾（十勝）に至る海岸（州第一は十）

近海を第一とし、西海岸近海これに次ぐ。

(5) 鱈……十州は、帝國第一の鱈産地にして、食用に供せらる。外、肝油となすもの少からず。産地は、後志（鱈根或は鱈）を第一とし、渡島、天鹽、釧路これに次ぐ。以上を十州に於ける五大水産物といふ。

(6) 柔魚……主として南海岸の近海。

(7) 鱈……十州は、樺太と共に帝國屈指の鱈産地。絞粕は、擇捉島に多く、鹽漬は、石狩、天鹽、北見、根室に多し。

その他、海鼠、鮑あり。牡蠣は、廣島縣と共に名高く、厚岸灣（牡蠣島の湖と稱せられ）より産し、千島の近海は、臘虎、臘肭獸を産す。

(四〇) 十州地方の工産物。

十州地方は、工業未だ盛ならざれば、工産少し。酒類、醬油、亞麻絲、馬鈴薯、澱粉、罐詰、セメントは、その主なるものにして、札幌、小樽等より産す。

(四一) 十州地方の住民。

十州地方に於ける人口は、約一四五萬（東京市の人口より少く、一）にして、その大部を

占むるものは、内地移住民なり。その密度は、南西部に多くして、北東部に少し。移住民は、明治二年七月開拓使を置きし時(五千人)より、漸次その数を増加したるものにして、奥羽及び北陸道地方の民最も多く、濃尾、四國地方の民これに次ぐ。色丹島には、占守島等より移住せし穴居の土人あり。

(四二) アイヌ族。

アイヌ族は、もと本州島にも蔓延して、東夷或は蝦夷人と稱せられし民をいひ、生存競争の結果、今は、十州島、樺太島等に住するに至れり。その數、文政五年(1822)の頃には、二萬四千餘人(十州島には二萬一、樺太島は千餘人)ありしと稱すれども、今は一萬八千餘人となれり。その大部は、日高(内、沙流川地方最も多く、釧路)に住して、全數の約三分の一を占め、膽振(約五分地方)に十勝、釧路これに次ぐ。

その體格は、偉大にして、男子は、眼窩凹み、全身に毛多し。既婚の女子は、口邊に黥を施す遺風ありしが、漸次この弊風を除去せり。また男女共にアツシといへる織物を以て製せる衣服を著せしも、今は内地製の衣服を用うるもの少からず。性、樸直魯鈍にして、漁獵に従事し、毎年、熊祭の儀式を行ふ。

(四三) 十州地方の區劃

(四四) 十州地方の區制地及び支廳

十州地方即ち北海道は、渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室(以上十州)千島の十一ヶ國にして、北海道廳(札幌)これを管轄し、行政上これを三區(札幌、小樽、函館)及び十四支廳に分つ。

支廳名	管轄	面積	人口	支廳所在地
函館	渡島の南西部	二二二	二二	函館區
檜山	渡島の南西部	一八三	六	江差
後志	後志の西部	二四二	一六	倶知安
札幌	石狩の南部	二二九	一〇	札幌區
石狩	石狩の中部	四二八	二〇	岩見澤
上川	石狩の東部	六三四	一四	旭川
天鹽	天鹽の西部	二九二	六	増毛
膽振	膽振の大部	二八一	九	室蘭
日高	日高	三二二	三	浦河
北見	北見の西部	三三二	三	稚内

支廳名	管轄	面積	人口	支廳所在地
網走	北見の南東部	七〇二	四	北見
根室	根室千島	一二七三	二	根室
釧路	釧路	四五六	四	釧路
河西	十勝	六三六	六	帯広

(四五) 十州地方に於ける人口五萬以上の都會

- (1) 小樽區(九、一) (2) 函館區(八、七) (3) 札幌區(七、〇)

(四六) 十州地方に於ける開港場

函館 <small>(北米合衆國、英、露、那の領事館あり)</small>	小樽	室蘭	釧路	根室
---------------------------------------	----	----	----	----

第二章 各論

○西十州(後志、室蘭、浦河、札幌、天鹽の四ヶ國○函館、檜山)

(一) 渡島の都邑

(1) 函館區(八、七)……渡島國函館(古の箱立)灣(巴)灣頭に位する北海道出入の要地(十州會の部)第一の開港場(安政六年に開きし港一)にして、松前氏の時(後幕府松前氏に)

り以來、水産物の輸出多く、近年、硫黄の輸出もまた少からず。また函館本線鐵道の起點、北海道樺太、浦鹽、斯德、航路の燒點にして、税關、控訴院、函館支廳、外國領事館、大船渠、函館八幡宮(國幣中社、應神天皇を祀る)等あり。かくこの地は、交通上の要地なるのみならず、要塞地にして、辨天崎に砲臺を設け、陸奥の大湊と共に津輕海峽を扼す。その北東、龜田の五稜廓(昔時東方華夷の界たりし所、函館奉行堀利は、明治戊辰の際、榎本武揚の死守せし所にして、その外濠より函館氷を産す。函館の北方、鐵道に沿ひて、七飯牧場及び森港あり。

(2) 福山(舊名松前)……渡島の南西海岸に位する十州最古の都(武田信廉の創建)にして、松前氏の世々こゝに城居し、本道を統管せし所なり。鯨の取引多し。

(3) 江差……渡島の西海岸、本道第一の鯨漁業地にして、世にこれを江差物と呼び、ここに檜山支廳あり。

(二) 後志の都邑

(1) 岩内(舊名)(一、九)……後志の西海岸、壽都、余市と共に鯨の取引多く、附近の地より苹果、葡萄を産す。また、瀧、國富、然別の鑛山(産銀を)及び茅沼炭田と近し。

(2) 小樽區(九、一)……舊名をオタシナイといひ、後志の北東、石狩灣岸に位して、札幌の

門戸をなす。本道第一の商業地(高等商業學校あり)第二の開港場(鮭、石炭、鐵道、枕木等を輸出す)にして、浦鹽斯德(約一、二哩)樺太内地等と航路を通じ、また鐵道の便あり。附近の手宮地方より石器時代の遺物を出だす。小樽の西方に水産物(鮭、鱈)積出の要津、余市あり。

(三) 膽振の都邑。

(1) 室蘭(二〇)……膽振の南、室蘭灣に臨める開港場(石炭の輸)にして、室蘭支廳、日本製鋼會社(北海道炭礦汽船會社と英國ニューカッスルのアイムストロング會社と合同組織す)あり。室蘭本線鐵道及び東海街道この地より起る。

室蘭の北方には、登別溫泉(硫黃泉)あり。北東の幌別金山は、北海道第一の金産地なり。また北西、有珠岳(明治四十三、洞爺湖地方は、勝地を以て著はれ、紋甕(室蘭大豆、亞)、蛇田(アイヌの部落あり)の小都邑あり。

(2) 倶知安(一、七)……膽振の西部、函館本線鐵道に沿ひ、後志支廳あり。西方に硫黃山(硫黃の産地にして、また岩盤登)を控へ、南に蝦夷富士の名ある火山マツカリ岳(齊明天皇の時、阿倍比羅夫この地討せり)あり。

(3) 山越内……膽振の南西、内浦灣に臨み、鐵道の便あり。この地昔時、華夷の關所ありし所にして、その北、國縫は、松前氏の巨魁崎佐左衛門の夷會と激戦せし所なり。

(4) 苫小牧……膽振の南東海岸、札幌及び東海兩街道の分る、所に位し、附近にアイヌの部落あり。南西の樽前は、鱈漁業の盛なること、本道に冠たり。

(四) 日高の都邑。

(1) 平取……日高の西部を流る、沙流川の流域は、アイヌの群住地にして、河畔の平取には、その大部落を有し、源義經祠と稱するものあり。河口の佐瑠太は、世々總會長の住せし所なり。

(五) 石狩の都邑。

(1) 札幌區(七、〇)……石狩低原の南西部、石狩川の支流、豊平川の畔に在り。明治四年開拓使本廳の設置以來、遂に發達し、今は本道第三の都會となり、北海道廳、札幌支廳農科大學(東北大學の分科)あり。麥酒、麥粉、麻布を産し、郊外に林檎、葡萄等の果園及び牧場あり。南西、札幌岳附近の常山溪溫泉(鹽類泉)には、浴客常に絶えずといふ。

(2) 石狩……石狩川の口附近に在りて、石狩川汽船航路の要地たるのみならず、松前氏時代より石狩三場所の一に算せられ、鮭漁業の大中心なり。

(3) 岩見澤(二、二)……石狩の南部に位する本道第五の名邑。函館本線、室蘭本線兩鐵道の接續地にして、幌内、夕張、幾春別、諸炭山にもまた鐵道を通ず。また農業の大中心

にして、貨物の集散繁く、北海道中央市場の觀あり。

北方の砂川(一〇)は、歌志内(二〇)の炭坑を控へ、南西の江別(二二)は、農業地の中心なり。

(4) 旭川(三三)……石狩川上流の上川低原に位する本道第四の名邑にして、燐寸軸木の集散多く、上川支廳第七師團司令部あり。神樂岡は、上川離宮の豫定地にして、附近に神居古潭(峽谷)の絶勝あり。これより以下、石狩川は、舟運の便あり。旭川は、本道中、冬夏の温度大に差ある地なれども、札幌より北見に通ずる中央街道の衝に當たり、函館本線、留萌線、天鹽線、釧路線諸鐵道の集合點なるが故に、市況頗る榮え、將來、本道の中央市場たるに至るべし。

(六) 天鹽の都邑。

(1) 増毛(一四)……天鹽の南西部に在る良港にして、増毛支廳あり。この地は、松前氏の時より留萌(留萌)と共天鹽四場所と稱せられ、漁業の中心なれば、マシユゲ(漁業盛)と呼ばれし所以なり。留萌(二三)は、天鹽炭田を控へ、水産物の取引行はれ、旭川と鐵道の便あり。

○東十州(北見、根室、釧路、十勝の四ヶ國、宗谷、網走、根室、釧路、河西の五支廳)。

(一) 北見の都邑。

(1) 稚内……北見の北西、宗谷半島に在る良港。大泊(九〇)、小樽(七三)との間、汽船の便ありて、鯨昆布の取引多く、宗谷支廳あり。その東に宗谷(ソカヤ)あり。西方、日本海には、鯨、昆布の産地、禮文、利尻(北見、富士利)の兩島あり。

(2) 網走……北見の南東、オホーツク海岸、屈指の港なり。この地方は、本邦中、雨量少き所にして、鯨の收利少からず。これより旭川、根室、釧路、帶廣等に至る通路あり。

(二) 根室の都邑。

(1) 根室(一〇)……花咲半島に位し、根室灣に臨める開港場(昆布、鯨、鮭、鱈、千島に渡るの要津にして、松前氏の時以來、東部の要地を以て知られ、アイヌと貿易せし所なり。函館(二八)等と汽船を通じ、根室支廳あり。近海濃霧(カス)屢起り、殊に冬季は、海水氷結するを以て、背合せの花咲港に揚荷す。

(三) 釧路の都邑。

(1) 厚岸……牡蠣の産多き厚岸灣岸に位する鯨、昆布等、水産物の集散地にして、本道屈指の名刹、國泰寺(臨濟)あり。

(2) 釧路(一七)……釧路川口附近の開港場(鯨、昆布、燐寸、軸木、木屑、硫黄等を輸出す)にして、釧路支廳あり。こ

の地、釧路炭田及び跡佐登硫黄鑛山(上流の標茶ま)と相近く、旭川と鐵道を通じ、函館(二)等と汽船の便あり。

(四) 十勝の都邑。

(1) 帯廣……十勝(性兇暴なるトブカチ)低原(大豆の)に位し、河西支廳あり。これより十勝川を下らば、十勝、大津の名邑あり。

○千島列嶋(千島の國、根室)。

(一) 國後島。

千島三十二列島極南の大島(千島)にして、爺岳等の火山附近より硫黄を産す。近海は、鯨鯨、海獸の收利あり。泊及び乳香路は、千島線航路汽船の寄港地とす。

(二) 色丹島。

國後島の東方、約三五哩に在り。千島土人の移住地にして、斜古丹港あり。

(三) 擇捉島。

國後島の北東に在る千島三十二列島中の最大島なり。島内山多く、海岸に僅少の低地あるのみ。内保單冠紗那、藥取單根萌諸港の中、紗那最も著はれ、單冠は、近藤守重の從、是大日本なる標柱を樹てし所なり。

(四) 得撫島。

明治八年露國より得たる島にして、近海臘虎の産多きが故に、また臘虎島の名あり。舟泊の要地を床丹といふ。

第四部 南樺太

第一章 總論

(一) 南樺太の位置。

南樺太は、露國人の所謂薩哈噠(Saghalien)島の南域をいひ、東は、オホーツク海に枕み、西は、間宮海峡(間宮林藏の探檢せし所)を隔て、露領シベリアの沿海州と相對し、南は、宗谷海峡を隔て、十州島と相對す。北は、北緯五十度の線を以て、露領樺太州(北樺太)と相接す。

(二) 南樺太の廣袤。

南樺太の面積は、二二〇八方里にして、九州及び臺灣よりは、稍小なり。東西の幅員、約八里(久春内真縫間)乃至四十里(幌内河口附近)南北約一二〇里あり。

(三) 南樺太の沿革。

樺太(唐太)即ち往時北蝦夷と稱せられし地は、徳川氏の初より、我が國人往來せしが、寛政二年(1790)松前氏の臣高橋寛光治廳を九春古丹(露人の所謂哥爾)に建て、土民を撫育し、次で文化四年(1807)近藤守重(重藏)またこれを探検せり。然るに露國人もまた來住するに及びて、兩國民一島に雜居することとなり、北緯五十度を以て兩國領の境界となさんと議生するに至れり。されども我が國は、明治三年一月樺太開拓使を置き、これを經營せしかば、爾後兩國の境界論起り、遂に明治八年五月七日露國駐劄全權公使板本武揚は、露都に於て、露國の全權公使ゴルチアコフ(Gortschakoff)と千島樺太交換條約を締結し、樺太全島を彼れに譲り、我が國は、得撫島以北の千島十八島を得て、北邊の事漸く定まりぬ。こゝに於て露國は、これを薩哈噠(Sachalin)と稱し、コルサコフ(Korsikov)に府を建て、これを治めたり。然るに日露戰役起りしに及びて、我が軍は、明治三十八年七月全島を占領したりしが、ポーツマス(Portsmouth)の講和條約(明治廿八年)によりて、我が國は、北緯五十度以南の地即ち所謂南樺太(露領樺太州)を領有し、樺太廳を豊原(もとのウラジミロフカ)に置きて、これを治むることとなり。なり。

(四) 南樺太の地勢

南樺太の地勢は、一般高峻ならずして、北緯五十度附近に於ける日露兩國境界地方

の最も高き所といへども、尙ほ四千尺を超ゆることなし。樺太山系を起せる東部樺太山脈及び西部樺太山脈の縦斷並行山脈は、一は北知床岬に盡き、一は西能登呂岬に終る。この兩山脈間の縦谷低原を流るる川を幌内川(アイヌ語の大河の義、長さ約八三里)といひ、本域の最長流にして、多來加灣に注ぐ。殆んどその三分の一は、舟楫の便あるのみならず、漁舟の碇泊するもの少からず。湖沼は、率ね海岸に在り、多來加湖(面積約八)を以て最とす。

(五) 南樺太の重要な河川

- (1) 多來加灣に注ぐもの……幌内川(約八三) 内淵川(約四〇) 野頃川(約二二)。
- (2) 亞庭灣に注ぐもの……留多加川(約五五) 鈴谷川(約二八)。

(六) 南樺太の重要な湖沼

湖沼は、率ね海岸に存し、北部の幌内低原に位する多來加湖(面積約八)を以て、本域の最大湖とす。南部、中知床半島の頭部に位する富内湖(面積約七)これに次ぐ。その南、亞庭灣岸には、池邊澗湖、和愛湖、遠淵湖等あり。西海岸の來知志湖また著はる。

(七) 南樺太の低原

河湖の近傍及び海岸地方には、低原あれども、率ね卑濕にして、沼澤多く、農耕に適せ

ざる所多し。内淵、鈴谷、留多加三川の灌漑せる鈴谷低原及び幌内低原を以て、本域の二大低原となす。前者は、地味肥沃、農耕に適すれども、後者は、凍原(Findra)に屬し、泥炭層より成り、夏時僅に蘚苔類の密生するのみにして、馴鹿に棲息す。島内到處る所針葉樹(椴松、落葉松、蝦夷松等)及び潤葉樹(白樺、ハンノキ、白楊等)の日本列島無比の原生大森林ありて、全面積の約三分の二を蔽ひ、熊、狐等の獸類その間を徘徊す。

(八) 樺太の海岸

南樺太は、南北に亘れる狭長の島にして、西は、間宮海峡(徳川氏の名に於て命ず。また、間宮海峡と)を以て、露領シベリアの沿海州と相望み、東はオホーツク海、南は宗谷海峡に面す。海岸は、概して沼澤に富み、僅少の屈曲ある外、率ね平直にして、良港に乏し。能登呂半島(西能登呂)及び中知床半島(同名の岬あり)は、相迫りて、亞庭灣を成し、灣中、對馬岬の西に千歳灣(大泊開)あり。久春内、真縫間(北緯四八度附近)は、南樺太の最も狭き所にして、約八里の幅員あるに過ぎず。その北東の灣を多來加灣といひ、北知床半島(同名の岬)その東部を限る。この邊、樺太島中、幅員最も廣き所にして、約四十里に上る。島の大なるものを海馬島(能登西島の)及び海豹島(北知床半島の南)となす。要するに樺太の近海は、冬季、海水氷結するを以て、碎氷船の設あり。

(九) 南樺太附近の海流

(1) 樺太寒流(東派樺太海流)……本島の東海岸を洗ひ、十州島の北東岸に至りて消滅す。

(2) 來滿寒流(西派樺太海流)……本島の西海岸に沿ひて、南西流し、朝鮮の東海岸地方に達す。

(一〇) 南樺太の交通

(甲) 陸路

南樺太の道路は、未だ不完全にして、大泊より豊原、内淵等を経て、幌内川流域に通ずる南北幹線道路及び豊原より西樺太山脈を横斷して、西海岸の真岡に達する道路等の外、見るべきものなし。加之この地方は、冬季、氷雪の爲めに蔽はるゝ所多く、交通上不便ならす。貨物等の運搬には、犬橇を用うるもの多し。

鐵道には、榮町より大泊等を経て、豊原に通ずる樺太線(約二六哩)あるのみ。

(乙) 水路

幌内川、内淵川、鈴谷川、留多加川には、多少舟運あれども、充分に交通運搬を助くること能はず。海路は、日本郵船會社、大阪商船會社等の汽船會社によりて經營せらる。

- (1) 日本郵船會社の函館樺太線航路……函館、小樽、真岡、大泊。
- (2) 大阪商船會社の樺太線航路……小樽、大泊、真岡、野田山、泊居、久春内、鶴城、北名、好安別。

(3) 樺太廳命令航路。

- 東海岸第一線(五月)……小樽—元泊或は敷香。
- 東海岸第二線(五月)……小樽—散江湖或は敷香。
- 西海岸第一線(四月)……小樽—安別或は北名寄。
- 西海岸第二線(四月)……小樽—北名寄。
- 冬季線(十二月)……小樽—真岡。
- 西海岸第三線(五月)……小樽—北名好。
- 亞庭灣内線(四月)……大泊—西能登呂或は泊。
- 西沿岸線(四月)……真岡—藻入或は久春内。

この地方は、冬季に至らば海水氷結し、全く航海を杜絶するを以て、碎氷船或は海底電線により、僅に内地と音信するあるのみ、春季(解氷期)といへども、流水、深霧の爲めに航海を妨げらるゝこと多し。

(一) 南樺太地方の重要な海底電線。

大泊—稚内 真岡—坂ノ下 真岡—北名好 海馬島—稚内。

(二) 南樺太の氣候。

南樺太は、位置、地形、海流等の關係によりて、氣候に著るしき變化あり。夏季は、比較的溫暖なるに拘らず、冬季は、頗る寒冽を極め、年平均溫度甚だ低し。率ね南部は、對馬暖流の影響を受けて、稍暖なりといへども、これより北東部に進むに従ひて、溫度遞減す。各地を通じて、最も寒きは、一月にして、最も暑熱を感ずるは、八月なり。夏季の風は、南風多く、冬季は、北西風流行す。降雨は、三月に多くして、八月に寡少なりといへども、概して雨量少く、帝國中、朝鮮の北部海岸地方と共に最寡雨地に屬す。また十一月より四月に至る七ヶ月間を降雪季とし、九月より六月に至る間には、降霜あり。かく本島は、臺灣の暑熱に反して寒きが故に、冬季海水氷結し、南部の大泊地方にても、三月下旬にあらざれば、解氷せざるなり。南樺太の最も溫度低き地は、落合(〇、七)にして、帝國の最寒地とす。これを帝國の最熱地、恒春と比すれば、約二十四度の差あり。

地名	一月の溫度	最低溫度	八月の溫度	最高溫度	年平均溫度	降水	量	降水日數	降雪日數
大泊	下五、四	下三、七	一七、八	二七、〇	二、五	七三	一八七	一三八	

真	下二三、七	下二四、六	一八、〇	二六、四	三、一	七五二	二〇六	一四〇
豊	下二八、九	下三九、〇	一八、三	三〇、七	一、八	八二四	一五二	九七
敷	下二二、一	下四五、五	一六、五	三〇、五	一、一	七四〇	—	—
落	下二二、六	—	一七、五	—	〇、七	九八一	一九〇	一二六

(二三) 南樺太の重要産物及び産地。

- (1) 水産… (五〇ヶ年約三) 鯨(主に西州及び南海岸。總額の約三分) 鱈(南海及び) 鮭(南海及び東) (一ヶ年約四) 鯨(主に西州及び南海岸。總額の約三分) 鱈(南海及び) 鮭(南海及び東)
- (2) 鐵産… 石炭(幌内川内) 砂金(亞庭) 硫化鐵(西海) 石油(西海)
- (3) 林産… 榎(各地) 蝦夷松(上) 白楊(能登呂)
- (4) 畜産… 貂(主に) 狐(上) 犬(各地) 馴鹿(上)
- (二四) 南樺太の石炭産地。
- (1) 北部… 幌内炭田(東四二里、南)
- (2) 中部… 泊居炭田 川上炭田
- (3) 南部… 能登呂炭田 中和床炭田
- (二五) 南樺太の森林。

南樺太の森林は、帝國屈指の原生大森林にして、その面積三百十餘萬町歩に達し、全面積の約三分の二を蔽ふ。榎、松、落葉松、蝦夷松等の針葉樹殊に多く、森林の約三分の二を占めて、各地に在り。白樺、赤楊、白楊等の潤葉樹は、能登呂半島等に生長す。

(二六) 南樺太の區劃。

南樺太は日露戦争の結果、明治三十八年九月のポーツマス條約によりて、露國より我が國に割讓せし地にして、樺太廳(豊原に)これを統管す。その下に五支廳を置きて、これを分治せしむ。

支廳名	管轄	面積	人口	支廳所在地
大泊	南海岸地方	二七一	〇、六六	大泊
豊原	東南海岸地方	三七三	〇、六六	豊原
敷香	同北部地方	九三七	〇、一〇	敷香
真岡	西南海岸地方	三一	一、一一	真岡
名好	同北部地方	三二四	〇、〇七	北名好

(二七) 南樺太の住民。

南樺太の總人口は、二萬六千餘人にして、その密度、一方里につき、僅に十二人(東京府)

二方里(二萬)に過ぎず。蓋し我が國に於て、人口最も稀薄なる所なり。溫度等の關係上、住民は、主として南部の眞岡、大泊、豊原地方に偏住す。

その大部(千餘人)は、内地人にして、その他、少數の土人(餘二千)及び外國人(露國人及び)あり。土人の中最も多きをアイヌ人(百餘人)とし、オロチヨン人(約三、ギリヤーク人(百五十)サングース人、ツングース人等これに次ぐ。

第二章 各論

(一) 南樺太の都邑。

- (1) 大泊(舊名九春古丹或はコルサコフ。土人はオ)……南部、千歳灣に臨める南樺太第一の良港(鯨鮫等の水産物)帝國屈指の水産物集散地にして、本島の入口に當たれる要地なれども、港内水浅く、冬季氷結するを缺點とす。大泊支廳及び守備隊兵營あり。樺太線鐵道は、榮町より起り、この地を過ぎて、豊原に通ず。
- (2) 豊原……南部、鈴谷川の東に位する本島の首都にして、樺太廳守備隊司令部、豊原支廳、樺太神社(官幣大社、大國)あり。樺太線鐵道、こゝに終り、西海岸の眞岡、東海岸の柏濱に通ずる道路、この地より起る。

- (3) 眞岡……南西海岸に位する不凍港にして、鯨漁業の中心たり。眞岡支廳こゝに在り。
- (4) 内淵……南東海岸の内淵河口附近に在りて、鮭、鯨の漁業盛なり。
- (5) 敷香……幌内川の口に近く、多來加灣に臨み、敷香支廳ありて、鮭の取引を以て著はる。
- (6) 北名好……北西海岸に在り。間宮海峽に臨める鯨漁業の中心にして、名好支廳あり。

第五部 朝鮮

第一章 總論

- (一) 朝鮮の位置。
- (二) 朝鮮の四極。

朝鮮(西洋人の所謂)は、亞細亞大陸の東部、日本海と黄河との間に突出する狹長の半島にして、北は長白山脈、鴨綠江、圖們江(豆滿江)によりて、清國滿洲(吉林省)及び露國領シベリアの沿海州に連り、南は、朝鮮海峽を隔て、九州地方の對島と相對す。その間僅に

四十裡に過ぎず。朝鮮に於ける標準時は、東經一二七度三〇分の線を以て、これを定む。

極東……蔚陵島(松島)の東端……東經 一三〇・五四

極西……鴨綠江の西端……同 一二四・一八

極南……濟州島の南端……北緯 三三・一二

極北……咸鏡北道の北端……同 四三・〇二

(三) 朝鮮の廣袤

朝鮮は、亞細亞大陸の東部に位する狹長(南北廣き所は約六〇里、南北長き所約二五〇里)の半島にして、面積一、四一、二三方里にあり。即ち本州島(一、四四、九二方里)よりは、稍小にして、帝國總面積四、三三、九三方里の約三分の一を占む。

(四) 朝鮮の沿革

朝鮮の古史は、詳ならざれども、傳へいふ始祖檀君なるもの、神代の時、王險(平壤)に都したりしが、その後、箕子、周の武王に封せられて、國を朝鮮(日出)と號せり。これを史に古朝鮮といふ。その後、九百餘年を経、第四十一代、箕準の世(老元の時)に至りて、燕の人、衛滿の爲めに亡ぼされ、衛氏の世となれり。その孫、衛右渠が漢の武帝の將、楊僕に滅ぼさるゝに及びて、漢に屬したり。當時、南韓地方には、馬韓(今の全羅、忠清地方)、辰韓(今の慶尙、北道地方)、辨韓(今の慶尙、南道地方)

にして後の所謂三韓鼎立せり。

次で崇神、垂仁の朝、馬韓は百濟となり、辰韓は新羅となり、新に北部(今の北韓及び起りたる高麗と共に、三國を形成したりしも、朱雀天皇の時、高句麗(開城)の世となり、後龜山天皇の時、李世桂、京城に都して、再び朝鮮と號せり。史にこれを新朝鮮といふ。新朝鮮は、久しく清國に貢ぎしが、日清戦争の結果、我が大和民族、誘掖の下に、明治二十八年四月、獨立帝國となり、翌年八月、八道を増して十三道とし、同三十年十月、國號を大韓と改稱せり。

その後、日露戦を交ふるに當たりて、明治三十七年八月、日韓協約を結びしも、翌年九月、ポーツマス條約によりて、朝鮮は我が保護國となれり。こゝに於て十二月更に、日韓協約を結びて、京城に統監府、各要地に理事廳を置くに至りしが、同四十三年八月、我が國は、東洋の平和上、韓帝國を合併し、統監府に代ふるに、文武の大政を掌れる總督府を以てし、再び朝鮮の名を用ふることとなりぬ。李朝相傳ふること五百九年。

(1) 檀君の時代……(神代)

(2) 箕氏(古朝)の時代……(神代—孝元)

(3) 衛氏の時代……(孝元—開化)……支那人統御時代

- (4) 漢の屬國時代……………(開化―崇神)
- (5) 三國時代……………(崇神―朱雀)
 - (イ) 新羅……………(崇神―朱雀)
 - (ロ) 高麗……………(崇神―天智)
 - (ハ) 百濟……………(垂仁―齊明)
 - 任那(加羅)……………(垂仁―欽明)
- (6) 高句麗の時代……………(朱雀―後龜山)
- (7) 李氏の時代……………(後龜山―明治四十三年)
 - (イ) 貢明時代……………(後龜山)――明正……………新朝鮮時代
 - (ロ) 貢清時代……………(明正)――明治二十八年……………
 - (ハ) 獨立(日本保護)時代……………(明治二十八年―同三十八年)……………韓帝國時代
 - (ニ) 統監府時代……………(明治三十八年―同四十三年)……………
 - (ホ) 總督府時代……………(明治四十三年以降)……………朝鮮

(五) 朝鮮の地勢

朝鮮半島は、到る所山多くして、低地に乏しきが故に、西洋人は、評して暴風下に於ける海面の如しといへり。されども概して北部及び東部に高くして、南部及び西部に低し。元山灣及び江華灣を連ねたる線によりて、朝鮮を面積殆んど相等しき兩部に分つことを得べし。また地體の構造上、東部(日本海斜面)を表朝鮮といひ、西部(黄海斜面)を裏朝鮮といふことを得べし。前者には、河流少けれども、後者には、頗る多し。全域湖沼の大きなものなし。

北朝鮮には、長白山脈(朝鮮の最高)等の横斷山脈多きを以て、河流及び低原もまたこれに伴ふといへども、南朝鮮には、大白聯脈(金剛)等の縦斷山脈多く、河流及び低原また横相連り、地貌頗る錯綜す。よりにてこの地方の河川には、屢屈折して流るもの多し。蓋し政治上及び軍事上、平壤地方の重要視せらるゝ所以を知るに足るべし。

朝鮮に於ける最高山を長白山脈に屬する白頭山(八九〇)といひ、頂上に火口湖あり。溫泉もまた少からず。忠清南道の溫陽(硫黄)殊に著はる。河流には、鴨綠江(本の最長流)圖們江(九〇里)等の五大河あり。日本海斜面には、低原に乏しけれども、黄海斜面の錦江、大同江、漢江と朝鮮海峽面の洛東江流域の低原とは、政治及び殖産交通上、名あり。

(六) 北朝鮮の地勢

北朝鮮(平安南北道)を組成する横断山脈は、主に崑崙山系の餘派が清國山東角より來たれるものにして、太古界の結晶片岩を山骨とす。滿洲との境上に連互せる長白山脈(清國人の所)は、最北部に在り。その最高峯を白頭山(八九一〇尺、頂上に火口湖)といひ、朝鮮第一の峻峯なり。鴨綠江(二四〇)、圖們江(九〇)の二大河、その南を相背流して、清國及び露領シベリアとの國際的河流をなす。この山脈の南部には、相並行せる江南山脈(三稱、秋楡山脈(秋楡、妙香山脈(妙香)の三横断山脈ありて、北朝鮮の高原蓋馬高原を形成す。北朝鮮には、前記二大河の外、大同江(七〇)、清川江等の河流ありて、大同江低原最も大なり。

(七) 中朝鮮の地勢

南北兩朝鮮の縫合帯は、朝鮮半島の中域(京畿、黃海)を占め、慈悲山脈(黃海道の名)等の五横断山脈、馬息嶺山脈(嶺等)等の五縦断山脈相交りて、頗る複雑せる地勢をなし、漢江(七〇)、臨津江、金川江等の如きは、その間を縫ひ、屢屈折して江華灣に注ぎ、河邊に廣大なる低原あり。江原道の北部には、北朝鮮地方第一の難關と稱せらるる、鐵嶺の險あり。

(八) 南朝鮮の地勢

(九) 南朝鮮の二大低原

南朝鮮(慶尙、全羅、忠清)即ち三南地方に於ける東部の地體は、主に北朝鮮及び中朝鮮

の横断山脈と斜交して、半島を縦貫する大白聯脈(金剛山等、この山は楓岳或は一萬二千の四大、小白聯脈(智異山、秋寺あり)等によりて構成せらる。これ等の縦断山脈は、南進するに従ひて、その高度を減す。その西部には、清國崑崙山系の南嶺山脈の餘派たる車嶺山脈(南朝鮮第一の難關たる鳥嶺等)、蘆嶺山脈等の横断山脈あり。これ等の山脈は、古代の地層より成り、半島の古き骨格を形成す。

南朝鮮の河川は、これ等の山脈と相關係し、錦江、鎮江、榮山江は、南西走し、洛東江(七〇)、蟾津江は、南流す。これ等の河邊は、低原をなせども、洛東江低原、錦江低原、最も著はれ、朝鮮に於ける農産物の寶庫をなす。

(一〇) 朝鮮に於ける主要なる山脈

- (1) 北朝鮮
 - 長白山脈(横断)……………白頭山(八九一〇尺)。
 - 江南山脈(同右)……………三稱嶺。
 - 秋楡山脈(同右)……………秋楡嶺。
 - 妙香山脈(同右)……………妙香山。
- (2) 中朝鮮
 - 慈悲山脈(同右)……………九月山。
 - 馬息嶺山脈(縦断)……………馬息嶺。

- 大白聯脈(山脈)……………金剛山。
- 小白聯脈(同右)……………智異山(六四〇〇尺)、秋風嶺。
- (3) 南朝鮮……………
 - 車嶺山脈(山脈)……………鳥嶺。
 - 蘆嶺山脈(同右)……………

(二一) 朝鮮に於ける著るしき山。

朝鮮の最高峰は、白頭山(長白山脈八九一〇尺)にして、頂上に火口湖あり。智異山(小白聯脈六四〇〇尺)等これに次ぐ。金剛山(大白聯脈)五臺山(同山脈五峯)は、景勝を以て、濟州島の漢拏山(漢羅)は、舟客の目標を以て、鐵嶺及び鳥嶺は、難險を以て稱せらる。智異山、漢拏山には、廣大なる森林あり。

(二二) 朝鮮に於ける著るしき温泉。

日本列島に於ける温泉の大部は、率ね火山地方に存在して、火山と密接の關係を有すれども、朝鮮に於ける多くの温泉は、花崗岩、片麻岩等より成る地層より湧出し、率ね阿爾加加泉(Alkaline spring)にして、間々硫黄泉に屬するものあり。

- 東 萊(慶尙南道) 金 井(上同) 溫。陽(忠清南道) 柳 城(上同) 溫 井洞(忠清北道) 溫 井(江原南道)
- 溫井院(黃海道) 安 岳(上同) 藥水洞(平安南道) 五龍洞(上同) 龍 岡(上同) 溫井站(平安北道)

溫水坪(咸鏡北道) 湯子坪(上同) 溫水洞(上同)。

(二三) 朝鮮の七大河。

- 鴨綠江(帝國の最長流、一四〇里) 圖們江(豆滿江、九〇里) 漢江(七〇里) 洛東江(七〇里) 大同江(七〇里)
- 錦 江(鎭江、七〇里) 榮山江。

(二四) 朝鮮の各斜面に於ける重なる河川。

- (1) 黃海斜 面……………鴨綠江(一四〇里) 漢 江(七〇里) 大同江(七〇里) 錦 江(七〇里)
- 榮山江 清川江 臨津江 金川江。

(2) 朝鮮海峽斜面……………洛東江(七〇里) 蟾津江。

(3) 日本海斜面……………圖們江(九〇里)。

(二五) 朝鮮の三大低原。

(一六) 朝鮮の三大農業地。

洛東江低原 錦江低原 大同江低原。

(二七) 鴨綠江。

鴨綠江(古の益州江)は、清國滿洲と朝鮮の北西部との間を流るゝ國際的河川にして、帝國の最長流(延長一四〇里)なり。下流は、通天河、中江、上江の三派に分れ、河口に廣大なる三稜洲を

有す。幅廣けれども、水淺く、岩礁多く、流急なるを以て、比較的交通便利ならず。されども、戎克船は、帽兒山(江口より約百里)附近に上ることあるも、通例の船舶は、昌城(江口より約四〇里)に達するを常とす。新義州(開港)龍岩浦、安東(清國の開港)大東溝(上同)は、その沿岸に於ける良港なり。

(二八) 圖們江(豆滿江)。

圖們江(九〇)は、朝鮮の北東部と清國滿洲及び露領シベリアとの間を流るゝ國際的河川、朝鮮第二の大河にして、幅廣く、水深きも、流急なると、河口に土沙堆積するとの缺點あり。もと河口に鹿島といへる三稜洲ありしも、今は大陸部に接続す。茂山、會寧(清城との間、鐵道)、鐘城、穩城、慶原、慶興は、その河畔に位する名邑にして、古來朝鮮の東北六鎮稱せられ、景興以下舟運あり。また河口と上海との間、定期航路を通ず。

(一九) 漢江

漢口(七〇)は、中朝鮮の黄海斜面を流るゝ河川にして、朝鮮七大河の一なり。小舟は、春川(江原道)、汽船は、京城(開港)に上りて、舟楫の便少からず。河水結氷する時は、人馬の上を通行し得べし。

(二〇) 洛東江。

洛東江(七〇)は、朝鮮七大河の一にして、南朝鮮の朝鮮海峽斜面を流る(河口に大三稜洲あり)。洛東以下約四十里の間、舟運あり。その河邊は、朝鮮屈指の大低原にして、地味肥沃、農産頗る多く、金海龜浦、三浪津、密陽、尙州、安東は、洛東江地方の名高き市場の設ある所なり。

(二一) 錦江(鎮江)。

錦江(七〇)は、南朝鮮の黄海斜面に在る朝鮮七大河の一なり。美江以下約七十里の間、舟運の利あれども、汽船は、河口の群山(開港)より江景を過ぎて、公州(餘里)に達す。河邊の錦江低原は、木、麥、大豆、綿等の産多し。

(二二) 大同江。

大同江(七〇)は、朝鮮七大河の一にして、北朝鮮の黄海斜面に在り、平壤附近以下舟楫の便あるのみならず、河水比較的清潔にして、飲料に適すれども、冬季七八十日の間、河水氷結す。その低原は、北朝鮮第一の農産地を以て著はれ、また河邊より金、石炭の産出頗る多く、平壤、兼二浦、鎮南浦、漁隱洞等の名邑あり。

(二三) 榮山江。

榮山江は、南朝鮮の黄海斜面に在りて、朝鮮七大河の一なり。汽船は、常に河口の木浦(開港)と榮山浦(三洲)との間を往來し、河邊地方より産する農産、織物等を輸送す。

(二四) 朝鮮の海岸。

(二五) 朝鮮の近海。

(二六) 朝鮮の島嶼。

朝鮮半島は、日本海(東)・黄海(西)及び朝鮮海峡(南)に臨み、海岸線の延長約七百里あり。對馬暖流と來滿寒流とは、その沖を流る。

(1) 東海岸(日本海岸)……斷崖絶壁の急斜面をなす所多く、出入極めて少くして、北部に雄基灣、中部に東朝鮮灣(永興灣に海軍要港、徳源灣に元山開港あり)、南部に迎日灣あるのみ。江原道の海岸は、景勝に富み、關東八景の名所あり。その近海の海水は、清澄なれば、古來、碧海と稱せられ、且つその深度頗る大にして、北朝鮮の沖には、日本海の最深所あり。島嶼の數は、極めて少く、著るしきものには、鬱陵島(松杉の大森林ありて俗に松島と稱し、境と釜山との殆んど中央點に)あるのみ。

(2) 西海岸(黄海岸)……緩慢なる斜面をなし、海岸の出入複雑にして、近海に數多の島嶼散在す。黄海半島の北には、西朝鮮灣、大同江灣あり。同半島と泰安半島との間には、海州灣、江華灣あり。泰安半島と右水營半島との間には、牙山灣(日清戰史上)、群山灣、木浦灣あり。島嶼は、南部及び中部に彙集し、北部に至るに従ひてその數を減す。中部には、江華島、豊島ありて、共に戰史上に名あり。群山の近海には、西北列島、元山

列島、隔音群島あり。木浦の近海には、雙子列島、西草群島、新伊爾群島等ありて、朝鮮多島海と稱せらる。珍島と右水營半島との間を碧波亭(俗に朝鮮鳴門といふ)といひ、海霧屢起り、風波荒く、航海頗る難む。

要するに東海岸近海は、潮汐昇降の差少く、僅に一、二尺内外に過ぎざれども、西海岸近海は、十尺を超ゆる所少からず。仁川附近にては、三十三尺に及び、世界中その差最も大なるカナダ(Canada)のファンデー(Fundy)灣(約七十尺)の約二分の一に當たりて、帝國中これに比すべき所なし。従ひてその海底は、遠淺をなす所多し。

(3) 南海岸(朝鮮海峡海岸)……屈曲に富み、數多の半島岬角ありて、釜山開港、鎮海(第五軍港)等の良港あり。島嶼の數も、また頗る多く、釜山附近にては、潮汐昇降の差、四尺餘に達す。濟州島(首都を濟州といひ、舟客の目標となる、漢翠山ありて、大森林をなす)即ち西洋人の所謂ケルバート(Kelport)島は、朝鮮の最大島にして、巨濟島(壬辰の役、海軍の戦地たり)また著はる。巨文島即ち西洋人の所謂ポート、ハミルトン(Port Hamilton)島は、對馬と共に、朝鮮海峡に於ける要害の地とす。

(二七) 朝鮮の三大島。

濟州島 巨濟島 江華島。

(二八) 朝鮮の三列島

西北列島 元山列島 雙子列島

(二九) 朝鮮の三群島

隔音群島 西草群島 新伊爾群島

(三〇) 朝鮮の東西海岸の比較

東海岸

西海岸

- (1) 急斜面にして、断崖絶壁の所多く、文明未だ洽からず。
 - (2) 河流少く、交通不便を極む。
 - (3) 海岸出入少く、良港灣に乏し。
 - (4) 近海の深度大にして、海水清澄なり。
 - (5) 潮汐昇降の差少し。
 - (6) 島嶼少し。
-
- (1) 緩斜面にして、肥沃なる低原に富み、大都會多し。
 - (2) 大河頗る多く、交通便なり。
 - (3) 海岸屈曲に富みて、良港灣少からず。
 - (4) 近海遠淺をなす所多く、黄海と稱せらるゝが如く、海水、比較的汚濁す。
 - (5) 帝國中、潮汐昇降の差最も大なり。
 - (6) 島嶼多し。

(三一) 朝鮮の主要なる普通道路

朝鮮に於ては、幹線道路の外、殆んど道路と稱すべきものなし。旅行者は、鐵道敷設地方の外、馬若しくは輜輿に乗るを常とす。幹線道路の重なるもの次の如し(京義、京仁の兩街道は、朝鮮の最良の道路)

- (1) 京釜街道……京城—釜山(東線、西線、中央線の三線あり約九一里)
- (2) 京順街道……京城—順天(約八里)
- (3) 京元街道……京城—元山(約九四里)
- (4) 京義街道……京城—義州(約六里)
- (5) 京仁街道……京城—仁川(約四里)
- (6) 元慶街道……元山—慶興(約七〇里)

(三二) 朝鮮の主要鐵道

(三三) 京城より主要なる都會に至る距離

- (1) 京釜線……京城(南大門二七四哩)—釜山(三線あり約九一里)
- (2) 京仁線……京城(永登浦一九哩)—仁川(約一九哩)
- (3) 京元線……京城(三六一哩)—元山(約九四哩)
- (4) 京義線……京城(京城龍山三一哩)—新義州(約三一哩)
- (5) 京平線……京城(兼二浦線八哩)—平壤(兼二浦線三四哩)
- (6) 馬山線……京城(三津二五哩)—馬山(約二五哩)
- (7) 湖南線……京城(大田一六哩)—木浦(約一六哩)
- (8) 平南線……京城(平壤三四哩)—鎮南浦(約三四哩)

現時朝鮮に於ける鐵道(軌道の幅四呎七)は、約六七〇哩(帝國鐵道の總延長約七千哩)あり。京城には、電氣鐵道の設あり。また鏡城より會寧に通ずる鐵道は、他日敷設せらるべき吉會鐵道

(吉林會)及び吉長鐵道(吉林長)と連絡せしめ、内地北滿洲間の捷路たらしむるものなり。
京城より鐵道によりて各地に至る距離及び時間は、率ね次の如し。

新義州	(三) 四時間	奉天	(三) 五〇〇	大連	(四) 七四七	營口	(三) 六八二	天津	(七) 四八八
北	(三) 九三五	哈爾濱	(五) 〇三七	浦蘆斯德	(七) 六二五	釜山	(二) 〇七四	馬山	(九) 二六八
東	(四) 九七八	釜山下關	約一時間						

(三四) 朝鮮地方に於ける主要なる航路。

朝鮮地方に於ける航路は、主に大阪商船會社、日本郵船會社等の經營する所にして、その主要航路次の如し。

- (1) 大阪商船會社。
 - 大阪仁川線 大阪清津線 横濱大連線 長崎朝鮮大連線
 - 大阪安東線
- (2) 日本郵船會社。
 - 神戶浦蘆斯德線 神戶朝鮮牛莊線 横濱大連線 横濱牛莊線

その他、鐵道院の下關釜山線、釜山汽船會社の釜山木浦線、釜山濟州島線、釜山迎日線、福田商會の木浦群山線、木浦濟州島線等、吉田商會の釜山雄基線、元山雄基線等、清國汽

船會社の上海圖們江線(長崎)等あり。

(三五) 朝鮮に於ける著るしき燈臺所在地。

- (1) 東海岸……迎日灣口 永興灣口 元山津 城津。
- (2) 西海岸……大和島(江口) 西島(大同江口) 姊妹島(上) 仁川港 木浦 竹島。
- (3) 南海岸……巨文島 絶影島 釜山浦。
- (三六) 朝鮮に於ける海底電線。
 - 釜山對馬間 釜山下關間 元山松江間 巨文島肥前間 巨文島大連間。

(三七) 朝鮮の氣候。

(三八) 朝鮮の氣温。

(三九) 朝鮮の雨量。

(1) 氣温。

朝鮮殊に北部地方は、冬季(最寒の時)は十二月乃至二月は最も寒し。大陸北部の寒冷なる氣候の影響を蒙りて、極めて寒く、河水氷結し、圖們江の如きは、約半年間も氷の爲めに鎖さるゝことあり。加ふるに晝夜に於ける氣温の差、頗る大にして、南朝鮮は約七度、北朝鮮は約十度内外に達す。されども三寒四暖(三日寒く四日暖きこと)の天恵を受くると、温突(朝鮮人の家屋

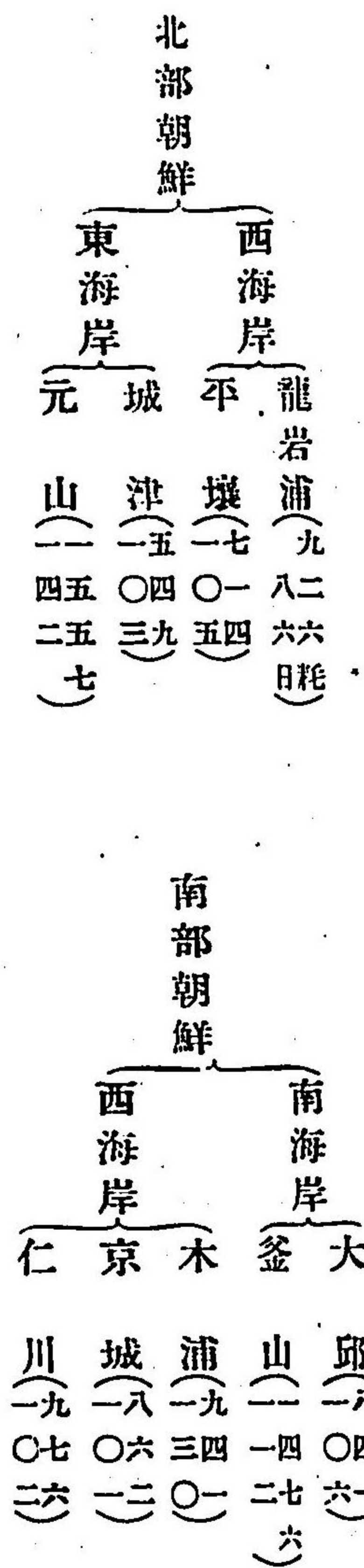
の床下に温突を設け焚火の烟温をの設けあるとによりて、稍その寒冽を凌ぐに足るべし。夏季（殊に八月を極暑とす）は、頗る暑く、所謂大陸的氣候に屬す。南部は北部よりも比較的溫暖なり。要するに北朝鮮の氣候は滿洲に、南朝鮮の氣候は、本州に類似す。

北部朝鮮		南部朝鮮		極寒二月の溫度		極暑八月の溫度		一ヶ年平均溫度
東海岸	西海岸	南海岸	西海岸	最低	平均	最高	平均	
元山	龍岩浦	釜山	木浦	一九	二五	三三	二五	一〇〇
城津	平壤	大邱	京城	二二	二五	三五	二五	一〇六
元山	龍岩浦	釜山	木浦	一九	二五	三三	二五	一〇〇
城津	平壤	大邱	京城	二二	二五	三五	二五	一〇六
元山	龍岩浦	釜山	木浦	一九	二五	三三	二五	一〇〇
城津	平壤	大邱	京城	二二	二五	三五	二五	一〇六
元山	龍岩浦	釜山	木浦	一九	二五	三三	二五	一〇〇
城津	平壤	大邱	京城	二二	二五	三五	二五	一〇六
元山	龍岩浦	釜山	木浦	一九	二五	三三	二五	一〇〇
城津	平壤	大邱	京城	二二	二五	三五	二五	一〇六

要するに南朝鮮は十三度内外、中朝鮮は約十度、北朝鮮は八度内外の氣温を有す。

(2) 風向及び雨量

冬季は、北西風多く、夏季は、南東風流行す。平均雨量は、約九八〇耗にして、東十州地方南樺太と共に寡雨地に屬す。東海岸の元山地方及び南海岸の釜山地方は、千四百五百耗に上れども、その他は、率ね九百耗以下なり。殊に城津地方（約五百耗）を以て、帝國の最少寡雨地となす。故に冬季の寒冽なるにも拘らず、積雪（至十二月上旬乃）甚だ少く、北朝鮮といへども、僅に二、三尺に達するのみ。降霜は、十月下旬より四月中旬に至る。また一ヶ年三分の一以上の雨天ある地を、元山地方とし、その他は率ね百日内外なり。加ふるに降雨期（八七）は、概して短しとす。



(四〇) 朝鮮の農業

農業は、朝鮮の生業中第一に位し、國民の經濟は、みなこれによりて維持せられ、農民

約七百五十萬人(全人口の約二分の一)これに従事す。近年政府は、東洋拓植會社(京城)を組織し、勸業模範場(水原)及び農林學校(水原)等を置きて、銳意その改良進歩を謀れり。民有地は、約一七〇萬町歩(田畑各約半)ありて、殊に南朝鮮に多し。主要農産物には、米(日本本部の約六分の一)、大豆(同九分)、人蔘(第一世界)、麥(日本本部の約五分の一)、棉花(殆んど日本本部)、小豆、煙草(日本本部の約二分の一)、苧麻(第一國)、藍、荏子、果實、葡萄、梨、苹果等あり。

(四一) 朝鮮の重要農産物及び産地。

- (1) 米……日本本部の約六分の一(約八百萬石)を産し、慶尙、全羅地方(四分の一)及び忠清、京畿、黄海地方(四分の一)に多くして、江原、平安、咸鏡地方(五分の一)に少し。年々、釜山、群山、仁川、木浦諸港より内地に輸入する額(約五百萬石)少からず。
- (2) 大豆……日本本部の約二分の一を産し、清國滿洲地方と共に世界にその名を知られ、年々釜山、仁川、元山諸港より内地に輸入する額、約五百萬圓あり。その主産地を慶尙、南北道、黄海道、咸鏡南道とす。
- (3) 人蔘……品質の佳良、産額(水蔘約一萬五千斤)の多きこと、世界その比なく、その大部を清國に輸出す。製品には、紅蔘(品質真好なるを蒸した)、白蔘(生人蔘を直に乾)及び尾蔘(蔘としい根ある下)の三種ありて、重に藥用に供せらる。その主産地を京畿道(開城産最)及び黄海道とし、開城はその大集散地なり。
- (4) 麥……産額は、日本本部の約五分の一(約四百萬石)に當たり、慶尙、全羅、黄海諸道より産す。
- (5) 棉花……産額は、日本本部と匹敵し、全羅南道に最も多く、慶尙南道、平安南道これに次ぐ。
- (6) 小豆……黄海、平安諸道より産す。
- (7) 煙草……朝鮮人は、古來、煙草を好むこと、バラグアイ(Turkey)人と共に著はる。が故に、産額(日本本部の約二分)少からず。全羅北道、京畿道、黄海道、江原道、平安南道をその主産地とす。
- (8) 苧麻……朝鮮(韓)の原産にして、咸鏡南道、全羅北道、忠清南北道、平安南北道より産す。れども、咸鏡南道、咸興の北關麻、忠清南道、麻谷里の京麻最も名あり。
- (9) 藍……全羅南道、梁山江地方、同北道、全州地方より産す。
- (10) 荏子……荏子油の原料にして、三南地方より産す。
- (11) 果實……葡萄、梨、苹果殊に多く、京城、釜山、大邱、平壤地方より産す。

(四二) 朝鮮の畜産物及び産地。

(四三) 朝鮮の養蜂業。

朝鮮の主なる畜産には、牛、馬、驢、豚、犬(犬肉の需)等あり。養鶏業も、また各地に行はる。
(1) 牛……四五十萬頭(日本本部の約二分)ありて、咸鏡南道、慶尙南北道に多く、牛皮の輸出夥し、概して北朝鮮産は、南朝鮮産に比して優良なり。

(2) 馬……咸鏡南北道、平安北道に多けれども、その數二萬頭に過ぎず。

(3) 養蜂業……古來、朝鮮にては、蜂蜜を食用、藥用及び蠟燭の原料に使用するを以て、需要多く、國中到る所、飼養たらる。殊に江原道、咸鏡南北道、全羅南北道に最も盛なり。

(四四) 朝鮮の重要工産物及び産地。

(四五) 朝鮮の工業。

朝鮮の工業は、盛ならざるを以て、輸入品を仰ぐこと少からず。織物(綿布、絹布、苧麻布)、紙、筵、蓆、竹細工、金屬器等の稍見るべきものあるのみ。染色業は、全州(全羅)地方に行はる外、みな幼稚なり。

(1) 綿布……衣服その他に需要すること頗る多けれども、綿布工業盛ならざるを以て、輸入額年々千餘萬圓に上れり。綿布産地として最も著はるは、慶尙南道の晋

州(晋水と稱せら)にして、全羅南道(務安)、平安南道(平壤)これに次ぐ。

(2) 絹布……江原道の鐵原は、朝鮮第一の紬産地にして、平安南道(成川)、同北道(寧邊)全羅北道(南原)、同南道(綾州、光州)等これに次ぐ。

(3) 苧麻布……咸鏡南道(古來麻布を)の咸興布(北)、忠清南道麻谷里の京布、平安南道の孟山布及び徳川春布、同北道の寧布(寧邊)最も著はる。

(4) 紙……楮皮、桑皮、葉等を原料とし、慶尙南北道、全羅北道、忠清南北道の産は、品質良好を以て著はれ、平安南道産(山)は、産額多きを以て知らる。

(5) 筵、蓆類……華筵の大産地は、全羅南道寶城、京畿道の江華島にして、蓆類は、慶尙北道の金泉、京畿道の喬桐島より産す。

(6) 竹細工……朝鮮(全羅南道羅、潭陽等)竹製笠帽(濟州)等あり。

(7) 金屬器……平安北道寧邊は、その特産地たり。

(8) 陶磁器……開城は、高麗焼の本場なりしも、今は各地共に産出額少し。

(四六) 朝鮮の林業。

(四七) 朝鮮の三大森林。

朝鮮に於ける林野の面積は、約千百萬町歩を算し、北部に多くして、南部に少し。森林

の多きを咸鏡南道、平安南道、江原道とし、鴨綠江森林(平安北道、二十九萬町歩、明化、狼林山森林(同、二十一萬町歩)、圖們江森林(咸鏡北道、十八萬町歩、朴泉)の三大森林ありて、樺、檜、柏、落葉松、杉等の有用植物よく繁茂す。竹林は、南部に限らる。政府は、營林廠を新義州に置き、支廠を各地に設けて、材木製材の事業を經營す。

(四八) 朝鮮の森林に於ける有用植物。

南部と北部とは、氣候を異にするを以て、自ら植物の種類を異にす。

北朝鮮……唐檜、落葉松、樅、五葉松、樺、榆、白楊、檉、柏、杉。

南朝鮮……赤松、樺、檉、赤楊、榆、柳、椴、黃楊、竹。

(四九) 朝鮮に於ける著名の森林。

鴨綠江森林(平安北道、二十九萬町歩) 狼林山森林(同上、二十一萬町歩) 圖們江森林(咸鏡北道、十八萬町歩)

烏嶺森林(慶尙北道、七萬町歩) 知異山森林(同南道、四萬町歩) 鱗蹄山森林(江原道、約二萬町歩)

漢羅山森林(全羅南道、一萬五千町歩) 安眠島森林(忠清南道、六千町歩)

(五〇) 朝鮮の水産業。

(五一) 朝鮮の七大水産物。

(五二) 朝鮮の三大漁業。

(五三) 朝鮮の製鹽業。

朝鮮は、三面海に瀕し、海岸線に富むが故に、水産物多く、その種類、一百餘種(五十餘種物)あり。その産額は、一ヶ年約七百餘萬圓に上り、漁業者は、八萬五千人を算し、朝鮮人の約四分の一は、これによりて生活す。殊に明太魚(北魚或は助藤魚)は、朝鮮第一の水産物にして、石首魚(石魚或は全)鰈、鱈、鱒、鱈、これに次ぎ、朝鮮の七大水産物といふ。明太魚、石首魚、鰈、鱈の漁業を三大漁業といひ、主として東、南、南西部の近海に行はる。

(1) 東海岸近海……明太魚、鰈、鱈、鱈、鱈、海鼠、鯨、臘肭獸。

(2) 南海岸近海……鰈、鱈、石首魚、鱒、鱈、鮑、海鼠、石花菜、海苔、海羅。

(3) 西海岸……石首魚、鰈、鱈。

また南朝鮮は、雨量少く、蒸發盛なるを以て、製鹽業に適し、加ふるに西海岸近海は、淺なるを以て、將來有望なり。鹽田面積は、三百六十餘萬町歩(日本本部の三分)にして、全羅南道、咸鏡南道、京畿道、忠清南道に多し。

(五四) 朝鮮の重要水産物及び産地。

(1) 明太魚……咸鏡道(洪川、北青、新浦、新昌)の特産物にして、朝鮮人は、必らずこれを冠婚葬祭に用うるが故に、需要頗る多く、且つその産額(一ヶ年約一億四千萬尾)多きこと、朝鮮海

産物中これに匹敵するものなし。この魚は北魚または助藤鱈と稱せられ、長さ一尺二三寸、十二月乃至二月を漁季とし、率ね乾魚或は鹽魚とす。その油は、燈料に供すべし。

(2) 石首魚……石魚或は全羅の明太とも稱せられ、全羅道慶尙道の近海より産し、明太魚と共に朝鮮の二大海産物といふ。

(3) 鮓及び鱈……慶尙道の近海に多し。

(4) 鱈……江原道の近海に多し。

(5) 鯛及び鱈……主として全羅道慶尙道の近海より産す。

(6) 海鼠……咸鏡江原慶尙全羅諸道の近海より産す。

(7) 鮓……平安北道(定州)全羅南道(木浦)に殊に多し。

(8) 石花菜、海苔、海羅……全羅道(珍島、濟州島、嶺)慶尙道の近海より産するもの、最も名あり。殊に珍島の海羅、蟾津江口の海苔は、朝鮮人の賞美する所とす。

(9) 鮑……濟州島近海の産、最も著はる。

(10) 鯨及び臘肭獸……江原、咸鏡諸道の近海より産す。鬱陵島は、これ等海獸捕獲者の根據地となす所なり。

(五五) 朝鮮の鑛産物及び産地。

(1) 金……一ヶ年約六百二十萬圓(鑛産額の大部、砂金)の産出ありて、平安北道産その大部を占め、忠清南道、咸鏡道これに次ぎ、率ね外國人の經營する所なり。金鑛山の中、平安北道の雲山(米人經營)最も著はれ、稷山(忠清南道)殷山(平安南道)これに次ぐ。順安(平安南道、第一の砂金産地)寧邊(道)宣川(上)永興(咸鏡南道)端川(上)は、朝鮮の五大砂金産地と稱せらる。

(2) 鐵……黄海道の載寧及び般栗は、一ヶ年約六萬噸を産し、率ねこれを八幡製鐵所に輸送す。その他、平安南道、咸鏡南道、慶尙北道より産す。

(3) 石炭……平壤附近の大同江畔、橋里地方(面積十里)は、無煙炭の大産地にして、一ヶ年五六萬噸の産出あり。その大部は、徳山煉炭所(山口)に送らる。松羅山の炭坑殊に著はる(平壤に鑛業の所あり)。

(4) 石墨……平安北道(龜城)咸鏡南道(水興)忠清北道(洞等)慶尙北道(得水)より産す。概して北部産は、品質佳良、南部産は、産額多し。

(5) 銅……甲山(咸鏡南道)及び厚昌(平安北道)は、朝鮮の二大銅山とす。

(五六) 朝鮮の内地商業。

(五七) 朝鮮の定期市。

大和民族の移住多き都會の外、常設の店舗を有する所少く、物々交換の遺習を存し、取引は主として、定期の市場に於て行はる。現今朝鮮には、定期市場の數、約八百五十あり。慶尙北道(約八分)に最も多く、同南道、黃海道、全羅南道、京畿道これに次ぐ。

(五八) 朝鮮の各道に於ける重要な商業地。

- 慶尙南道……釜山 金海 馬山 晉州 密陽。
- 同 北道……大邱 慶州 安東 尙州。
- 忠清南道……江景 公州 洪州 大田 烏致院。
- 同 北道……清州 堤川 忠州。
- 全羅南道……羅州 光州 木浦 榮山浦。
- 同 北道……群山 全州 南原。
- 京畿道……京城 仁川 開城 水原。
- 黃海道……載寧 黃州 海州 兼二浦。
- 江原道……春川 江陵。
- 咸鏡南道……清津 元山 北青。
- 同 北道……清津 鏡城 會寧 城津 吉州 明川。
- 平安南道……平壤 安州 鎮南浦。
- 同 北道……定州 宣川 新義州 義州 寧邊 龍巖浦。

(五九) 朝鮮の重要貿易品。

(六〇) 朝鮮の貿易。

朝鮮の貿易額は、約五千萬圓(内地の約二分の一)にして、輸入額は、輸出額よりも超過して、その大部を占む。その取引國は、主に内地(約七割)にして、英國、清國等これに次ぐ。

(1) 重要輸出品(約一六〇萬圓)……米、大豆、人蔘、牛皮、小麥。

(2) 重要輸入品(約三七〇萬圓)……木綿織類(千餘萬圓)、麻織、綿絲、煙草。

(六一) 朝鮮の開港場。

仁川、釜山は、朝鮮の二大開港場(千萬圓以上)にして、鎮南浦、京城、元山(約五百萬圓)これに次ぐ。仁川、釜山、元山、鎮南浦に税關の設あり。

重要輸出品

重要輸入品

- (1) 仁川 大豆、米、牛皮 木綿織、石油、煙草、石炭
- (2) 釜山 米、大豆、牛皮 綿絲、木綿織、石油

(3) 鎮南浦	米、大豆	綿絲、石炭
(4) 京城	大豆、牛皮	木綿織
(5) 元山	米、大豆	木綿織
(6) 群山	米、棉	木綿織
(7) 木浦	大豆、牛皮	木材、石炭
(8) 新義州	大豆	木綿織
(9) 清津	大豆、牛皮	木綿織
(10) 城津	大豆、牛皮	木綿織

(六二) 朝鮮に於ける外國領事館所在地。

- 京城……………北米合衆國、英國、露國、佛國、獨逸、白耳義、伊國、清國
- 仁川……………北米合衆國、露國、清國
- 釜山及び元山……………露國、清國
- 城津……………露國
- 鎮南浦……………清國

(六三) 朝鮮の住民。

(六四) 朝鮮の種族。

朝鮮の人口は、約一千三百萬（日本總人口の約六分の一）にして、一方里につき約九百人の割合（内地の約二分の一）をなす。人口の最も稠密せる地は、慶尙南道（千餘人）にして、全羅北道京畿道、全羅南道、忠清南道、慶尙北道、忠清北道（千人以上）これに次ぐ。要するに南部に密にして、北部に疎なり。

住民の大部は、朝鮮族（階級制度）にして、容貌甚だ大和民族に類し、土造或は草葺の家屋に住す。その他通古ス族、漢族等あり。大和民族の移住するもの、日を追ひて増加し（毎月二千人の割合）、目下約十六萬人に及べり。殊に京城（約六萬人）、釜山（約四萬人）に最も多く、これ等大和民族多き地には、自治制なる居留民團の設あり。

(六五) 朝鮮に於ける階級制度。

從來朝鮮人は、兩班（東班或は文班、西班或は武班、即ち貴族に）中人（主として、常民（實業）及び奴隸の四階級に分たれて、社會の進歩を妨げしが、合併以後この弊習は、漸次消滅するに至るものなり。

(六六) 朝鮮の宗教。

往時は、佛教盛に行はれしが、今は大に衰へ、上流社會の民は、一般に儒教を尊崇す。ま

た巫女は、各地に於て、頗る勢力を有するの觀あり。基督教は、近時二十五萬の信徒(新長老教會派最も多く)ありて、益隆盛を極むるものゝ如し。

(六七) 朝鮮の教育。

朝鮮人の言語は、大和民族の語に能く類す。上流社會の民は、漢文を用ゐ、普通人民は、半島固有の諺文(ハングル)文字(一文字の吏土文字を修正せしむの、母音)を用う。教育は、昔時見るべきものありしも、目下甚だ幼稚にして、書房(寺小屋的)約一萬の外、小學校の數約一百あり。されども近時益、高等學校(京城、平壤)、外國語學校(京城)、師範學校(上同)、中學校(同)、高等女學校(京城)、農林學校(原水)等、新式の學校、設置せらるゝが故に、漸次隆盛の域に向ふべし。

(六八) 朝鮮の政治。

(六九) 朝鮮の中央政府。

(七〇) 朝鮮の地方政府。

朝鮮はもと韓帝國と稱したりしが、明治三十八年我が國これを保護國とし、統監府(長官を統監といふ)を京城に置きしが、明治四十三年八月遂に本國を合併し、これに代ふるに總督府を以てし、總督をして、その行政軍務を統轄せしむるに至れり。總督府には、總務、内務、度支、農商工、司法の五部、鐵道、通信、專賣の諸局あり。政務總監は、總督を輔け、別に諮詢機關として、中樞院の設あり。

また駐屯軍司令部、警視廳、高等法院(京城、大邱、平壤に控訴院、京城等)を京城に置く。行政上、朝鮮を分ちて十三道(長官を道尹といふ)とし、更にこれを十二府(京城、釜山、大邱、平壤、鎮南、浦、元山、城津にし)と數多の郡(郡守を治む)とに分つ。

(七一) 朝鮮の區劃。

(七二) 朝鮮各道廳所在地。

(七三) 朝鮮各道に於ける人口の割合。

(1) 南朝鮮……三南		嶺南		道廳所在地		人口	
湖南	全羅南道	慶尙南道	大邱	晉州	一六五 <small>千人</small>	一方里の人口	二〇九六
湖南	全羅北道	慶尙北道	光州	大邱	一五二		一一三六
湖西	忠清南道	忠清北道	全州	全州	一一〇		一一五二
湖西	忠清南道	忠清北道	公州	公州	七〇		一一八〇
湖西	忠清北道	清州	清州	清州	五四		一〇六五
						三〇九	

(2) 中朝鮮……中道	關東江原道	關西	北關	畿内京畿道	京	一〇三	一三八二
	春川	平安南道	咸鏡南道	海州	咸鏡北道	鏡城	五〇八
(3) 北朝鮮……西道	黄海道	平安北道	咸鏡南道	海州	咸鏡北道	鏡城	一〇八四
	平壤	義州	咸鏡南道	咸鏡北道	鏡城	五〇	四四七

(七四) 朝鮮に於ける人口五萬以上の都會。

京城(一七七) 晋州(七八) 釜山(五〇)。

第二章 各論

○南朝鮮(慶尚南道, 全羅南道, 全羅北道, 忠清南道, 忠清北道)

(一) 慶尚南道の位置。

古の新羅(新羅)任那(加羅)の故地にして、朝鮮の南東端に位し、氣候溫和、農産豊富なり。

朝鮮海峡を隔て、對馬と相對す(四〇)の間に、されば古來、對馬との間交通最も頻繁を極めし所なり。

(二) 慶尚南道の重要産物及び産地。

- (1) 農産……米(朝鮮第一、全額約四分の一を産す。主産地は洛(朝鮮第一、全額約四分の一)同地方より産す)大豆(同上、大邱産)棉(南四部、晋州)果實(釜山)
- (2) 水産……鯛、鱈、石首魚(近海)、鱈(近海)、鰻(同)、海苔(釜山、津江、鹽(龍湖))
- (3) 工産……木棉(朝鮮第一、晋州の)紙(晋州、密陽)陶磁器(萊東)
- (4) 鑛産……銅(昌原郡)
- (5) 林産……木材(島嶼と共に南朝鮮の二大森)

(三) 慶尚南道の都邑。

- (1) 釜山府(五〇)……洛東江口の東部に位する朝鮮第二の開港場(明治九年開きし朝輸出多し)第三の都邑にして、絶影島(牧島の牧場地)前に横はり、港内水深く、大船の碇泊に便なり。嘉吉三年(一四〇)以來、對馬(相距ること約四十里)との間に貿易行はれしかば、大和民族の移住者頗る多く、税關、露清の領事館あり。龍頭、龍尾の二山に景勝を以て著はる。京釜本線鐵道(約十七哩)この地に起りて北西の京城に通じ、下

關との間に、鐵道の連絡船(約十一時間)ありて、交通自在を極め、内地より半島に入する要地なり。附近に東萊(古昔節度使)金井温泉、梵魚寺(新羅の名僧元曉の明)あり。

(2) 金海……釜山の北西、洛東江口附近に在り。大駕洛(大伽羅)の祖、金首露の都せし所。任那の日本府ありし地、壬辰の役、釜山と共に我が海軍の根據地たりし所にして、附近の虎方山より水晶を産し、農産水産の取引行はる。

(3) 昌原……洛東江低原に位し、馬山線鐵道に沿へる名邑にして、孔子廟(五百餘年前)あり、昌原米(馬米)の取引多し。

(4) 三浪津……京釜本線及び馬山線兩鐵道の接續地にして、北東の蔚山灣(漁業者の根拠地)の沖は日露海(戦ありし所)岸に慶長二年(1597)十二月、加藤清正の明將麻貴、楊鎬等を若めて勇名を輝かし、蔚山城址あり。また南東の通度寺の巨刹、東の鶴院關(三百餘年前築)北西、密陽(産地名)附近の磧川寺(新羅の僧普照國師の開きし)及び嶺南樓(嶺南寺の址にして、は、旅行者の常に訪ぬる所なり)。

(5) 馬山府(一〇)……馬山灣に臨める朝鮮屈指の避暑避寒地にして(對馬を距る)高麗朝時代には、合浦と稱せられ、弘安の役、元の艦隊の我が國に發航したる所、また

倭寇の據りし所を以て、史上に著はれ、新朝鮮の初期には、貢米の集積地として、元山、江景と共に朝鮮の三大港に數へられし所なり。

(6) 鎮海……鎮海灣に臨み、第五海軍鎮守府の豫定所在地にして、その軍港は、日本海海戦前に我が主力艦隊の根據地となしたる所とす。巨濟島その前に横はり、馬山と相近く、無比の良港なり。

(7) 晋州(七八)……洛東江の支流に沿へる朝鮮第二(南朝鮮)の都會にして、木棉織(晋紙)の集散地なり。壬辰の役、文祿二年(1593)六月、加藤清正、黒田長政等が城將徐禮元、金千鎰等六萬餘人を殺戮せし所を以て、史上に著はれ、その南の泗川(新寨)は、慶長三年(1598)十月、島津弘等が明將董一元等の兵を破りし所なり。ここに道廳を置く。

(四) 慶尙北道の位置

朝鮮の南東部に位し、古の新羅(辰韓)の地にして、古代大和民族と朝鮮族との交通せし迎日灣あり。

(五) 慶尙北道の重要産物及び産地

- (1) 農産……米(洛東江地方) 麥(上同) 大豆(慶尙南道に次ぐ、大邱) 棉(金泉地方) 煙草(洛東江地方) 果實(大邱)
- (2) 水産……鱈、鯛、鱈(海近)

- (3) 工業……絹織(尙州)紙(慶州)陶磁器(星州)蓆類(泉)
- (4) 畜産……牛(咸鏡南道、平安)
- (5) 林産……木材(南朝鮮第一の、大森林島嶺)
- (6) 鑛産……金(奉化)石炭(慶州地方)石墨(迎日灣岸得水)

(六) 慶尙北道の都邑。

- (1) 大邱府(一〇)……洛東江(江東を左道、江西を右道)の一支流に沿へる南朝鮮第一の内地商業地にして、毎年春(四月)秋(十月)二回、大定期市(月間一々)を開き、大豆、穀類等の取引極めて盛なり。道廳、控訴院、孔子廟等あり。
- (2) 星州……南西部に位する慶尙右道の要地なり。その南、高麗は、古、大鴉洛の地にして、往昔、大和民族の威を新羅、百濟に、振ひし所とす。北方の金泉は、鹽、米穀の集散地にして、京釜本線鐵道その北西、秋風嶺(釜山より一二五)を通ず。北東の仁同は、新羅の祖、朴赫居世の城きし所なり。
- (3) 尙州……西部に位し、古洛陽と稱せられ、南朝鮮第一の險島嶺を控へ、南に秋風嶺を望み、京釜本線鐵道の一要地なり。この地方は、古來名士の輩出せし所にして、辰韓の初めて建國せし時の根據地たり。絹織、石墨をこの地方の名産とす。

- (4) 慶州……古の東京(金城)にして、辰韓、新羅の一千餘年間都せし所なれば、舊蹟頗る多く、慶尙北道東部の名邑なり。この地方より紙、水晶、鐵、瑪瑙、石炭を産す。その北東一里の迎日灣岸に迎日あり。慶州の門戸をなし、往古美保關(雲)と交通頻繁なりし所にして、半島の英傑、鄭夢周は、この地の人なり。
- (5) 安東……北部の名邑にして、絹織を産す。

(七) 全羅南道の位置。

朝鮮半島の南西端に位し、馬韓、百濟の故地にして、氣候佳良、水産の利多し。

(八) 全羅南道の重要産物及び産地。

- (1) 水産……石首魚(全羅の明太と稱せられ、南朝鮮第一の水産物)、鯛、鮓(共に、朝鮮第一)、海羅(珍島産)、海苔(嶺南江口、鮑(濟州島、統(近海)、鮑(近海))
- (2) 農産……棉(朝鮮第一、羅州、光州、務安、藍(榮山江)、麥(慶尙南北)、米(慶尙南道、全羅、北道に次ぐ)、蜂蜜(全羅、北道と共)
- (3) 工業……華筵(寶城)、紬織(羅州、綾州)、木綿織(務安)、朝鮮蓆(羅州)、笠帽(濟州)、陶磁器(羅州)
- (4) 林産……木材(濟州島)

(九) 全羅南道の都邑。

(1) 順天……南東海岸順天灣に臨み、壬辰の役、小西行長が高麗水軍の將、李舜臣と戦ひし所なり。

(2) 光州……道廳所在地にして、羅州、綾州と共に絹織を産す。

(3) 木浦(府)……西海岸、榮山江口に接し、前に双子列島を控へ、天然の良港を爲す。開港場(米、棉等を輸出す)にして、附近の務安は、木棉織業の中心なり。八口浦には、漁船常に輻湊す。

(4) 濟州……濟州島の北海岸に位する漁業地にして、木浦との間、汽船の便あり。笠帽を産し、水産物、木材の取引少からず。

(一〇) 全羅北道の位置。

半島の南西部に位す。馬韓、百濟の故地にして、錦江地方は、農業盛に行はる。

(一一) 全羅北道の重要産物及び産地。

(1) 農産……苧(麻)錦江(同上、慶尙南道) 麥(錦江) 煙草(全州、南京地、朝鮮第一) 藍(全州) 荏子(同上)

(2) 工産……紙(京地、方、南) 藍染(全州、朝鮮第一) 絹及び木棉織(原、南)

(3) 水産……石首魚、鯛、鱈、鮫(共に近海)

(一二) 全羅北道の都邑。

(1) 南原……南東部、古の帶方の地にして、壬辰の役、慶長二年(1597)二月、宇喜田秀家等の明將楊元等を破りし所とす。絹及び木棉織、紙は、この地方の名産なり。

(2) 全州(一、四)……全州低原に位する道廳所在地にして、年市あり。穀類、藍、煙草、紙の集散多く、染色業の盛なること半島に冠たり。この地、百濟の故都にして、また李氏發祥の地とす。南西の古阜は、明治二十七年三月、東學黨の巨魁全倬準の兵を擧げし所、北西の益山は、馬韓の祖、箕準の據りし地を以て著はる。

(3) 群山(府)……錦江の口に接する開港場(米、大豆の輸出多し)にして、もと京城に貢米を輸送する轉運使のありし所とす。

(一三) 忠清南道の重要産物及び産地。

(1) 農産……苧(麻)麻谷里は半島第一の産、煙草(東部全、義地方) 荏子(錦江)

(2) 鑛産……金(南、朝鮮第一の金産地) 稻(山、内地人經營す)

(3) 工産……紙(公州地方)

(4) 林産……木材(安眠)

(一四) 忠清南道の都邑。

(1) 公州……錦江の左岸、朝鮮の豊庫と稱せらるゝ、内浦低原に位して、道廳あり。年市

(八月)ありて穀類の取引多く紙を産す。この地百濟の故都にして、日本史にいへる久摩那利の地即ちこれなり。この地より汽船にて下流の江景(古昔朝鮮三港の一多引)扶餘(百濟の都)群山(全羅北道)に至るを得べし(約九時間)。

(2) 稷山……北東部に位する南朝鮮第一の金産地にして、百濟の始祖温祚王の都せし河南慰禮これなり。壬辰の役、慶長二年(1595)九月、黒田長政等、明將麻貴、解生等を破りしもまたこの地とす。南西の温陽の亞爾加里泉は、半島第一の靈泉にして、朝鮮の太祖の建てし所なり。

(3) 成嶽……北部に位する米穀鹽、煙草の集散地なり。牙山と共に明治二十七年七月我が軍の清軍を掃蕩せし所にして、同年同月我が海軍の清艦を撃破せし豊島の沖と共に、日清戦史上に名高し。また月峯山は、清軍の根據地となし、所にして、風景絶佳なり。北東の良袋山地方よりは、金を産す。

(4) 大田……南東部に在り。數年前の比は寂莫たる寒村なりしが、京釜本線鐵道の通せし以來、頓に發達したる新市街にして、穀類、石油、明太魚の取引多く、將來有望の地なり。湖南線これより木浦に通せんとす。附近に柳城温泉灌燭寺(忠清に在り、高佛像を安置す。大)あり。

(5) 鳥致院……東部、京釜本線鐵道に沿へる名邑にして、忠清、全羅諸道に通ずる道路の要衝に當れり。穀類の取引多く、年市(新羅の時、崔致遠の開きし古市)の設あり。

(一五) 忠清北道の位置。

半島中、海に瀕せざるは、本道のみにして、東に、鳥嶺、秋風嶺の難險を控へ、要害の地とす。漢江、錦江は、舟楫の便あり。

(一六) 忠清北道の重要産物及び産地。

- (1) 鑛産……金(西部、清州地方)。
- (2) 農産……人蔘、煙草、麥(共に錦江地方)。
- (3) 工産……陶磁器(清州地方)。

(一七) 忠清北道の都邑。

- (1) 清州……西部、錦江の畔に位する湖西の名邑にして、道廳あり。附近に趙憲事蹟碑(倭寇碑)上黨山城(百濟の堅堡)址、華陽洞(落影山麓に在る半島第一の勝地、大)あり。
- (2) 芙江……西部、錦江の航行極限地に位し、古來その市場は、世に知られ、穀類、鹽等の集散地なり。對岸の芙蓉山は、觀月の勝地を以て著はる。
- (3) 忠州……北部、漢江の上流に臨み、南北交通の要路に當たり、古來英雄必争の地を

以て稱せられ、壬辰の役、文祿元年(1592)四月、小西行長の申砦の軍を破り、明治二十八年閏後の避難せし所なり。

○中朝鮮(江原道、京畿道、黃海道)

(一) 江原道の位置。

江原道は、所謂關東の地にして、東海岸の中部に位し、昔時獺狍こゝに據りて、大に威を振へり。五臺山(五峯五臺、勝あり)、金剛山(楓岳ともいひ、奇)、鐵嶺(本道を嶺東、嶺西に分)ありて、關東八景の勝は、世人の喧傳する所なり。

(二) 江原道の重要産物及び産地。

- (1) 鑛産……金(金城)、鐵(鐵嶺)、石墨(江陵地方)。
- (2) 水産……鱈、鯨、海鼠(共、近海)。
- (3) 林産……木材(中朝鮮第一の、麟蹄山森林)。
- (4) 畜産……牛(漢江地方)。
- (5) 農産……煙草(漢江地方)、蜂蜜(上)。

(三) 江原道の都邑。

- (1) 春川……西部、漢江の航行極限地に位して、道廳あり。京城地方に木材薪炭を供給

する唯一の場所として知られ、新國の二千餘年間據りしは、この地方なり。その北西、鐵原は、朝鮮紬の大産地を以て世に知らる。

- (2) 江陵……東海岸に位する、穢國の故都にして、また昔時、臨屯郡の治所たりし地なり。近海、漁業の利多く、漁船常に集合す。
- (3) 原州……南東部の名邑。

(四) 京畿道の位置。

西海岸の中部に在りて、江華灣を控ふ。高句麗の王氏及び新朝鮮の李氏の中央政府を置きし地にして、我が政府は、京城に總督府を置きて、全半島を統管せしむ。

(五) 京畿道の重要産物及び産地。

- (1) 農産……人蔘(世界第一、開城、豐德、長湍、地方、附城産最も佳なり)、煙草(水原地方)、果實(京城、仁川地方)。
- (2) 工産……陶磁器(廣州)、華筵(江華島)、席類(蔚桐島)。
- (3) 水産……鹽(西海岸)。
- (4) 鑛産……石材(水原地方)。

(六) 京畿道の都邑。

- (1) 水原……南西部、華城ともいひ、城壁を繞らして、四大門を設く。農林學校、勸業模範

場、華城行宮(百二十餘年前、正宗の築きたる)、華寧殿(正宗を祀る)、文廟(孔子孟子を祀る)ありて、附近の地より石材、煙草等を産す。

(2) 廣州……中部、漢江の南に在りて、南漢城と稱せられ、古昔、百濟の都せし、漢山これなり。附近の南漢山に唐代建築の古刹、三幕寺あり。

(3) 京城府(一七、七……朝鮮人の所謂ソウル Seoul)にして、漢城、漢陽ともいひ、漢江(江口を距る)の北岸に在り(福島縣の若松市と殆ん)。三面、山(南山、北漢山、西山)を負ひ、形勝の地にして、市街を繞らすに城壁を以てし、八方に城門(南大門、東大門、西大門、北大門)を設く。南大門に近き泥岷(木岷山)地方には、大和民族約六萬人居住し、中央の鍾路は、最も熱鬧を極むる所とす。

高麗王辛禰始めてこゝに都せしが、その後新朝鮮の太祖李世桂の奠都以來、朝鮮に於ける政治の中心となり、總督府、高等法院、控訴院、警視廳、道廳、東洋拓植會社、朝鮮銀行、朝鮮醫院、高等學校、外國語學校、外國領事館(米、英、露、佛)及び李王の宮殿(昌慶宮、昌德宮、昌福宮、慶熙宮)等あり。殊に大理石十三層塔(俗に蠟石の塔といふ)は、世人の注目する所なり。龍山は、開港場にして、楊花津、麻浦と共に漢江の要津なり。駐屯軍司令部、兵器支廠をこゝに置く。その萬里倉公園は、頗る雅致を極む。

この地、漢江によりて、上流の春川(江原道)及び江口に舟楫の便あるのみならず、京釜本線、京仁線、京義本線の三鐵道及び電氣鐵道の便ありて、交通自在なり(釜山に約十時間、義州に約二晝夜を要す)。朝鮮の標準時線(東經一〇七度)この地方を經過す。

京城の附近には、眺望佳なる高峯山(山上に城址あり。壬辰の役、加藤清正陥れたり)及び太平山寺の巨刹あり。北西三里の碧蹄館は、壬辰の役、文祿元年(1592)九月、小早川隆景等が明將李如松の軍を破りし所を以て、史上に名高し。

(3) 仁川府(二、九……)その港を濟物浦(Chemulpo)といひ、京城の門戶、京仁線鐵道の終點なれども、潮汐昇降の差甚だ大(三十三尺に及ぶ)なるを以て、巨船は、港外に碇泊するの缺點あり。朝鮮第一の開港場(明治十六年開港、重要輸出品は、大豆、米、牛皮、人參、牛島製、易羅、に四〇三、下にして、税關、外國領事館(英、露)あり。

港の附近に月尾島、小月尾島(燈臺あり、日露戰役の際、軍需品を陸揚げしたりし所)あり。江華島、永宗島その北に横はる。江華島は、漢江の口に當たり、景勝要害の地にして、摩尼山附近に要塞の設あり。明治八年の雲揚艦砲撃事件を以て著はる。

(4) 開城(二、五……)京城の北西、松嶽の南麓に位するを以て、一に松都或は松京の名あり。南北に通ずる幹線道路に當たりて、附近の豐德、長湍と共に人參の産出多きこ

と世界比なし。世にこれを開城人蔘といひ、その取引極めて盛なり。古昔この地は、高麗焼の本場として、その名を知られしが、今は殆んどその跡を絶つ。高麗王朝は五百餘年間、ここに都せしかば、附近の地と共に名所舊蹟頗る多く、高麗王歴代の山陵(萬壽山)、滿月臺(高麗王宮の遺跡)、敬德宮址(李世桂の所)、壽昌宮址(李世桂の地)、華藏寺(高麗代の建築、西城の)、朴淵瀑(山城瀑とも、直下五十尺)等最も著はる。また日露戦役の際、一時兵站司令部をこの地に置きたり。

(七) 黄海道の重要産物及び産地

- (1) 鐵産……鐵(朝鮮第一、殷栗、載寧は産地にして一ヶ年約六萬噸)、金(遼安地方)
- (2) 農産……人蔘(京畿道に次ぐ、南東、慶尙南道、慶尙北道に次ぐ)、米(慶尙南道、全羅北道に次ぐ)、大豆(慶尙南道、北道に次ぐ)、谷山、黄州、海州
- (3) 工産……陶磁器(鳳州地方)

(八) 黄海道の都邑

- (1) 海州……黄海半島の南海岸に位し、陶磁器を産し、ここに道廳を置く。
- (2) 金川……南東部、京義本線鐵道に沿へる人蔘産地の中心にして、その取引多し。近傍に温井院温泉(硫黄)、金陵館(使の來たりし所)、大白山城址(壬辰の役、小西行あり)

(3) 黄州……北部、京義本線及び兼二浦線兩鐵道の接續地(黄州城)にして、大豆、米、麥産地の大中心に位し、その集散盛なり。その南西には、帝國屈指の鐵産地載寧、殷栗あり。

(4) 兼二浦……北西部、大同江の左岸に在る良港(江兵中佐渡邊兼)にして、下流地の鎮南浦(相距ること約二時間)と近く、汽船の往來繁く、且つ兼二浦線鐵道の終點なり。附近に鐵島、安岳温泉、硫黄泉と大同灣の入口に近く、漁隱洞(日清戦争の時我が海あり)

○北朝鮮(平安南道、平安北道、咸鏡南道、咸鏡北道)

(一) 平安南道の重要産物及び産地

- (1) 鐵産……金(平安北道と共に朝鮮第一、總額の五分の二を産す、順安は半島全産額の五分の一を産す)、石炭(朝鮮第一、平壤の南東、大同江畔の船橋里、土橋洞地方、一ヶ年五、六萬噸を産す、松羅山、寺洞等の炭坑著はる、これを徳山、棟炭所に輸送す)
- (2) 工産……紙(山紙といひ、大同江流域の成川、順安)、苧麻布(孟山の徳川、春布)、絹織(成川、平壤)、木綿織(平壤)
- (3) 農産……米(慶尙南道、全羅南道、黄州、煙草(南東部、成川、陽徳)、棉(大同江地方)、果實(平壤、楮(成川、江))

(4) 水産……鹽(嶺南浦附近、廣榮湖岸)

(三) 平安南道の都邑。

(1) 平壤(府)二五……南西部。大同江の北岸に臨める北朝鮮第一の商業地にして、京城(相距ること)と新義州(相距ること)との中間に位し、後に大城山を負ひ、南東に豊饒なる低原を控へ、軍事及び政治上の要地なり。この地、半島の舊都にして、王險、箕城、西京、西都、柳京等と稱せられ、檀君、箕氏、衛氏、高句麗の王氏こゝに都し、漢の樂浪郡の治所たりし所、壬辰の役(文祿二年正月小西行長、明將李如松の將祖承訓、吳維忠等の軍を破りたり)、日清戦役(明治二十年我が軍清將左賢、日露戦役(明治三十七年七月我が軍露軍を破りたり)、日露戦役(明治三十七年七月我が軍露軍を破りたり)に於ける激戦地なるが故に、牡丹臺(支武門、乙密臺(牡丹臺と)大同館(往昔清使の客)浮碧樓(江岸の眺望)箕子廟(乙密臺の西、免)等の舊蹟頗る多し。練光亭(小西行長、明將)船橋里(日清戦役、激戦地)萬景臺(日清日露陸軍の上)等、附近に在り。

市街は、内城、中城、外城、東北城の四區に分たれ、大同、靜海、七星等の城門を設く。京義本線、平南線鐵道こゝに接続し、交通便を極め、道廳、鑛業所、控訴院、守備隊兵營、高等學校等ありて、絹織、木棉織紙、石炭、穀類等の取引多し。この地方は、西海岸中、雨量の少き所とす。

(2) 成川……平壤の北東。高朱蒙(始祖)の都したる卒本扶餘にして、半島第一の樓觀降仙樓(王辰の役、世子あり、紙、絹織は、この地方の名産なり)。

(3) 寧遠……大同江の上流地方に在りて、關西第一の堡障と稱せられ、殷山金鑛と相近し。

(4) 鎮南浦(府)……南西部。俄南浦ともいひ、大同江の右岸(江口より約十里)に位する北朝鮮第一(半島)の開港場(重要輸出品)にして、平壤の咽喉に當たり、平南線鐵道こゝに終る。税關、清國領事館、八幡製鐵所の出張所あり。附近には、鹽田多く、藥水洞(炭酸)及び龍岡(鹽類)の溫泉と近し。

(5) 順安……西部。京義本線鐵道に沿ひ、半島第一の砂金産地(半島全産額の約五分の一を産す)と紙の取引地とを以て著はれ、日清戦役の古戰場なり。その北、肅川(定期市)附近の五龍洞には、溫泉あり。

(6) 安州……北西部。清川江(以北を清北、以南を清南といふ)の南岸に位し、日露戦役の古戰場(明治三十七年五月)なり。その北東、价川の妙香山地方は、檀君の故事を以て名高し。安州より江を溯らば、平安北道の寧邊(金及び絹織の産地)、雲山(半島第一)に至ることを得べし。

(三) 平安北道の位置。

半島の北西端に位して、黄海に臨み、もと高麗の領有せし所なり。鴨綠江の國際河を隔て、清國滿洲(盛京)と相望み、咸鏡北道と共に、半島の經營上最も要害なる地域とす。

(四) 平安北道の重要産物及び産地。

- (1) 鐵産……金(平安南道と共に半島第一、總産額の約五分の三を産す。慶山を半島第一の砂金産地の一なり)、銅(朝鮮二大銅)、石墨(龜城、昌城、地方、清川江、鐵、地方)。
- (2) 林産……木材(松、樅、樅、檜、檜、松、杉、楡、楊、柳、樺、楓、槲、櫟、松、杉、楡、楊、柳、樺、楓、槲、櫟、松、杉、楡、楊、柳、樺、楓、槲、櫟)。
- (3) 工産……金屬器(寧邊、牛、寧邊、牛、寧邊、牛)、麻布(寧邊、寧邊、寧邊、寧邊)、絹織(寧邊、寧邊)。
- (4) 畜産……馬(咸鏡南道、咸鏡南道、咸鏡南道)、牛皮(同、同)、蜂蜜(江界、江界)。

(五) 平安北道の都邑。

- (1) 定州(新安)……南部、京義本線鐵道に沿ひ、古來、半島に於ける文士の淵藪と稱せられし所にして、新安寺(高麗時代)あり。

その北東、清川江の上流地には、雲山、寧邊あり。北方には、龜城あり。西方には、宣川あり。共に著名の産業地とす。

- (2) 新義州……南西部、清國との境界をなす鴨綠江の左岸に位する新市街地なれども、將來有望の地とす。京義本線鐵道(約三五一哩、十四時間、釜山まで)の終點に當たり、清國

滿洲と關係多き開港場(重要輸出品)にして、木材の集散多きこと、帝國その比を見ず。されば政府こゝに營林廠を置く。清國滿洲の安東開港場(木材、大豆類、榨油)は、その對岸に在りて、我が安奉線鐵道の南起點をなし、連絡船の設あり。

- (3) 義州府……鴨綠江下流の左岸に位し(道廳)、清國滿洲の九連城(明治二十七年十月)と相望む。高句麗の盛代には、畿内の地に屬して頗る繁榮を極め、また京城北清間の

通路に當たりて、北門の鎖鑰と稱せられ、彼我の貿易地として知られしが、新義州の興りし後、漸次衰頹の觀あり。この地は、日清、日露の兩戰役に於て、我が軍の渡河點を以て、戰史に名高く、附近にその古戰場多し。これより江を溯らば、木材産地の大中心、惠山鎮(江口より約五十哩)、昌城等に至るを得べし。また義州の東方には、白馬山城、統軍亭(日清、日露の兩役我が軍あり)あり。

- (4) 龍巖浦……鴨綠江口附近に在る良港にして、新義州と相距ると僅に六里。滿洲の開港場大東溝(大豆類を輸出す)と相對し、共に木材の取引多し。

(六) 咸鏡南道の位置。

東海岸の北部に位する地域にして、東朝鮮灣を控へ、咸鏡北道と共に古昔、沃沮の割據せし所とす。

(七) 咸鏡南道の重要産物及び産地。

- (1) 鑛産……金(北道と共に平安忠清諸道に次ぐ)、銅(二大銅山の二)、石(南東部、永)、鐵(永興)
- (2) 水産……明太魚(洪原、北青、新浦、新昌の沖、朝鮮第一の水産物)、臘肭獸(新浦、同)、海鼠(同)
- (3) 畜産……牛(第一、馬、上)
- (4) 農産……大豆(北青、咸興、端川、北)、苧麻(北關麻或は咸鏡麻と稱せられ、古來貢物たりしもの、咸興地方)
- (5) 工産……苧麻布(咸興の北布)

(八) 咸鏡南道の都邑。

- (1) 元山府(一、六)……南東、德源灣に臨める東海岸第一の開港場(明治十三年開く主に山を距る)にして、咸鏡道産物(明太魚、大豆、金、苧麻、牛皮等)を集散す。税関、露清の領事館あり。元山の西方なる馬息嶺は、平壤に通ずる要路に當たり、壬辰の役には、加藤清正、日清戦役には、元山支隊の困苦を嘗めし所なり。
- (2) 永興……永興灣(近時海軍要港となる)に近き所に在りて、鑛産物、大豆を集散す。
- (3) 咸興(一、四)……東海岸に在り(京城に約八二里)。玄菟郡の治所たりし地にして、李氏この地に基業せしを以て著はれ、道廳あり。北布といへる麻織は、この地の名産とす。この地より北方の江界(平安北道)に至る通路あり。

- (4) 北青……北東海岸、朝鮮屈指の大豆産地にして、明太魚と共に取引盛に行はれ、甲山(銅産地)及び惠山鎮(鴨綠江畔木材産地の大中心)に通ずる要路に當たれるを以て市況盛なり。

(九) 咸鏡北道の位置。

東海岸の北部、即ち半島の最北部に位する地域をいひ、圖們江によりて、露領シベリアの沿海州、清國滿洲の吉林省と相接し、外交上の關係少からず、古昔高麗、女眞の諸族は、この地方を據有せり。

(一〇) 咸鏡北道の重要産物及び産地。

- (1) 水産……明太魚(明川、吉州、地、近海)、臘肭獸(咸鏡南道、同)
- (2) 畜産……馬(咸鏡南道、同)
- (3) 農産……大豆(吉州、地方、煙草、同)
- (4) 林産……木材(三大森林の一なる圖們江森林、より産す、朴、泉水はその集散地)

(一一) 咸鏡北道の都邑。

- (1) 咸鏡北道……南部に在る開港場(主に大豆、牛を輸出す)にして、露國領事館あり。この地方は、我が國の中、雨量最も少き所とす。その北、吉州は大豆、明川は明太魚の集散多し。
- (2) 鏡城……東海岸に位して道廳あり。

(3) 清津……半島最北の開港場(重要輸出品は大豆、城津に八一、元山に二〇、五源、釜山七五)にして、圖們江畔の所謂東北六鎮(穆稷、會寧、鐵原、慶興)に通ずる要路に位し、咸鏡北道の重要産物を集散す。この地より會寧に至る鐵道は、他日會寧より吉林(滿洲省の首府)に敷設せらるべき吉會鐵道(日清合辦)と接續して、内地より北滿洲に入る最捷路たらしめんとするものなり。

(4) 會寧……圖們江の南岸、東北六鎮の一にして、滿洲の間島に通ずる要衝に位す。壬辰の役、加藤清正の高麗二皇子を擒へて、兀良哈(滿洲)に進軍せんとし、は、この地なり。

(5) 慶興……圖們江の下流に沿ひ、露領シベリアの沿海州と相望める要區なり。もと露國と陸路貿易條約を結びしは、この地にして、今尙ほ貿易行はる。半島の改革家たりし金鶴羽は、この地の人なり。南西の雄基灣頭に雄基港あり。

(6) 穆稷……圖們江畔に位する朝鮮最北の要地にして、慶原と共に滿洲の珥素(滿洲省の首府)に五百清里、ゴソエトに九十清里、慶原に四十五)に近し。清里政治商業軍港上の中心、大豆類の取引多し。

附錄 南滿洲地方

第一章 滿洲總論

(一) 滿洲(東三省)の位置。

東は、烏蘇里江(黑龍江)の支流)によりて、露領シベリアの沿海州、圖們江及び鴨綠江によりて朝鮮と接し、西は蒙古及び支那本部の直隸省に隣り、北は黑龍江を以て、露領シベリアの黑龍江省及び外バイカル(Trans Baikal)州に連り、南は黄海及び遼東灣(渤海灣)の北部)に面す。

東經一一七度五〇分—同一三五度二〇分

北緯三八度四二分—同五三度三〇分

(二) 滿洲の面積及び區劃

(三) 南滿洲及び北滿洲

(四) 東三省の首府

面積六、三六六二方里(日本約一億中、人口一六〇)。これを分ちて盛京(奉天)、吉林及び黑龍江の三省となす。よりてまた東三省の名ありて、滿洲總督(奉天)これを總管す。

た満洲を南満洲(盛京省及び吉林省の南部)及び北満洲(黒龍江省及び吉林省の北部)の兩部に分つことを得べし。
 南満洲(遼東半島と遼西に分たる)は、日本の勢力範圍に歸し、北満洲は、露國の勢力範圍に在り。

省名	面積	戸數	人口	首府
盛京省	一、五二九一	一六〇〇	一〇二三	盛京(奉天)
吉林省	一、三二九一	五六	四二四	吉林
黒龍江省	三、五二八〇	二二	一四五	齊々哈爾
合計	六、三六六二	二三八	一五九三	

- (五) 満洲の地勢。
- (六) 満洲の山脈。
- (七) 満洲の河川。
- (八) 満洲の低原。

北東部に高くして、南西部に低し、東部には、長白山脈(不威山脈)あり。西部には、興安山脈あり。長白山脈は、朝鮮の境上に於て、最も高くして、最高峯白頭山(八九一〇尺)を起し、鴨綠圖們、松花(黒龍江の支流)三大江の分水嶺をなす。黒山山脈、小白山脈の支脈は、その北東

に連り、庫勒嶺山脈、薩哈嶺山脈、摩天嶺山脈(千山脈)は、その南西に蔓延す。

河○流○の大なるものには、南満洲に遼河(航路支流を合して約三百哩、河邊に開原)あり。北満洲に黒龍江(水)の支流、松花江(河邊に吉林、哈爾濱)あり。黒龍江、烏蘇里江(黒龍江の支流)、圖們江、鴨綠江は、國際河なり。

松花江は、嫩江等の支流を合し、二道溝以下舟筏、吉林(附近の河幅四〇乃至八〇間)以下汽船の便ありて、その流域は、北満洲低原をなす。遼河は、東遼河(巨流河ともいひ、柴河即ち沙河)及び潢河(西喇木)の水を合せて、遼東灣に注ぎ、南満洲の大低原(大豆、高粱の産)をなす。

(九) 満洲の氣候。

氣候は、朝鮮よりも尙ほ大陸性にして、寒暑の差頗る大なり。夏季七八月の頃は、屢大雨降りて、道路泥濘を極め、交通をして不便ならしむ。冬季は、地表及び河川悉く氷結するを以て、水上、車馬を通ずるの便あり。

(一〇) 満洲の重要産物及び産地。

北○満○洲○の松花江地方には、小麦の産多く、哈爾濱等の都民の製粉業に従事するもの多し。牧業(主に馬)及び煙草(吉林)、人蔘(上)、鴉片(上)等の栽培また盛なり。北東部より金、毛皮等を産す。

南滿洲の遼河地方は、大豆、高粱(高粱酒の原料及び食用から)の産出頗る夥しく、豆油、豆粕(豆餅とも)の製造盛にして、我が國の年々これを輸入する額少からず。その他柞蠶絲、煙草、魚鹽を産す。鴨綠江流域の森林は、日清合同の伐木公司これを伐採し、木材の産出極めて多し。撫順(一ヶ年の採炭量約千噸)、烟臺、本溪湖、賽馬集等は、將來有望の大炭田地にして、我が南滿洲鐵道會社これを探掘す。また本溪湖、賽馬集附近には、鐵の産あり。

- (一一) 滿洲の鐵道。
- (一二) 東清鐵道。
- (一三) 南滿洲鐵道。
- (一四) 京奉鐵道。

滿洲の道路は、みな不完全なれども、鐵道は、近時大に發達して、交通頗る便を極むるに至れり。

(1) 露國の東清鐵道本線(約一〇〇〇哩)。

シベリア大鐵道(チエリアピンスク浦鹽)の東部、烏蘇里線(浦鹽、新德、クムロボフスク)のニコルスク(Nikolsk)より分れ、西方クロデコフ(Knodokov)に至る支線(約八〇哩)と接続して、滿洲に入り、寧古塔、哈爾濱、齊齊哈爾、海拉爾等の都邑地方を過ぎ、滿洲里に於て、シベ

リア大鐵道のカイタロボ(Khiturovo)支線(約二〇哩)に接続す。

(2) 同寬城子支線(約一五〇哩)。

東清鐵道の殆んど中央なる哈爾濱より南下し、寬城子に至りて、我が南滿洲鐵道と接続す。

(3) 日本の南滿洲鐵道(約七二〇哩、東海)。

南滿洲鐵道本線は、日露戰爭の結果、我が國の收得したる鐵道にして、直は大連より起り、遼東半島を縦貫して、大石橋に至り、遼河と殆んど並行して北進し、長春に至りて、露國の東清鐵道寬城子支線と接続す(四三七哩)。更に奉天に於て、清國の京奉鐵道(北京奉天間)に連絡す。南滿洲鐵道は、明治四十一年六月以來、四呎八吋半の廣軌式となしたれば、急行十七時間餘を要するのみ。その支線には、旅順線(三八哩)、營口線(一三哩、清國の滿營線と)、撫順線(三四哩)、安奉線(一九哩)等あり。また本年一月吉長線(吉林長春間)の一部開通せり。この鐵道は、吉會線(吉林會寧間、未設)及び清會線(清津會寧間、既設)に接続して、將來我が國より北滿洲に入る最捷路たるべきものとす。

南滿洲鐵道…旅順線(吳水子—旅順) 營口線(大石橋—營口)
 撫順線(蘇家屯—撫順) 烟臺線(烟臺—烟臺炭坑)
 安奉線(奉天—安東)

日清合辦の鐵道……吉會線(吉林—會寧。未設)

吉長線(長春—吉林。工事中)

(4) 清國の京奉鐵道(北京—奉天)間約一八〇哩。

京奉鐵道は、從來關内鐵道と稱せし京津鐵道(北京—天津間)津榆鐵道(天津—山海關間)と關外鐵道たりし榆奉鐵道(山海關—榆奉天)とをいひ、溝營支線(溝幫子—營口間)を分つ。

(一五) 滿洲地方の航路。

(1) 河川航路。

滿洲地方に於て、汽船の航行する河川には、黑龍江、烏蘇里江(黑龍江の支流)、圖們江、鴨綠江の國際河、松花江(黑龍江の支流)、遼河等あり。

(2) 海水航路。

我が汽船の滿洲地方に航海する主線率ね次の如し。

(イ) 大阪商船會社……大阪安東線 大阪大連線 橫濱大連線 長崎朝鮮

大連線。

(ロ) 日本郵船會社……神戸牛莊線 橫濱牛莊線 橫濱大連線 神戸朝鮮

牛莊線

佐世保旅順線。

(ハ) 南滿洲鐵道會社……大連上海線。

その他、諸汽船會社の大連大沽線、芝罘安東線、芝罘貔子窩線、芝罘大連線、大連龍口線、上海天津線等あり。

(一六) 滿洲の住民。

人口約一千六百萬(日本の約六分の一)にして、漢族(その過半を占め、通古斯族(滿洲)これに次ぐ)これ滿洲人が現今の清朝を組織するに及びて、漸次南移し、山東省、山西省等の住民の却て北住せし結果に外ならず。滿洲人は、自ら騎人と稱し、移住漢人は、これを民人といへり。もと長城以外に住せし慍悍の民族にして、騎射を善くし、牧畜、漁獵を事とし、が今は支那本部に移住して、漢人と血族混淆せしかば、風俗容貌等これと大差なきに至れり。現時、滿洲の主要なる都市は、概ね開放せられたるを以て、我が國人(約三萬人)等移住し、新市街を興し、もの少からず。我が租借地、關東州地方には、日本人約四萬人あり。

(一七) 滿洲に於ける日本領事館の所在地。

- (1) 總領事館……哈爾濱、開島、龍井村、奉天。
- (2) 領事館……安東、遼陽、長春、鐵嶺、吉林、齊々哈爾、牛莊。
- (3) 領事分館……局子街、頭道溝、新民、琿春。

(二八) 日清條約上開かるべき滿洲の都市。

明治三十八年十二月二十二日締結せる日清條約によりて、清國は、外國人の居住及び貿易の爲めに、鳳凰城、遼陽、新民、鐵嶺、通江子、法庫門(以上盛京省)、長春(寬城子)、吉林、哈爾濱、寧古塔、琿春、三姓(以上吉林省)、齊齊哈爾、海拉爾、愛琿、滿洲里(以上黑龍江省)の十六都市を開くべきことを約せり。

(二九) 滿洲に於ける我が警務署所在地。

- (1) 警務署……營口 遼陽 奉天 鐵嶺 長春 安東。
- (2) 同支署……瓦房店 大石橋 撫順 公主嶺。

(三〇) 滿洲と歴史。

滿洲は、史上關係多き地にして、肅慎(息慎、靺鞨(後の女真)、渤海、遼(初め契丹)及び清(初め金)等は、こゝに建國せしものなり。清の愛親覺羅、奴爾哈赤は、兵を赫圖阿刺(興京)に起し、瀋陽(奉天)に即位せり。これを清の太祖と稱す(清と號せしは、一六三六年(寛永十三年)次で世祖は順治元年(一六四四年)正)十月、都を北京に定めし以來、今日に及べり。

第二章 南滿洲鐵道地方

(一) 南滿洲本線鐵道地方の都邑(除關東州)。

(二) 盛京省及び吉林省に於ける著るしき都邑。

(1) 得利寺……遼東半島の西部、日露戰役の激戰地にして、その西、復州は、石炭、鹽を産す。

(2) 熊岳城……遼東半島の北西部、南滿洲第一の米産地にして、豆粕、梨、葡萄と共に、これを營口、蓋平に輸送すること少からず。その近海には、石首魚の漁利多し。我が國人の經營せる鉛鑛山(含)及び熊岳城温泉(硫黄)は、その近傍に在り。

(3) 蓋平……遼東半島の北西部に位する柞蠶絲の集散地なり。

(4) 大石橋……南滿洲本線、營口支線兩鐵道の分岐點及び營口、遼陽、柞木城、蓋平に通ずる衝路に當たりて、將來有望の地なり。この地方より石材、鹽を産し、娘々廟(海邊)といひその會式の盛なること遼東比なし)の古刹あり。

(5) 營口(五、〇)……遼河下流の左岸(河口より約十四哩、遼河の吐)に在る滿洲第一の開港場(一八六〇年即ち咸豐十年、英清條約によりて開きしは、約五十哩の上流地、牛莊といひしが、一八六三年その開港に遼東を離れ、營口に領事館を移し、これを牛莊といひし)

- り今尙ほ俗に營口を牛莊と稱するに至れ)にして、豆、粕、大豆(共に日本に輸出せ)、豆油(この地はまた營子口鎮海營の名あり)にして、高粱、藥材、獸皮等、滿洲重要産物の輸出極めて多く、上海、天津、横濱等に汽船を通ず。されども冬季百餘日間海水氷結するの缺點あり。また營口支線を以て、南滿洲鐵道に、溝營支線(清)を以て京奉鐵道に連絡す(距大連二〇五哩)。清國道臺衙門、海關、外國領事館(日、米、英、荷、佛、露)、我が警務署、正金銀行支店、露清銀行等ここに在り。
- (6) 海城(一〇)……牛莊と柞木城との間に在り。牛莊蓋平、田庄臺等と共に、我が國近時に於ける對外の古戰場にして、我が同胞の移住者多し。北方には、湯崗子温泉(亞爾泉)、千山の奇勝(遼西の醫巫闔山と共に滿洲の二名山と稱せられ香巖、祖あり。北東には、遼龍泉、中會、大安の五大禪寺あり。殊に龍泉寺最も著はる)あり。北東には、日露戰役の激戰地、摩天嶺の險あり。
- (7) 遼陽(四〇)……太子河畔に於ける滿洲舊都の一。唐虞三代の頃は、禹貢青州の地、朝鮮に屬せし時代には、高句麗城ありし所。清朝の初めには、その都たりし所(址は、東河右岸に在り)にして、城廓に六城門を設く。日本町には、我が領事館、兵營等あり。この地、滿洲産物(大豆類、麥)の二市場にして、その繁榮奉天に次ぎ、汽車及び舟楫の便あり(距大連二〇八哩)。白塔は、喇嘛教の塔を以て、首山(手山)は、日露戰役の激戰地を以て著はる。北方の龍王頂山より石材、石灰を産す。

- (8) 煙臺……滿洲屈指の炭坑(發見)所在地。北方の萬寶山、沙河近傍は、日露戰史上に名高し。
- (9) 奉天(二七〇)……奉天(盛京古)は、盛京省奉天省の中部、渾河の西、瀋河の畔に位する。滿州の最大都會及び中央大市場(大豆類、獸皮、麻、蠶)にして、清朝發祥の地なり。府は内外の二城に分たれ、四方に八門を設く。また滿洲政治の大中心にして、東三省總督及び奉天巡撫の衙門、東三省鹽務總局、日本總領事館(また英、米、露、獨の領事館あり)、日本警務署(數多の在留等あり。金鑾殿(崇德二年建)は、壯麗を以て知られ、福陵(東陵といひ、日本人あり)及び昭陵(北陵といひ、太宗の陵)は、永陵と共に滿洲の三陵と稱せらる。京奉鐵道、清國及び安奉線鐵道(日本)は、左右より來たり、この地に於て、南滿洲本線鐵道と合す(距大連二)。その東方の興京は、清の太祖勃興の地、西方の新民には、日本領事分館あり。
- (10) 撫順……撫順支線の終點にして、奉天の北東に位する東洋屈指の大炭田地なり。一ヶ年間採掘の炭量約一千萬噸(日本採炭量の五分の二)に上りて、炭脈南北約一里、東西約五里、炭層の厚さ平均百三十尺あり。現時、日本人の採掘するもの千金寨、楊白堡、老虎臺等の七坑あり。明代建立の撫順城、その附近に在り。
- (11) 鐵嶺(三〇)……遼河邊に位する滿洲古都(昔時銀州といひ、明の洪武二十六年創建)の一にして、四城門

の設あり。その北西の通江口(遼河航行極限地)と共に大豆の集散地をなす。通江口の附近には、蒙古との貿易地、法庫門あり。鐵嶺には、日本人の在留するもの多く、日本領事館あり。慈清寺(遼東の龍首山に在る明代の名刹にして、三清觀の古塔あり)、圓通寺(唐代の古刹にして、十三級の白塔あり)は、壯麗を以て著はる。

(12) 開原(三〇)……盛京省の北部。鐵嶺、昌圖、法庫門、通江口の通路に當たりて、大豆、豆粕の取引多し。その古城(明の太祖洪武二年創建)には、五門を設く。またその北方に明代設置せし長柵ありて、東西北の三方に向ひ、蜿蜒として走り、開原の北に威遠邊門を置く。

(13) 昌圖(一五)……開原の北西に位する大豆産地の中心にして、附近に雙樹子梅林と日露戰地、鉢卷山とあり、我が國こゝに奉天總領事館出張所及び兵營を置く。その西、通江口(營口より約一六〇哩)は、遼河舟運の終點にして、もと大豆の大集散地たりしが、鐵道開通以來、その勢、頓に衰へたり。

(14) 四平街(二〇)……農産物の集散地にして、日露戰役後、第一次兩國委員の會見地を以て知られ、所謂四平街覺書に調印せしは、この地なり。我が國の守備隊あり。

(15) 長春(五〇)……南滿洲本線鐵道の最北終點にして、露國東清鐵道寬城子支線の寬城子と相連絡す。北滿洲の一商業地(主に大豆類、獸皮)にして、農産地の中心たり。吉

長鐵道この地より起りて、將に北東約三十五里の吉林に通せん。日本人のこの地に移住するもの七八千人あれば、日露兩國の領事館、日本守備隊兵營、日本警務署、露清銀行の設あり、その東に石碑嶺及び陶家屯の炭坑(共に日本採掘)あり。

(三) 吉長及び吉會兩鐵道地方の都邑

(四) 間島地方

(1) 吉林(二三〇)……吉林省の首府にして、松花江(古の混同江)の航行極限に位し、北部滿洲に於ける工業の中心なり。煙草(吉林煙草の名あり)、麻毛皮、木材の貿易盛に行はれ、日本領事館あり。

(2) 間島……圖們江及び松花江、牡丹江(共に黑龍江の支流)の間に介在する地域(面積一五八七は稍大)にして、圖們江の支流、嘎呀河、艾河、布爾哈通川、海蘭河等の流域には、小低原あれども、概して山地多し。氣候は、寒列にして、一ヶ年の平均氷點下二、七(四月下二月一五)、雨量は、五、二、六、耗にして、北朝鮮と同じく少し。住民、清韓人は、殆んど農業を營むを以て、農産物(粟、大豆最も多く、高粱、麥)最も多し。畜産(牛、豚、馬)、林産、工業(高粱酒、豆、これに次ぐ。鑛業(砂、金、石)もまた前途有望なり。

間島に於ける政治及び商業上の二大市街を龍井村(日本總領事館あり)及び局子街(日本領事館あり)

あり)とし、木材、粟、大豆、高粱酒等の取引行はる。頭道溝(分館あり)これに次ぐ。龍井村……會寧の北十三里、六道溝の海蘭河に注ぐ所に在りて、交通便なり。局子街……龍井村の北東五里、布爾哈通川の左岸に在り。

(五) 安奉線鐵道地方の都邑。

- (1) 本溪湖……遼陽の東十五里、太子河の右岸に在り。丘陵性の山岳に圍まるゝ要地にして、高粱、大豆、石炭(大倉炭)鐵(頭道溝)産地の中心なり。附近には、日露兩軍の沙河會戰に於ける戰場散在す。塔山、兜山、唐家臺、歪頭山、旭山(明治三十七年七月十八日)等の如し。
- (2) 連山關……細河の上流地に在り。安東、遼陽街道の都邑にして、薪炭の産出多し。西方に、日露兩軍の激戰地、摩天嶺(明治三十七年七月十八日)あり。分水嶺は、安奉鐵道線路中に於ける最高地にして、鴨綠江及び遼河兩流域の分水界をなし、石綿、雲母を産す。東方の草河口は、安奉線鐵道の殆んど中央部に在り。薪炭、柞蠶絲、穀類、賽馬、集は、石炭鐵産地の中心なり。
- (3) 鳳凰城……驪河の流域に位する都邑にして、大豆類、高粱、柞蠶絲、薪炭、木材の取引多く、唐の太宗の高麗征討の時、軍を屯せし所なりといふ。北西方に安奉線鐵道中の最難關、黑坑(大房身嶺の中腹に在り。秋水莊と鷄冠山との間)あり。南東に邊柵六邊門(威遠、英順、旺盛)の一なる高麗邊門あり。この地方より大豆、高粱を出だす。

- (4) 安東(二〇)……鴨綠江下流(約十里)の右岸に位する開港(主に木材、大豆類)にして、朝鮮の新義州と相對し、安奉、京義兩鐵道の連絡船常に往來す。この地は、古の沙河鎮(或は沙河子)にして、明治九年の開市にも拘らず、木材の大市場として、大東溝開港、大孤山等の繁榮を奪ひ、滿洲東部第一の都會となれり。日、英、米の領事館、日本人專管居留地、日本警務署、日本守備隊營及び鴨綠江採木公司(日清合同)清國の道臺衙門海關等こゝに在り。
- (5) 大孤山……大洋河口附近に在る黃海岸屈指の良港にして、大東溝、金州、岫巖(柞蠶絲の産地)鳳凰城等に大道路を通ず。花園口は、日清戰役の際、明治二十七年十月廿四日我が第二軍の上陸せし所を以て名高し。

第三章 關東州總論

(一) 關東州の位置。

我が國の租借地、關東州は、滿洲盛京省の極南部に位する金州半島の地なり。東は、黃海に面し、西は、渤海灣に臨み、直隸海峽(約八〇哩)を隔て、清國の山東半島(山東省)と相對

して、渤海の口を扼し、頗る要害の地を占む。

(二) 關東州の廣表。

關東州は、東經一二〇度五八分より起りて、同一二三度一六分に終り、北緯三八度四二分より始まりて、同三九度二八分に盡き、東西に長くして南北に短し。總面積二一八方里(伊豆半島の約二倍。本州二〇二方里、五島七方里、長山列島九方里)これを南樺太と比すれば、約その十分の一に過ぎざれども、その價值より論ずれば、到底南樺太の及ばざる所なり。

(三) 關東州の沿革。

關東州は、日清戦争後、明治三十一年露國これを清國より租借して、鐵道を敷設し、旅順、大連の兩港を改修し、大に舊來の面目を改めたりしが、日露戦争の結果、ポーツマスに於ける日露講和條約(明治三十八年九月十五日)及び日清條約(同十二年十二月)によりて、我が國は、露國に代りて、これを租借し、併せて長春以南旅順及び大連に至る鐵道及び支線(南滿洲社目下これを經營す)を得、また安奉鐵道等を敷設するの權を收めたるものなり。

(四) 關東州の地勢。

滿洲の南西部に於て、遼東半島の骨軸をなし、黄海及び渤海の兩斜回を分てる摩天嶺山脈(千山山脈)の支脈、南走して關東半島の脊骨を成し、金州に至りて、大赫山(大和尚山と尚)

(高さ二千餘尺)となり、金州地峽を経て、南山、南關嶺、安子嶺、大孤山、老鐵山、黄金山等を起し、その餘脈、海に没して、直隸海峽の廟島列島となる。海岸には、小低原あるも、概して山地多く、河川の著るしきものなし。

(五) 關東州の海岸。

金州地峽以南の海岸は、殊に屈曲に富み、大連灣(北の船澳、手澳、ピクトリアの三灣を總稱す)及び旅順灣の二大灣入あり。これ等の灣内には、旅順(軍港)及び大連(ピクトリア灣に在る商港)の二大良港ありて、軍事及び商業上、重要な位置を占む。

(六) 關東州の島嶼。

島嶼の主なるものには、黄海に長山列島(大小の長山島、廣鹿島、棒島等十七島より成る)、海洋島あり。海洋島の附近は、日清戦役の際(明治二十七年)、我が海軍の清國艦隊を撃破せし所なり。大連灣の口に三山島あり。渤海灣に五島(平島、駱駝島、交流島、鳳鳴島、西中島)あり。殊に鳳鳴島(約三方里)、西中島(同上)、大長山島(約二方里)を大なりとす。

(七) 關東州の氣候。

氣候は、寧ろ大陸的にして、一月を最寒とし、旅順、大連地方は、氷點以下五、六度に下り、海水の氷結する所あり。八月は、最高温度を呈して、二十四度に上る。冬は北風吹き、夏は

南風多し。雨量は、三月に少くして、七月に多く、約五百耗前後あり。これを我が國の雨量に比すれば、甚だ少くして、最少雨地方に属す。

旅順	大連	營口	奉天	長春
八月氣温	二九・五	三〇・八	三一・〇	三三・四
一月氣温	一四・六	一五・六	二二・二	二七・六
平均氣温	一〇・一	一〇・二	八・〇	六・六
降水量	五七・四	七二・七	六一・五	五九・一
降雨日數	六七	六五	八四	九四
同降霽日數	二二	二六	二八	二七
同降霧日數	四六	五八	八〇	一一三
				一〇二

(八) 關東州の重要産物及び産地。

- (1) 水産……鱈、鯛、大刀魚、鱈、鱈(近海)、鹽(鏡子窩、五島、内地人の従事す)。
- (2) 工業……セメント(大連、地方)、煉瓦(馬家溝、地方)、豆油及び豆粕(小崗子、營口)。
- (3) 畜産……牛(北東)、豚(上)。
- (4) 農産……米(北東)、高粱(上)。

(九) 關東州の貿易。

(一〇) 關東州の開港場。

關東州の總貿易額は、約七千萬圓(内地間約七分の四を)にして、輸出入の額殆ど相等し。これを朝鮮と比較すれば、朝鮮は約その七分の五に當たれり。開港場には、大連(英、米、露)。

り館)及び旅順あり。

- (1) 重要輸出品……大豆(輸出額の約三分の一)、豆粕及び豆油(上)、柞蠶絲……主に内地、清國。
- (2) 重要輸入品……綿布(輸入額の約十分の一)、米、木材、機械類、卷煙草……主に内地、清國。

(一一) 關東州の住民。

關東州の人口は、四十餘萬人あり。その大部分(約三十萬人)は、清國人にして、主に北東部に住す。内地人は、主に南西部の大連、旅順地方に住して、その數約四萬人あり。されども州外の南滿洲地方に住するものを合算せば、約七萬人に上るべし。

(一二) 關東州の政治。

(一三) 關東州の區劃。

我が國は、旅順に關東都督府を置き、都督をして政務及び軍務を總べしむ。更にその下に民政署及び支署を置きて、管内の政務を行はしむ。また州外の南滿洲鐵道附近の地には、警務署を營口、遼陽、奉天、鐵嶺、長春、安東等に置き、支署を瓦房店、大石橋、撫順、公主嶺等に設く。

民政署	管轄區域	支署	出張所
旅順	南西部	金州	普蘭店、鏡子窩
大連	北東の大部		

第四章 關東州各論

(一) 關東州の都邑。

- (1) 旅順(二〇)……金州半島の南西端、旅順灣に在る軍港(西港にして東、西)及び商港(東港にして威海衛軍港)にして、東(舊)西(新)の兩市街より成り、鐵道を以て大連と相通ず。この地老鐵山、黄金山等の丘陵殆んど四面を圍み、遼東半島第一の要害をなし、日清戰役(明治二十八年)及び日露戰役(明治三十八年)の激戰場にして、盤龍山、鷄冠山、二龍山、望臺、松樹山、椅子山、黄金山、老鐵山、二百三高地などいへる砲臺の名は、今尙ほ世人の耳朵に存する所たり。またその口外は、我が艦隊の大に露國艦隊を苦しめたる所とす。關東都督府、海軍鎮守府、要塞司令部、憲兵隊本部、兵器廠、民政署、高等法院、地方法院、工科學堂、表忠塔(白玉山)等あり。また附近に水師營(もと清國北洋水師開城の際、日露兩龍眼(旅順水道の要地)あり)雙溝臺(日清日露兩將の合見せし所)龍眼(旅順水道の要地)あり。
- (2) 臭水子……南滿洲本線及び旅順支線の分るゝ所にして、大連灣に臨み、附近の地方より煉瓦、セメントを産す。北東に老龍頭砲臺址、南關嶺(金州城南の關門)あり。西方に烟臺(唐太宗高麗征討の遺跡)あり。

(3) 大連(五〇)……清國人の所謂青泥窪、露國人のダルニー(DaLiny)にして、明治三十一年露國の建設せしものなれども、同三十七年五月我が國こゝに軍政を布き、翌年二月大連と改稱し、六月關東民政署を置きしものとす。大連は、金州半島の南東、大連灣中のピクトリア澳頭に位する開港場(主に大豆類、棗關東州の最大都會にして、營口(俗稱)と共に滿洲の二大貿易地と稱せられ、南滿洲鐵道この地より起りて北進す(内地より滿洲に入る一門戸にして)市街は、歐羅巴街、支那街に分たれ、中間に大公園を設け、電車の便あり。民政署、海關、南滿洲鐵道會社、英米露の領事館、守備隊營等ありて、附近の小崗子(二)と共に豆粕、豆油を産す。

大連より各地に至る距離……芝罘(九二) 營口(一八〇) 太沽(二二五) 龍巖浦(二四七) 新義州(一六〇) 七川(二八七) 下關及び門司(六四〇) 航海二晝夜を要す。

(4) 柳樹屯……大連灣に臨める舊市街地にして、日清戰役に我が軍の上陸せし所、また一八六〇年(英佛同盟軍の北京に逼りし時、占領せし所にして、昔時、金州半島唯一の良港たりしものなり。

(5) 金州……金州地峽に位する都邑(もと海軍ありし)金州灣に臨み、往時、遼東半島施政の中心となり、支那歷朝、遼東の重鎮として、意を注ぎし所にして、古城廓(周三)

